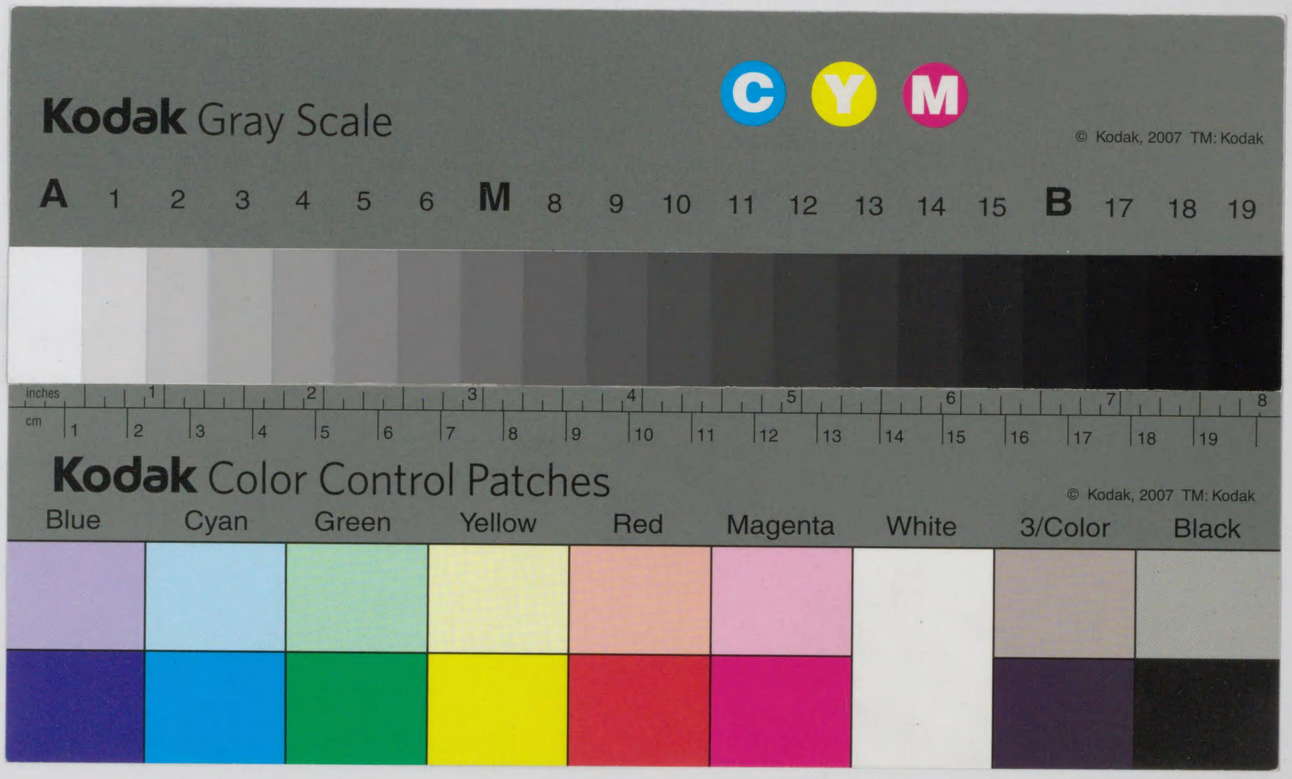

576
141
576-141
12005015201135

産業方針調査書

佐世保市

576-141

緒言

近時本市ノ産業ニ關シ之カ方針確立ノ必要ヲ唱フル聲漸ク高ク市當局ニ於テモ其ノ方針ヲ確立シテ之カ振興ヲ企圖スルヲ以テ現下ノ情勢ニ照シ喫緊事タルヲ痛感シ大正十五年度ヨリ之ニ關スル豫算ヲ計上シ夫々係員ヲ任命シ其基本調査ニ着手シタリ。昭和貳年末大体ノ基本調査ヲ終リタルヲ以テ各業態別ニ將來方針ニ關スル研究ヲ遂ゲ案ヲ具シテ昭和參年六月拾壹日ヨリ之カ諮問ノ産業調査會ヲ開キ同委員會ハ十數回ニ渉リテ各部ノ審議ヲ累ネ成案ヲ得テ茲ニ本書ヲ上梓スルニ至レリ

本書ハ本市産業ノ各方面ニ渉リ現狀ヲ明ニシ將來方針ノ確立ニ關シ舒述スルコトニ努メタリ然レトモ關係廣汎ニシテ未ダ微細ヲ盡サヾルノ点尠シトセズ又各種事業ノ實現ニ就テハ自ラ緩急アルヘク且ツ實行ノ具体案ニ至リテハ更ニ詳細ナル調査ヲ要スルモノアルヘシト雖モ據テ以テ本市ノ奬勵方針トナシ一面ニ於テ當業者ノ參考ニ資セントスルモノナリ

昭和三年八月

佐世保市

佐世保市産業方針調査諮問案

目次

第一部　農業
第二部　商工業
第三部　水産業
第四部　林業

第一部　農業

第一、普通農事

一、農業經營……農　一
一、現況……農　一
(一)地勢及土質
(二)氣候
(イ)氣溫
(ロ)天候
(ハ)濕度及雨雪量
(三)土地
(イ)土地及面積
(ロ)本市民ノ他町村ニ所有スル土地
(ハ)他町民ノ本市內ニ所有スル土地
(ニ)耕地使用狀態
(ホ)耕地使用擴張見込反別
(ヘ)耕地使用面積別割合
(ト)水稻裏作ノ種類別作付狀況
(四)農民
(イ)專業兼業別農戶數
(ロ)自作小作別農戶數
(ハ)農戶數ト耕地トノ割合
(五)生產ニ要スル費用
(イ)諸經費
(ロ)肥料
(六)農產物總收穫高
農業ノ將來
二、農業組織及經營方法ノ改善奬勵方針……農　一四
(一)組織ノ複雜化
(イ)組織ノ態樣
(ロ)副業ノ奬勵
(二)經營法ノ改善
(イ)水稻裏作ノ改善
(ロ)宅地空廢地等ノ利用
(ハ)優良品種ノ撰擇及輪作法ノ改善
(ニ)勞力ノ節約利用
(ホ)肥料ノ自給策並施肥法ノ合理化
(ヘ)農業經營並農業經濟ノ研究改善
(三)經營方法改善奬勵上施設ヲ要スル事項
(イ)優良農具ノ普及

(ロ) 團体作業ノ奨勵
(四) 自作農維持創設
(五) 園藝試驗場ノ建設
二、農産物……農 一六
一、主要食料農産物……農 一六
(イ) 米……農 一六
一、現況……農 一六
(一) 作付反別收穫高
(二) 米ノ栽培法
1 主ナル品種別普及狀況
2 苗代
(イ) 苗代整理
(ロ) 下種量
(ハ) 下種期
(ニ) 肥料
(ホ) 管理
(ヘ) 病害虫
3 本田
(イ) 肥料
(ロ) 植付期
(ハ) 除草
(ニ) 病害虫
(ホ) 收穫
二、將來ノ米作奨勵方針……農 一八
(一) 生産力ノ增進
(二) 優良品種ノ普及
(三) 耕種法ノ改善
(四) 病害虫ノ驅除豫防
(五) 乾燥調製及俵裝ノ改善
(六) 販賣法ノ改善
(ロ) 麥……農 一九
一、現況……農 一九
(一) 作付反別收穫高
麥ノ栽培方法
1 主ナル品種別普及狀況
2 敷地
(イ) 下種
(ロ) 肥料
(ハ) 管理
(ニ) 病害虫
二、麥作奨勵方針……農 二一
(一) 水田裏作ノ普及
(二) 優良品種ノ普及
(三) 耕種肥培法ノ改善
(四) 乾燥法ノ改善
(五) 病菌害虫驅除豫防
(六) 販賣法ノ改善
(ハ) 甘藷……農 二一
一、現況……農 二一
(一) 作付反別收穫高
甘藷栽培方法
(イ) 品種
(ロ) 苗ノ育成
(ハ) 植付
A 時期
B 地拵
(ニ) 肥料
(ホ) 手入
(ヘ) 收穫
二、甘藷作勵方針……農 二二
(一) 優良品種ノ普及
(二) 耕種法ノ改善
(三) 早生甘藷作付奨勵
(四) 販賣法ノ改善
二、食用農産物（雜穀）……農 二三
一、現況……農 二四
二、將來ノ奨勵方針……農 二四
(一) 優良品種ノ普及
(二) 耕種肥培法ノ改善
(三) 乾燥調製ノ完全
三、園藝農産物……農 二五
(イ) 果樹……農 二五
一、現況……農 二五
(一) 栽培沿革
(二) 果樹數及生産額
(三) 品種別普及狀況
(四) 植付ノ方法
(ロ) (イ) 果樹園ノ位置及開墾ノ方法
(ロ) 樹數
(五) 果樹園ノ手入
(イ) 整枝剪定ノ方法
(ロ) 中耕除草
(ハ) 間作
(ニ) 袋掛
(六) 病害虫ノ種類及被害ノ程度
(七) 收穫
二、果樹栽培奨勵方針……農 二九

(一)部落ニ適應スル果樹ノ增殖
(二)有望果樹ノ普及統一
(三)苗木ノ撰擇
(四)既成果樹ノ整理有望品種ノ更新
(イ)果樹更新
(ロ)既設果樹園ノ整理
(五)經營方法ノ改善
(六)施肥法ノ改善
(イ)施肥量ノ增加
(ロ)肥料養素配合ノ適度
(ハ)柑橘類ノ施肥
(七)病害虫ノ驅除豫防
(イ)驅除豫防上ノ研究改善
(ロ)有益菌虫ノ繁殖利用
(ハ)驅除豫防用器ノ定備
(ニ)病害虫ノ傳播防止
(ホ)共同作業ノ奬勵
(八)管理法ノ改善
(イ)整枝及摘果ノ合理化
(ロ)果樹園ノ間作
(ハ)中耕除草
(ロ)蔬菜……農 三一
一、現況……農 三一
(一)作付反別生産額
(二)蔬菜ノ栽培方法
甲、普通栽培
(イ)主要蔬菜ノ品種別普及狀況
(ロ)蔬菜ノ肥料
(ハ)病害虫
乙、不時栽培
A、促成栽培
(イ)沿革
(ロ)促成蔬菜ノ生産
(ハ)設備
(ニ)栽培ノ方法
1 發熱物
2 管理
(ホ)收穫
(ヘ)病害虫
B、抑制栽培
(イ)抑制蔬菜ノ品種
(ロ)栽培概要
二、蔬菜栽培奬勵方針……農 三六
甲、普通栽培
(一)種類ト適地
(二)有望品種ノ栽培增殖
(三)輪作法ノ改善
(四)水稻裏作ノ改善
(五)施肥法ノ改善
(六)病害驅除豫防
(七)種子ノ交換改良
(八)加工方法ノ研究改善
乙、不時栽培
A 促成軟化蔬菜
(一)設備ノ改善普及
(イ)温床ノ擴張及温室ノ建設
(ロ)補温設備ノ研究改善
(二)有望種類ノ栽培統一
(三)販賣方法ノ研究改善
(四)栽培管理法ノ研究改善
B 抑制栽培
(ハ)花卉……農 四〇
一、現況……農 四〇
二、栽培奬勵方針……農 四〇
四、特殊農産物……農 四一
一、現況……農 四一
二、奬勵方針……農 四二

第二、畜産業

一、牛……農 四二
一、現況……農 四二
(一)畜牛頭數
(二)畜牛ノ系統
(三)飼育狀況
(イ)方法
(ロ)飼料
(ハ)牛ノ使役
二、奬勵方針……農 四四
(一)早熟性種ノ飼育
(二)酪農ノ普及改善
(三)乳牛品種改善
(四)農使役ノ飼育改善
(五)畜牛衞生及管理方法ノ改善
二、馬……農 四四
一、現況……農 四四
二、將來ノ方針……農 四五
三、豚……農 四五
一、現況……農 四五

(一)(二)(三) 豚頭數 豚ノ系統 飼育狀況
二、奨勵方針……農 四六
(一)(二)(三)(四) 種牡豚ノ檢査實施 養豚組合組織 仔豚ノ生産增加 去勢勵行
四、山羊……農 四七
一、現況……農 四七
二、奨勵方針……農 四七
(一)(二) 副業的飼養奨勵 乳肉ノ消費宣傳
五、家禽……農 四八
一、現況……農 四八
(一)(二)(三) 家禽飼育狀況 養鷄ノ種類別普及狀況 繁殖ノ方法
二、奨勵方針……農 四九
(一)(二) 多産卵系種ノ繁殖普及 副業的飼養奨勵
(三) 種類ノ統一
六、畜産物ノ需給狀況……農 四九
一、現況……農 四九
二、將來ノ方針……農 五〇
第三、農業奨勵並施設事業
一、現況……農 五〇
(一)(二) 奨勵施設ノ方法 成績概要
(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ) 溫床設置奨勵 噴霧器購入 枇杷苗配布 果樹更新 種子配布
(三) 農事團体ニ對スル市ノ奨勵
1 團体及補助狀況
2 農事組合團体
(イ)(ロ) 市農會
(ロ) 果樹病害虫防除組合
一、驅除樹數
二、驅除人員
三、藥液使用量
四、効果
(八)(ニ) 農事改良實行組合 養蠶組合
二、將來ノ方針……農 五四
農事組合團体奨勵方針
(イ) 市農會
(甲) 生産的方面
(一)(二)(三)(四)(五) 米麥種子ノ更新 肥料增施及使用法ノ改善 病害虫防除法ノ徹底 裏作ノ普及改良 園藝業ノ改善
(乙) 經濟的方面
(一)(二) 共同事業ノ普及奨勵 生産費ノ節減指導
(丙) 農民生活ノ改善
(一)(二) 農業住宅建築法ノ改善 宅地及庭園ノ整理利用
(丁) 市對農村トノ物資取引
(一)(二) 農業倉庫ノ建設 生産品共進會開催
(ロ) 果樹病害虫防除組合
(八)(ニ) 農事改良實行組合 養蠶組合
第四、農業教育
一、現況……農 五七
(一) 機關
(イ)(ロ) 農業補習教育 農事講習講話
(二) 教育ノ程度
二、將來ノ方針……農 五九
(一)(二)(三) 農業補習教育ノ振興助成 農業趣味教育ノ普及 農業部落ニ於ケル中心人物ノ養成
第五、蠶絲業
一、現況……農 六〇
(一) 養蠶業
1 養蠶戸數
2 飼育品種及產繭額
3 桑園反別
(イ) 畑總反別

(ロ)(ハ)(ニ) 桑園反別
一戶當植付反別
桑園ニ適當ト認メラル、畑反別部落別
4 繭ノ販賣力法
5 桑苗仕立本數
6 蠶種製造
7 蠶業教育
(二) 製絲業
1 現在製絲業者
2 製絲會社設立豫定地
二、奬勵方針……農 六三
(一) 養蠶業
甲、指導者ノ設置
乙 蠶業智識ノ普及
丙、桑園ノ改良新設
丁、蠶室ノ整備
戊、稚蠶共同飼育ノ奬勵
巳、優良品種ノ普及統一
庚、共同販賣
(二) 製絲業

商業

一、現況……商工 一
總論
(一)(ニ)(三) 商人
會社
物價
二、商業發展ニ對スル將來ノ方針商工 九
(一)(ニ)(三)(四) 離島取引ノ增進
滿鮮貿易ノ振興
百貨市ノ開設
商品陳列所ノ創設

第一、交通及運輸

甲 鐵道

一、現況……商工 十二
(一)(ニ) 鐵道乘降人員ノ狀況
鐵道便ニ依ル貨物移出入狀況
二、將來ノ方針……商工 十九
(一)(ニ) 鐵道未成線敷設並改善ニ關スル考慮
鐵道敷設ニ關スル考慮

乙 航路

一、現況……商工 二〇
(一) 汽船ノ部
(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ) 五島航路
長崎壹岐對馬釜山航路
平戶及大島生月航路
大村灣航路
大阪若津航路
大阪航路
(二) 發動機船ノ部
(三)(四) 船舶乘降人員ノ狀況
船舶便ニ依ル貨物移出入狀況
二、將來ノ施設改善方針……商工 三三
(一) 港灣設備
(イ)(ロ)(ハ) 市營棧橋ノ擴張
發動機船專用棧橋ノ新設
港內ノ浚渫
(ニ) 近海航路
(イ) 優秀船ノ就航

(ロ) 津吉直通航路ノ開拓
(ヘ) 上五島直通航路ノ開拓
(ニ) 五島航路ノ玉ノ浦延長
(ハ) 發動機船ニ對スル補助奬勵
(三) 遠海航路
(イ) 滿鮮航路ノ開拓
(ロ) 大連航路ノ開拓
(四) 其他
丙、其他ノ交通機關……商工 三六
一、現況
二、將來ノ方針……商工 三七
(一) 電氣軌道ノ敷設
(二) 自動車網ノ達成
第二 金融機關
一、現況……商工 三七
(一) 銀行
(イ) 普通銀行
(ロ) 貯蓄銀行
(二) 無盡會社
(三) 信用組合
(四) 質屋業
(五) 金錢貸付業
二、將來ノ金融改善方針……商工 五八
(一) 金融機關自体ノ活動上ノ改善
(二) 銀行利用者側ニ關シテノ改善
(三) 企業ノ指導上ノ改善
(四) 手形交換所ノ設置
第三 倉庫
一、現況……商工 六〇
二、將來ノ施設改善方針……商工 六一
(一) 施設上ノ改善
(イ) 位置
(ロ) 構造
(二) 營業上ノ改善
(イ) 證券發行上ノ改善
(ロ) 保管料諸掛ノ低減
(三) 其他ノ事項
(イ) 倉庫ノ賃借及出保管
(ロ) 佐賀米穀取引所ノ受渡指定
第四 公設市場
一、現況……商工 六三
(一) 沿革
(二) 監理ノ大要
(イ) 市場係員
(ロ) 販賣人選定方法
(ハ) 使用料徵收方法
(ニ) 物價調査
(ホ) 販賣價格決定方法
(ヘ) 宣傳方法
(三) 利用狀況
(イ) 利用者ノ階級
(ロ) 市場賣上高
(四) 公設市場ノ影響
二、將來ノ方針……商工 六八
(一) 設備ノ改善
(イ) 卸市場ノ改善
(ロ) 倉庫ノ建設
(二) 經營上ノ改善
(イ) 物價調査ノ勵行
(ロ) 商品仕入上ノ施設
(ハ) 宣傳上ノ施設
(ニ) 衛生上ノ施設
(ホ) 其他ノ施設
第五 各種實業組合
一、現況……商工 七〇
一 產業組合
(一) 沿革
(二) 事業ノ概況
(二) 同業組合準則組合
(一) 革沿
(二) 事業概況
(三) 任意組合
二、將來ノ針方……商工 七七
一、產業組合
(一) 組合設立上ノ指導奬勵
(イ) 事業其他ノ適否
(ロ) 組織
(ハ) 出資金
(ニ) 歟定
(二) 組合設立後ノ指導奬勵
(イ) 役員更迭上ノ注意
(ロ) 資金ノ充實
(ハ) 終營者養成
(ニ) 監督方法
二、同業組合同準則組合

(一) 事務上ノ指導奬勵
(イ) 役員ノ人選
(ロ) 事務ノ整理
(二) 事業上ノ指導奬勵
(イ) 物産ノ檢査
(ロ) 共同購入、共同出荷
(ハ) 其他ノ事項
三、 任意組合
第六 家庭副業
一、現 況……商工 八〇
二、將來ノ副業奬勵方針……商工 八二
甲 共同組織經營
(イ) 共同作業場ノ設置
原料共同購入
(ロ)(ハ)(ニ) 生產品ノ統一
原料及製品貯藏場ノ設置
乙 生產能率ノ增進
(イ) 器械器具ノ購入奬勵
講習會傳習會ノ開催
(ロ)(ハ)(ニ) 共進會展覽會品評會ノ開催
競技會ノ開催
丙 副業品販賣ニ關スル奬勵
(イ) 販路ノ維持及擴張
(ロ) 共同販賣
(ハ) 共進會展覽會品評會ニ對スル出品
第七 商工會議所
一、現 況……商工 八五
(一)(一) 沿革
(二)(二) 組織
(三)(三) 經費豫算
(四)(四) 目的
二、將來ノ事業施設改善方針……商工 八六
(一)(一) 商業上ノ問題
(二)(二) 水產金融ノ研究
(三)(三) 交通開發ノ方策
第八 工業
一、現 況……商工 八七
(一)(一) 工業戶數及從業員
(二)(二) 職工賃金
(三)(三) 工場燃料
(四)(四) 工場使用動力
(五)(五) 工產物生產額
(六) 工產物販路
二、工業發展ニ對スル將來ノ方針……商工一一〇
(A) 有望工業ノ種類
(一)(一) 水產製造工場ノ創設
(二)(二) 製絲工場ノ創設
(三)(三) 陶磁器製造所ノ創設
(イ)(ロ) 創設ニ際シテノ奬勵
創設後ノ奬勵
(四)(四) 小規模造船所ノ創設
(イ)(ロ) 創設ニ際シテノ奬勵
創設後ノ奬勵
(五)(五) 椿油製造所ノ創設
(イ)(イ) 製造上ノ奬勵
(ロ)(ロ) 販賣上ノ奬勵
(B) 一般工業發展方策
(一)(一) 工業教育ノ普及
(イ)(イ) 工業學校ノ設立
(ロ)(ロ) 徒弟學校ノ設立
(ハ)(ハ) 講習講話會ノ開催
(二)(二) 市民ノ投資心涵養
(三)(三) 企業家ノ誘致
(四)(四) 工場敷地ノ斡旋
(五)(五) 工業資金ノ低利融通
(六)(六) 產業奬勵補助規程ノ改正
(七)(七) 發明考案協會ノ事業充實
(八)(八) 實業視察團ノ派遣
(九)(九) 職工店員表章機關ノ設置
(一〇)(一〇) 博覽會共進會等ノ開催
(一一)(一一) 市民ノ本市生產品愛護心涵養
(二)(三) 販路ノ擴張
(イ)(イ) 出品協會ノ設立
(ロ)(ロ) 本縣勸業協會ノ利用
(ハ)(ハ) 販路調查
(ニ)(ニ) 懇話會ノ開催
(ホ)(ホ) 商況通報ノ印刷配付
(ヘ)(ヘ) 粗製濫造ノ防止
(ト)(ト) 海外駐在商況通信員ノ利用
(C) 結論

第三部　水産業
總說……水一
第一、漁撈
一、現況……水二
(一)漁業
(二)漁船
(三)漁網
(四)漁獲高
(五)主要漁業
(イ)沿岸漁業
(ロ)遠洋漁業
(ハ)出稼漁業
(ニ)小型發動機漁業
(ホ)定置漁業
(六)漁業ノ組織
(七)配給
二、漁獲增進ニ對スル將來ノ方針……水五
(一)基本調査施行
(二)鰛漁業ノ改善
(三)小型發動機鯛延繩漁業ノ普及
(四)定置漁業ノ普及
(五)配給機關ノ普及
第二、製造業
一、現況……水六
(一)製造業者
(二)製造高
(三)消費ノ狀況
(四)工場
(五)經營
(イ)資本
(ロ)原料ノ仕入方法
1、蒲鉾
2、削リ節
3、罐詰
4、海苔
5、平和ノ友
9、鯛ノ花
(ハ)製品取引方法
1、市內取引方法

2、市外取引方法
(二)荷造輸送ノ方法
1、蒲鉾
2、削リ節
平和ノ友
3、罐詰
4、海苔
5、鯛ノ花
(ホ)雇傭關係及給與方法
1、蒲鉾
2、削リ節
3、罐詰
4、平和ノ友
5、海苔
6、鯛ノ花
(六)水産倉庫
(七)氷藏庫
二、水産製造業ノ發展ニ對スル將來ノ方針……水 一一
(一)水産製造組合ノ活動援助
(二)販賣取引方法ノ改善
(三)製造方法研究ニ關スル考慮
(四)氷藏庫設置ノ奬勵
(五)水産品評會ノ開催並出品
第三、養殖
一、現況……水 一三
(一)淡水養殖
(イ)養漁池ノ面積
(ロ)場所
(ハ)構造
(ニ)放養量
(ホ)成育狀況
(ヘ)經營
(ト)飼料
(二)其ノ他淡水養殖
二、各種養殖事業奬勵方針……水 一五
(一)淡水溫水性池中養殖
(二)稻田養鯉ノ普及
(三)淺海利用
第四、水産金融
一、現況……水 一
(一)株式會社佐世保魚市場
(二)漁業組合
(三)蒲鉾業購買組合
(四)講
二、水産金融改善發達ニ關スル將來ノ方針……水 一八
(一)調査研究機關ノ設置
(二)倉庫ノ設置
(三)交付金制度ノ改革
(四)魚市場出入關係ノ漁業者ニ對スル金融
(五)取引業者ノ金融
第五、水産品ノ販路擴張
一、現況……水 二〇
(一)販路擴張方法
(イ)共進會博覽會ニ對スル出品
(ロ)販路ノ調査
(二)販賣取引方法
(イ)送荷方法
(ロ)仕切金期間
(ハ)代金取立法
(ニ)販賣手數料
(ホ)販路ヨリ投資關係及拂込方法
二、將來ノ方針……水 二三
(一)水産物ノ販路調査
(二)冷藏貨車
(三)消費地ニ對スル宣傳
(四)其他ノ事項
第六、魚市場
一、現況……水 二五
(一)沿革
(二)經營主体及組織
(三)取引高ノ狀況
(四)賣買方法
(イ)糶賣
(ロ)鍵取
(ハ)仲買人及小仲買人ノ賣買關係
(ニ)仕切
(五)集散ノ狀況
(イ)郡別水産物集合高
(ロ)地方別水産物消費高
(六)設備
(イ)糶場
(ロ)船溜

(ハ)貯藏設備
(ニ)事務所
(ホ)診療所
(ヘ)共同宿泊所
(ト)簡易食堂
(チ)浴場
(リ)給水部
(ヌ)相談所
(七)經營方法
株式會社魚市場
(イ)資本金
(ロ)流動資本及固定資本
(ハ)仲買人トノ取引關係
(ニ)業務執行機關
(ホ)仕切方法
(ヘ)漁業者優遇方法
(ト)小口資金貸出狀況
(チ)決算內譯
(リ)販賣手數料及市場使用料並歩戻
(八)碎氷魚箱供給ノ狀況
(イ)碎氷
(ロ)魚箱
(九)魚類輸送ノ狀況

二、魚市場新築並施設方針……水 三五
(一)移轉
(二)販賣手數料及市場使用料ノ低減
(三)其他ノ改善事項

第七、佐世保市水產會

一、現況……水 三七
(一)沿革
(二)施設
(三)經營
(イ)財源
(ロ)役職員
(ハ)特別議員
(ニ)評議員
(ホ)總代
(ヘ)委員
(四)會員

二、將來ノ施設改善方針……水 三九
技術員ノ活動援助
會員勸誘ニ關スル考慮
基本財產ノ造成
會員ノ港區內漁業ニ關スル考慮

第八、漁業組合

一、現況……水 三九
(一)沿革
(二)施設
(三)共同施設事業
(四)組合員數
(五)資金貸付事業

二、將來ノ施設改善方針……水 四二
組合ノ目的趣旨宣傳
優良組合ノ視察
共同一致ノ精神養成
基金及資金ノ蓄積
共同施設事業
組合事務整理
理事者及事務員研究會開催
組合監督ノ徹底
佐世保浦及日宇村兩組合ノ合併
(九)水產製造研究ノ狀況

二、將來ノ方針……水 四四
(一)水產教育機關ノ設置
(二)水產移動教室ノ開設
(三)水產講習講話會ノ開催

第九、水產教育

一、現況……水 四三
(一)奬學金ノ支給
(二)講習講話

第四部　林業

一、現況……林　一
(一)林地ノ狀態
(二)林木ノ狀態
(三)從來ノ取扱法
(イ)市營林ノ狀況
(ロ)竹林ノ狀況
(ハ)一般市有林野ノ狀況
(ニ)保安林ノ狀況
(四)其他ノ狀況
(イ)森林勞働者ノ關係
(ロ)森產物及運搬機關ノ狀況
二、將來ノ施業方針……林　六
(一)市營森林ノ經營方針
(二)竹林ノ奬勵
(三)一般私有林野ノ改良
(四)保安林ノ改良
(五)苗圃ノ新設
(六)其他ノ計劃
(イ)造林計劃
(ロ)林道ノ新設
(ハ)林產物ノ改良及奬勵

第一部　農業

第一、普通農事

一、農業經營

一、現況

(一)地勢及土質

市ノ東北ニ烏帽子岳聳エテ北ハ佐賀縣ト堺シ東ハ東彼杵郡早岐町ニ隣シ西ハ將冠弓張ノ峰巒起伏シテ西南ノ赤崎岳ニ連リ北松浦郡ト堺ス南ニ横ハルハ針尾島ニシテ大村灣ヨリ來ル風濤ヲ遮ル河川ハ二流アリテ一ハ烏帽子ノ東部ニ源ヲ發シ日宇新田ヲ潤シテ矢保佐ニ注グ即チ日字川之ナリ一ハ源ヲ烏帽子ノ西部ニ發シ山ノ田水源地ニ落チ餘水ハ南下シテ軍港ニ注グ即チ佐世保川トス地勢如斯ニシテ平坦地ニ乏シク畑ハ一般ニ急斜地多ク肥料運搬ニ耕耘ニ極メテ不便ナリ土地ハ烏帽子將冠岳ノ山麓地帶ハ壤土ナルモ其ノ他ハ瘠薄ナル砂質土ニシテ耕土一般ニ淺ク作物ノ生育概シテ良好ナラズ

(二)氣候

東北西ノ三面ハ山嶽ヲ以テ障壁ヲ造リ冬期ト雖モヨク寒風ヲ遮リ比較的溫暖ニシテ乾濕亦適度ナリ故ニ農作物ノ害ヲ被ルコト少ク又早春ヨリ地溫暖マリ蔬菜栽培等ニ最モ良ク適ス今明治二十七年以降大正十四年ニ至ル二十二ケ年間ノ氣象狀態ヲ記セバ左ノ如シ

(イ)氣溫　(攝氏)

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月

(ロ) 天候

月次	雪	霰	雹	雷電	霧	快晴	曇
一月	六	二		一	一	二	一三
二月	五	二		一	一	二	一三
三月	二	一		一	一	二	一四
四月	一	一		一	一	三	一五
五月					一	三	一五
六月						三	二〇
七月				一		一	一六
八月				二		一	一〇
九月				三		三	一三
十月				二		五	一〇
十一月	一			一		五	九
十二月	三	一				三	一三
一ケ年合計	一七	九		一二	一	三三	一六〇

一ケ月平均	最低	最高
五、九	二、二	一〇、三
六、〇	二、三	一〇、五
九、二	五、〇	一四、〇
一四、三	九、七	一九、四
一八、一	一三、五	二三、三
二一、八	一八、三	二六、〇
二五、七	二二、四	二九、九
二七、一	二三、四	三一、八
二三、五	一九、九	二八、一
一八、一	一三、九	二三、一
一二、七	八、六	一七、七
七、八	四、一	一二、六

(ハ) 濕度及雨雪量

月次	濕度	雨雪量 總量	雨雪量 廿四時間最大	暴風	霜	地震	雨、雪、霰、雹
一月	七三 %	二四、九 粍	六、八		九		一六
二月	七二	七〇、二	三〇、三		七		一三
三月	六八	五六、四	一三、三		四		一五
四月	七二	七一、七	三一、五				一四
五月	七八	二九八、一	一〇八、四				一三
六月	八〇	二九、一	一五一、四				一六
七月	七九	一七一、四	七二、八				一四
八月	七二	五一、三	二一、八				一二
九月	七八	三九三、〇	一九二、〇				一三
十月	七一	五四、二	四七、九				一〇
十一月	七四	九三、一	二〇、八				一二
十二月	七六	一三九、〇	二八、七				一四
全年	七四	一〇六、七	一九三、〇				一五九

(三) 土地

本市ノ土地總面積三千二百四十三町歩ノ中耕地面積ハ田六百十八町二反歩畑五百八十二町歩計一千二百町二反歩ニシテ現在耕作面積ハ田五百五十一町一反歩畑四百六十八町七反歩ニシテ計一千八十九町八反歩ナリ而シテ將來開墾又ハ耕地整理等ニ依リ擴張シ得ベキ耕地見込反別ハ田五十町歩畑百二十五町歩計百七十五町歩ナリトス

(イ) 土地面積

類別	民有地	公有地	合計
田	六、一八二 反	一 反	六、一八三 反
畑	五、八二〇	一	五、八二〇
山林	七、〇七八	三四七	七、四二五
原野	二、三八六	五七七	二、九六三
合計	二二、四六六	九二四	二三、三九〇

(ロ) 本市民ノ他町村ニ所有スル土地

類別	反別	地價	地租	備考
田	二、八四四 反	一〇八、八八一 円	四、八九九 円	全國的ニ調査スルコトハ困難ナルヲ以テ長崎佐賀兩縣ノミヲ調査セリ。
畑	九〇二	八、八三九	三九七	
山林	一、六六〇	一、二一〇	六六	

(ハ) 他町村民ノ本市内ニ所有スル土地

類別	反別	地價	地租	備考
田	四〇六 反	一三、三五五 円	五五六 円	本市民ニアラザル者ガ本市内ニ所有セル土地ハ全部之ヲ調査シタリ
畑	二八七	二、〇五三	九二	
山林	四七一	四二七	二五	
原野	八三	九	五	
合計	一、二四七	一四、八八四	六七三、五	

原野	三八九	三〇九	一七	
合計	五、七九五	一九、二二九	五、三七九	

(ニ) 耕地使用狀態

類別	使用總反別	一毛使用地反別	二毛使用地反別	三毛使用地反別	使用延反別
田	五、五一一 反	三、七三五 反	三、一七六 反	一、一一〇 反	八、〇三二 反

畑	四、六八七	
合計	一〇、八九八	一四、〇四六

(ホ) 耕地使用擴張見込反別

類別	作毛ニ依ル擴張反別	開墾又ハ耕地整理ニ依ル擴張反別	合計
田	二、六六八 反	五〇〇 反	三、一六八 反
畑	二、〇一三	一、二五〇	三、二六三
合計	四、六八一	一、七五〇	六、四三一

(ヘ) 耕地使用面積別割合

年次	五反歩未満	五反歩以上一町歩以上	二町歩以上	三町歩以上五町歩以上	合計
大正十三年末	一、一五六 戸	四五五 戸	二三二 戸	一八 戸 一五 戸 — 戸	一、八七六 戸
大正十四年末	一〇八三	五五三	二二八	一五 —	一、八九六
前二ヶ年増減	(一)七四	(十)九八	(一)四	— — —	(十)二〇

(ト) 水稻裏作ノ種類別作付狀況

種類別	作付反別	收穫高	價格
麥	七六三 反	一、一〇一 石	一六、五一五 円
綠肥作	一七九	四九九、五〇〇 貫	四、九九五
蔬菜	二四一	一二、二〇〇 貫	五、五一六
花卉	二	—	二、九二六
菜種	一〇	四五	一〇七
合計	一、二〇四	—	二九、六九四

(四) 農民

本市ノ農家戶數ハ專業農戶一千百四戶兼業農戶七百九十二戶計一千八百九十六戶ニシテ本市總戶數ノ一割ニモ滿タズ

今之ヲ自作小作農別ニ見ルニ自作農戶五百二戶小作農戶六百二十三戶自作兼小作農戶七百七十一戶ニシテ自作農家ハ農家總戶數ノ二割六分ヲ占ムルニ過ギズシテ本縣ノ三割八分ニ比シ其ノ數極メテ少ク小作農家ハ農家戶數ノ約三割三分ヲ占メ本縣ノ一割五分ニ比シ遙カニ多ク將來考慮ヲ要スベキナリ

更ニ又農家戶數ト耕地ノ割合ヲ見ルニ農家一戶當リ平均耕地面積ハ田二反九畝步强畑二反四畝步强計五反三畝步ニシテ本縣ノ一戶當リ平均八反五畝步ニ比シ少ナキコト約三反二畝步ニ及ビ耕地面積ノ如何ニ狹小ナルカヲ知

リ得ベシ

(イ) 専業兼業別農戸數

年次	總戸數	專業農戸數	兼業農戸數	農戸數合計
大正十三年末	二、五五〇	一、〇六四	八三	一、八七六
大正十四年末	三、五五二	一、一〇四	七九二	一、八九六
前二ヶ年增減	(十)一	(十)四〇	(一)二〇	(十)二〇

(ロ) 自作小作別農戸數

年次	自作農戸數	小作農戸數	自作兼小作農戸數	總戸數	總戸數ニ對スル農戸數割合
大正十三年末	五〇二	六二五	七五〇	二、五五〇	〇、〇八強
大正十四年末	五〇二	六二三	七七二	二、五五二	〇、〇八強
前二ヶ年增減	(十)一	(十)二	(十)二	(十)一	一

(ハ) 農戸數ト耕地ノ割合

類別	大正十四年		大正十三年	
總反別	一戸當反別		總反別	一戸當反別
田	五、五二	二、九強	五、五二	二、九強
畑	四、六八七	二、四強	四、六九七	二、五強
合計	一〇、一九八	五、三強	一〇、二八	五、四強

(五) 生産ニ要スル費用

農作物ノ生産ニ要スル費用ノ内種苗、肥料、農具其ノ他ノ器具代總額ハ十四萬一千九百八圓ニシテ肥料代ノ九萬五千八百八十九圓ヲ第一位トシ種苗代ノ三萬一千三百二十七圓農具器具代ノ一萬四千六百九十二圓之ニ次グリ今作物別ニ各所要經費概況ヲ摘記スレバ左ノ如シ

(イ) 諸經費

(大正十四年中)

作物別	作付反別	種苗 所要數量	種苗 價格	肥料 所要數量	肥料 價格	農具其ノ他 所要數量	農具其ノ他 價格	價格合計
	反	合	円		円		円	円
米	五、五二	二一〇、四四〇	七、七一五		四六、二九四		八、二六五	六二、二七四
麥	三、〇六四	一五二、一〇〇	二、一四五		一五、一一四		三、〇六四	二〇、三三三
大豆	九七六	四九、〇〇〇	九八〇		四、七八四		四八八	六、一五二
小豆	一七〇	三、〇〇〇	六九		八三三		八五	九八七
豌豆	七四	三、〇〇〇	六九		三六三		三三	四六四
蠶豆	八四	五、〇〇〇	八五		四二		四二	五三九
粟	二〇〇	二、〇〇〇	三〇		一、〇八〇		六〇	一、七〇
黍	二九	四三五	四四		一四三		九	一九六
蕎麥	三七四	一九、〇〇〇	二四七		七八六		一三	一、一四五

| | | |

麥糠	六、八〇〇										
雜油粕	一、七〇〇										
硫安	二、二〇〇										
過燐酸灰石	九、七二〇										
石灰窒素（五号肥料）	六〇										
調合肥料	一〇、六三〇										
石灰	四、二五〇										
人糞尿	二五三、二六〇										
魚腸骨汁	一三、八〇〇										
鶏糞	二〇、四〇〇										
蠶糞	六七〇										
紫雲英	五八、〇〇〇										
ザートウキツケン	三、〇〇〇										
蠶豆	三、三〇〇										
野草（生）	四六、五〇〇										
野草（乾）	一三、〇〇〇										
藁	二八、五〇〇										
青刈大豆	三、八〇〇										
草木灰	三、一一〇										
塵芥灰	二三、〇〇〇										
廐肥	一、三〇二、三〇〇										
堆肥	五九〇、三七五										
計	五、二六八、四七八										

耕地ハ使用方法ヲ周到ナラシメ作毛ノ增加ヲ圖ルニ於テハ耕地利用面積ノ增加實ニ四百六十八町歩トナリ其ノ生産價格ハ十七萬圓トナル又園藝作物ノ如キモ栽培方法ノ改善ニ依リ現在生産ノ五割米作其他特種作物ニアリテモ三割以上ヲ增加セシムベク將來左記要項ノ徹底ニ努メムトス

二、農業經營組織及方法ノ改善奬勵方針

近時農業組織ノ單純ナルモノハ動モスレバ農家經濟ノ安定ヲ缺クノ憾ナシトセズ而シテ本市ノ現況ヲ見ルニ農家一戸當耕作面積ハ年々縮少スル趨勢ナルヲ以テ他ニ適當ナル副業ヲ選擇結合シテ收益ノ增加ヲ圖ルヲ要スベク將來施設奬勵セムトスルモノ左ノ如シ

(一)組織ノ複雜化

(イ)組織ノ態樣

農業組織ノ態樣ハ五反歩內外ノ經營ニ於テ、園藝作ヲ主体トシ主穀作ヲ從トシ畜產其ノ他適當ノ副業ヲ加ヘ單純ナル農業組織ヨリ漸時複雜化セル組織ニ進ムルコト

(ロ)副業ノ奬勵

一町歩以上ノ經營ニ於テハ穀作ヲ主体トシ園藝作ヲ從トシ畜產、養蠶、養鷄、林業ヲ適當ニ按配スルコト

(二)經營法ノ改善

(イ)水稻裏作ノ奬勵

水稻裏作ヲ一層擴張シ蔬菜、菜種、綠肥、麥ノ作付ヲ增加スルコト

(ロ)宅地空廢地等ノ利用

宅地空廢地堤塘等ヲ充分利用シ農產ノ增加ニ努ムルコト

(ハ)優良品種ノ撰擇及輪作法ノ改善

畑ノ作物ノ種類及品種ノ選擇ヲナシ輪作法ヲ改善シ土地利用ヲ一層集約ナラシムルコト

(二)勞力ノ節約利用

(1)優良農具使用普及ヲ圖リ作業能率ヲ增進スルコト
(2)耕地ノ交換分合ヲ目的トスル耕地整理ヲ行ヒ耕作上ノ利便ヲ計リ勞力ノ冗費ヲ省クコト
(3)畜力ヲ利用シ勞力ノ節約ヲ圖ルコト

(ホ)肥料ノ自給策並施肥法ノ合理化

(1)堆肥廐肥ノ生產ヲ增シ且取扱法ヲ改良シテ肥料成分ノ消失ヲ防止スルコト
(2)水稻裏作及果樹園其ノ他ノ間作トシテ綠肥栽培ヲ爲スコト
(3)金肥購入選擇及養分ノ配合使用方法ヲ改善スルコト
(4)一般ノ作物ニ對シ施肥量ヲ增加スルコト

(ヘ)農業經營並農業經濟ノ研究改善

(1)農業經營上ノ計畫及實施方法記錄簿ヲ整備シ經營方法ノ改善ニ資シ經濟ノ向上ヲ計ルコト
(2)深耕施肥其ノ他ノ方法ニ依リ地力ノ增進ヲ圖ルコト

(三)經營方法改善奬勵上施設ヲ要スル事項

(イ)優良農具ノ普及

優良農具使用普及方法トシテ農具展覽會ヲ開催シ又ハ購入ニ際シテハ相當助成シ普及促進ニ努ムルコト

(ロ)團体作業ノ奬勵

農事改良實行組合其他適當ノ組合組織ヲ促シ團体ヲシテ部分的ニ或ハ全部的ニ共同實行セシムルコト

(四)自作農維持創設

産業組合ノ利用又ハ低利資金借入等ノ便宜ヲ計リ農業資金ヲ圓滑ナラシメ自作農創設維持ニ努ム

(五)園藝試驗場ノ建設

二、農　産　物

一、主要食料農産物

(イ)米

一、現　況

(一)米作付反別收穫高

米ハ本市農產物中ノ首位ヲ占メ其作付反別五百五十一町一反歩收穫高八千七百三十四石ニ上レリト雖モ本市消費ノ一部ヲ充スニ過ギズ年々十四五萬石ノ移入ヲナシツヽアル現狀ナリ反當收量ニ於テモ僅カニ一石五斗八升五合ニシテ本縣ノ平均一石七斗二升ニ及バザルコト一斗三升五合全國ノ夫ニ及バザルコト三斗五合ニシテ成績概シテ良好ナラズ今最近五ヶ年間ノ作付反別及收穫高ヲ示セバ左ノ如シ

米最近五ヶ年間收穫高

年次	作付反別	反當收量	收穫高	價格
大正十年	五、九三二反	一、六四三合	九、八四四石六	三九三、七八四
大正十一年	五、七〇二	一、五五七	八、八八〇、九	二六六、四二七
大正十二年	五、五八二	一、五七五	八、七九三、七	二八一、三四
大正十三年	五、五三三	一、五三五	八、四九四、四	三三九、七七六
大正十四年	五、五一二	一、五八五	八、七三四、三	三五八、一〇六
五ヶ年間平均	五、六五一	一、五七九	八、九四九、二	三二七、八八五

(二)米ノ栽培法方

1　主ナル品種別普及狀況

稻ノ品種數頗ル多シト雖モ栽培品種ノ主ナルモノヲ示セバ左ノ如シ

種類別	作付割合（百分中）	品種別普及割合
早稻	一〇	愛國九、其ノ他一
中稻	一〇	雄町六、其ノ他四
晩稻	八〇	神力六、赤神力五、神力モチ五、西ノ宮五、其ノ他二、五

2　苗　代

(イ)苗代整理

二月頃耕シ四月中旬塊碎五月上旬灌水數回掻均シ四尺巾ノ揚播床ヲ作ル

(ロ)下種量

普通ハ坪當リ五六合薄播ハ四合內外トス

(ハ)下種期

五月五日頃ヨリ十日頃迄トス

(ニ)肥料

人糞尿木灰少量ヲ灌水前施用ス

(ホ)管理

下種後發芽スル迄ハ日中落水シテ夜間灌水シ發芽後常ニ灌水ス

(ヘ)病害虫

浮塵子、螟虫、螟蛉、イモチ病等アリ

3　本田肥料

普通施用量ハ下肥百五十貫緑肥二百五十貫完全肥料五六貫多量施用ノモノハ前量ノ二三割ヲ増加ス

(ロ) 植付期及方法

例年六月二十日頃ヨリ始メ七月五日頃迄ニ終ル一坪ノ植付數ハ六十四株内外ヲ普通トス

(ハ) 除草

除草器ニテ一回手取三回除草スルヲ普通トス

(ニ) 病害虫

螟虫外浮塵子白葉枯病ノ發生少カラズ

(ホ) 收穫

晩稻ハ十一月上旬刈取調製ヲ行フ反當收量ハ一石六斗内外ナルモ多收穫競作會等ノ如キ特種栽培ヲナス塲合ハ三石五斗以上四石ノ收穫ヲ得ルコトアリ

二、米作奬勵方針

(一) 生産力ノ増進

近年市街地ノ擴張ニ伴ヒ年々良耕地ノ減少シツヽアルハ一般ノ認ムル所ナリ依ツテ之ガ對策トシテ地目變換或ハ開墾ニ依リ水田面積ノ擴張ヲ圖リ以テ水稻作付反別ノ増加ヲ期スルト共ニ暗渠排水ニヨリテ濕田ノ改良ヲナシ或ハ溜池ノ築造改修等ニヨリ用水補給ヲ充分ニスルノ外、牛馬耕ヲ奬勵シテ耕地ノ深耕又ハ客土ニ依リ地力ヲ増進シ併テ緑肥ノ栽培或ハ堆肥厩肥ノ改良増施ヲ奬メ少資多穫ノ途ヲ講ゼントス

(二) 優良品種ノ普及

農事試驗塲ニ於テ純系淘汰ノ外人工交配ニ依リ得タル收量大ナル品種又ハ種々ノ外界ノ支障ニ對シ夫々抵抗力強キ新品種ノ配布ヲ受ケ之ヲ各部落ニ亘リ採種圃ノ設置普及ヲ奬メ尚ホ之ガ經營管理ニ付テハ一層ノ指導奬勵ヲ加エントス。

(三) 耕種法ノ改善

縣ニ於テ着手シタル施肥標準調査ノ完了ヲ俟テ之ヲ基礎トシ施肥法ノ指導ヲ徹底セシムル方法ヲ講ズルト共ニ肥料配合又ハ施用法植付方法改善ヲ促シ畜力除草器其他優良農具ノ普及ニヨリ勞力ノ節約ヲ圖リ尚進ンデ各實行組合其他適宜ノ區域ヲシテ多收穫競作會ヲ開催セシムルノ外撰種苗代及本田ニ於ケル管理ヲ一層周到ナラシム

(四) 病害虫ノ驅除豫防

可成共同的精神ノ涵養ニ努メ共同驅除ヲ奬勵シ成績優良ナル農事改良實行組合ヲ表彰シ併テ豫察燈誘蛾燈ノ普及ヲ期スルコト

(五) 乾燥調製及俵裝ノ改善

稻架法ヲ奬勵シ莚乾ヲ期シ勞力ノ節約ヲ圖ルタメ優良ナル火力乾燥機、調製用農具並ニ各種動力用農具ノ普及ニ努ムルコト

(六) 販賣法改善

農業倉庫ヲ建設シテ之ヲ利用セシムルト共ニ産業組合又ハ市農會ヲシテ共同販賣ヲ斡旋セシムルコト

(ロ) 麥

一、現況

(一) 作付反別收穫高

麥ハ米ニ次グ重要農産物ニシテ其作付反別三百六町四反歩收穫高四千三百十五石ニ達ス。然レドモ本市ニ於ケル果樹蔬菜ノ發達ニ比スレバ著シク遜色アリ之即チ麥價暴落ニ伴ヒ動モスレバ收支相償ハザルニ反シ果樹蔬菜ハ採算上有利ナルニ歸因セリ、更ニ之ヲ品種別ニ見レバ裸麥、小麥、大麥ノ順位ニシテ裸麥ノ作付反別ハ二百六十六町九反歩收穫高參千八百四十三石小麥ハ三十八町四反歩四百四十五石大麥ハ僅々一町一反歩二十七石ナリ今最近五ヶ年間ノ作付反別及收穫高ヲ示セバ左ノ如シ

麥最近五ヶ年間收穫高

年次	作付反別				反當收量				收穫高				價格			計
	大麥	裸麥	小麥	計	大麥	裸麥	小麥	計	大麥	裸麥	小麥	計	大麥	裸麥	小麥	
大正十年	1	三、〇〇八反	四一四反	三、四二三反	1	一、〇九〇合	九二五合	1	1	三、二七九石	三八三石	三、六六二石	1	二六、五七円	七、〇八五円	三三、六四五円

| | | |

一、現況

(一) 作付反別收穫高

甘藷ハ米麥ニ次グ重要農產物ノ一ニシテ其作付反別百二十六町二反歩收穫高三十九萬一千二百二十貫ニ上レリ今最近五ヶ年間ノ作付反別及收穫高ヲ示セバ左ノ如シ

甘藷最近五ヶ年間收穫高

年次	作付反別	反當收量	收穫高	價格
	反			円
大正十年	一、三一八	三一〇㎏	四〇八、五八〇㎏	四〇、八五八
大正十一年	一、二四	三一〇	三八五、六四〇	四五、二七
大正十二年	一、二五七	三一〇	三九九、六七〇	三八、九六七
大正十三年	一、二六二	三一〇	四〇四、〇四〇	四〇、四〇四
大正十四年	一、二六二	三一〇	三九一、二一〇	四六、九四六
五ヶ年間平均	一、二六八、六	三一三	三九五、八三〇	四二、四七〇

(二) 甘藷栽培方法

(イ) 品種

元氣種ノ栽培最モ多ク三葉、薩摩種之ニ次グ。

(ロ) 苗ノ育成

苗ノ育成ハ露地床及溫床ニ於テシ兩者相半ス、溫床ハ三月上中旬南面ノ日當リ良キ位置ニ厩肥塵芥等ヲ一尺內外ノ厚サニ堆積シ四五寸ノ厚サニ作土ヲ入レ種子薯ヲ伏セ込ミ籾殼一寸內外ヲ覆ヒ更ニ古莚藁ヲ以テ防寒ノ設備ヲナス。發芽スレバ防寒ノ設備ヲ解キ稀薄ナル水肥ヲ施シ蔓一尺二三寸ニ伸長スレバ本圃ニ定植ス。

露地床ハ三月下旬霜害ノ憂ナキ時季ヲ待チテ準備シタル苗床ニ畦巾一尺六七寸毎ニ深サ三寸許リノ植溝ヲ作リ種薯ヲ伏ス本畑一反歩ノ苗床ハ十五坪種薯ハ百五十斤內外トス。發芽後ハ一回淺ク中耕ヲナシ下肥ヲ施蔓ノ伸長ヲ促ス

(ハ) 植付

A時期溫床苗ハ五月下旬ニ露地苗ハ六月中旬植トス。

B地拵、麥跡ヲ耕起シ馬耙ニテ簡單ニ地拵ヲ終リ一尺五寸內外毎ニ作畦ヲ切リ畦ノ頂上ニ苗ノ長サ約一尺內外ニ切リタル蔓一本宛株間一尺ノ巨離ニ挿苗ス、從來ハ長蔓植(二尺位)ヲナシタレドモ短蔓植ニ比シ蔓形不整ナルヲ以テ現今一尺內外ノ短蔓植ヲナス。

(ニ) 肥料

肥沃地ニハ肥料ヲ施ス事ナキモ瘠薄地ニハ麥跡地耕起ノ際堆肥、米糠類ヲ畑一面ニ撒布シ土中ニ鋤込ミ或ハ作畦ノ際畦間ニ少量ノ米糠ヲ施ス。挿苗後ハ適度ノ乾燥ト雜草繁茂防止ノ爲メ畑全面ニ麥稈ヲ撒布ス

(ホ) 手入

植付後ハ三回除草蔓返シヲ行フ

(ヘ) 收穫

九月上旬ヨリ收穫ヲ始メ普通十一月中旬トス一反歩ノ收量ハ五百貫內外トス。

二、甘藷作勵方針

(一) 優良品種ノ普及

農事試驗場ニ於テ試驗育成シタル優良品種ノ配布ヲ受ケ之レガ採種圃ヲ設ケ而シテ其ノ普及ヲ圖ルコト

(二) 耕種法ノ改善

育苗法、移植期、移植法ノ改善ト共ニ肥料ノ配合及施肥法ノ改善ヲ圖ルコト

(三) 早生甘藷作付奬勵

麥ノ間作又ハ園藝的ニ早生甘藷ノ栽培ヲ奬勵シ利益ノ增進ニ努ムルコト

(四) 販賣方法ノ改善

產業組合又ハ市農會ヲシテ共同販賣ノ斡旋ヲナサシムルコト

一、現　況

雜穀類ハ需用漸增セルニ拘ラズ之ガ生産ハ果樹蔬菜ノ栽培普及スルニ伴ヒ作付面積ノ如キ却テ減少シ又栽培法ニ於テモ依然トシテ舊套ヲ脫セザル憾ナシトセズ

而シテ大正十四年ノ作付反別ハ百九十三町三反歩收穫高千五百五十七石ニシテ大豆蕎麥粟ヲ其ノ主要ナルモトス今種類別作付反別及收穫高ヲ示セバ左ノ如シ

種類別作付反別收穫高

（大正十四年中）

種類別	作付反別	反當收量	收穫高	價格
豆	九七六 反	七六〇 合	七四二、〇〇〇 合	一四、八四〇 圓
小豆	一七〇	五一五	八八、〇〇〇	二、二四〇
豌豆	七四	五〇〇	三七、〇〇〇	八五一
蠶豆	八四	一、二五〇	九七、〇〇〇	一、六四九
稗	〇	〇	〇	〇
粟	二〇〇	八四〇	一六八、〇〇〇	二五二〇、
黍	二九	八五〇	二五、〇〇〇	四二五
蕎麥	三七四	一、〇〇〇	三七四、〇〇〇	四、八六二
玉蜀黍	二六	一、〇〇〇	二六、〇〇〇	一八二
計	一、九三三	—	一、五七、〇〇〇	二七、五六九

二、雜穀作奬勵方針

雜穀中大小豆粟ハ左ノ方針ニ依リ奬勵セムトス。

(一) 優良品種ノ普及

農事試驗場ニ於テ試驗育成シタル優良品種ノ配布ヲナシ之レガ普及ヲ圖ルモノトス。

(二) 耕種肥培法ノ改善

(1) 肥料ノ配合及施用法ヲ合理的ニ改善スルコト

(2) 種子ノ精選其他管理ヲ周到ナラシムルコト

(三) 乾燥調製ノ完全

乾燥並ニ調製ノ良否ハ其ノ聲價ニ及ボス影響甚大ナルハ雜穀ニ於テモ米麥ト何等異ナル所ナシ依テ之ガ完全ヲ期セントス。

三、園藝農產物

(イ) 果　樹

一、現　況

(一) 栽培沿革

本市ニ於ケル果樹栽培ハ明治三十三頃折橋免成富利兵衛、長谷川儀平氏等ノ柑橘栽培ヲ以テ之ガ端緒トス、爾來梨桃苹果其ノ他ノ專業的栽培頓ニ普及シ大正三年ニハ栽培反別五十餘町歩ニ達シ栽培面積年々擴張シツヽアリシガ大正十年頃ヨリ桃苹果柑橘等ハ病害虫發生シ被害激甚ニシテ果樹栽培ノ發達ヲ阻害セシトコロ僅少ナラザリシモ晩近柑橘類ノ如キハ病害虫ノ驅除豫防法進歩シ之ガ栽培ハ再ビ堅實ナル發達ヲ遂ゲントス。

(二) 果樹數及生產額

果樹栽培ハ前述ノ如ク一時衰退ノ徵アリシガ市ノ奬勵ト最近再ビ隆盛ニ赴キ就中柑橘類、梨、桃、枇杷等ハ其ノ主要ナルモノニシテ益々發達ノ趨勢ニアリ而シテ大正十四年末現在果樹總數ハ六萬三千三百七十九本ニシテ生產價格七萬五千七百六十四圓ニ達スト雖モ莫大ナル本市ノ需要ヲ充タスニ足ラズ年々三四十萬圓ノ供給ヲ管外ニ仰ギツヽアル狀態ナリ、今種類別作付反別及生產額ヲ示セバ左ノ如シ。

種類別果樹數及生產額

（大正十四年）

種類別	培本數	反當收量	生產收量	價格

柿	本	九、三一〇	一七、五九三
梨	貫	八〇、〇〇〇	四
枇杷		九、一六六	九、〇一二
桃		三、九一〇	九、六一六
葡萄		四、一五四	五、三九四
密柑		一、五五二	一五三
ネーブルオレンジ		一八、二一二	一〇、四八七
夏橙		九八七	六三〇
其ノ他柑橘		五、二三四	四、二一八
栗		三、九九四	七、四〇七
梅		七八五	二、〇六五
揚		二、九五七	二、二三五
ノ		一、〇五八	三、一七四
其ノ他梅		二、〇七〇	三、一九二
計		六三、三七九	七五、七六四

(三) 品種別普及狀態

果樹ノ品種ハ其ノ分布繁多ナルモ重要種類ニ付キ其ノ分布概要ヲ列記スレバ左ノ如シ

種類別	品種名	割合（百分中）	種類別	品種名	割合（百分中）
柿	四寸	三〇	梨	其ノ他	五
	枝折	一〇	枇杷	茂木	八〇
	妙丹	一〇		田中	一〇
	伽羅	一〇		其ノ他	一〇
桃	天津水密	一〇	柑橘	温州	六〇
	仁八水密	五		ネーブルオレンジ	三
	土用水密	五		夏橙	一五
	上海水密	三〇		上柑	三
				其ノ他	一九

(四) 植付ノ方法

(イ) 果樹園ノ位置及開墾ノ方法

果樹園ノ大部分ハ十度乃至四十度ノ傾斜地ヲ開墾シ石垣ヲ築キ一段二三條植ノ階段畑トシ或ハ岡巒起伏ノ狀態ニ依リ開墾シ堤ヲ設ク、園ノ方向ハ概ネ南面若ハ東南向ニシテ日當リ良好ナルガ故ニ開墾粗放ナルモノハ夏季乾燥甚シク旱害ヲ蒙ルコトアリ。

(ロ) 樹數

一反歩ノ植樹數ハ果樹ノ種類ニ依リ異ルモ概ネ八九十本多キハ百本以上ニ及ビ柑橘類ハ特ニ密植セリ

(五) 果樹園ノ手入

(イ) 整枝剪定ノ方法

梨桃等ノ整枝剪定ハ大正元年頃ヨリ行ハレ梨ハ棚形桃ハ盃狀形ヲ主トス。柑橘類其ノ他ハ現今多少剪定ヲナストハ雖モ過半ハ自然形ナリ。

(ロ) 中耕除草

果樹園ノ中耕ハ七八月及十二月末頃ノ二回ニ淺ク之ヲ行フ

(八) 間作

果樹ノ幼少ナル時代ハ一般ニ蔬菜其ノ他ヲ栽培ス

(二)袋　掛

害虫ノ發生多キヲ以テ一般ニ袋掛ヲ行フ、袋ハ新聞紙又ハ塵仙花紙ヲ用ヒ柿澁又ハ荏油ヲ浸潤セシム袋代ハ新聞紙製百枚ニ付キ二十二錢塵仙紙製八十九錢ナリ

(六)病害虫ノ種類及被害ノ程度

病害虫ノ種類ハ果樹ノ種類ニ依リ異ルモ主ナルモノヲ記スレバ左ノ如シ

被害果樹	病名	害虫名
梨	赤星病、黑星病	心蝕虫、象鼻虫
枇杷		象鼻虫
桃		象鼻虫
柑橘	瘡痂病	矢ノ根、ルビー、イセリヤ介殻虫

被害程度ハ年ニ依リ多少相異アレドモ梨桃ノ心蝕虫柑橘類ノ介殻虫ハ何レモ被害年々增大シ梨ノ如キハ六割以上ノ減收ヲ見ルコトアリ。

(七)收　穫

梨、桃、枇杷ノ如キモノハ早生物ノ價格概シテ高値ナルヲ以テ一般ニ早採リヲナス。主要果實ノ採收期及收量ヲ列記スレバ左ノ如シ

種類別	收穫ノ時期	反當收穫高 上作	反當收穫高 普通作	備考
梨	自八月上旬至十一月上旬	二〇〇円	一一〇円	收穫高ハ大正十四年ノ事實ニ付キ評價シタルモノナリ。
枇杷	自五月下旬至六月中旬	三〇〇	一五〇	
桃	自六月中旬至八月中旬	一一〇	五〇	
柿	自九月下旬至十二月上旬	一一〇	六〇	
柑橘	自十一月下旬至十二月下旬	一一〇	七〇	

二、果樹栽培奬勵方針

果樹栽培ハ明治四十年頃ヨリ急速ニ普及シ栽培樹數六万本、一ケ年產七万五千個餘ニ達スルモ之ヲ市外ヨリ移入消費スル果實價格二十六万六千余圓ニ比スレバ二割强ニ過キズ栽培品種雜多ニシテ世人ノ嗜好ニ適セザルニ至リタルモノ氣候土質トノ關係ニ依リ栽培困難ナルモノ經營粗放ニシテ收益少キモノアリ爲ニ果樹園經營ノ前途ヲ憂慮スルガ如キモノナキニ非ザレドモ、要ハ栽培方法ノ不合理ナル結果ニ歸着スベク將來特ニ左記事項ノ改良發達ニ努メムトス

(一)部落ニ適應スル果樹ノ增殖

果實ノ內枇杷、桃、梨ハ別表ノ通リ消費ノ大部分ハ移入ニ俟ツ狀態ナルヲ以テ之等ノ果樹ハ比較的市內農業部落中適當ト認ムル地方ニ對シ特ニ增殖ヲ奬勵シ部落ノ特產造成ニ努メムトス

(二)有望果樹ノ普及統一

營利的栽培ニハ枇杷、桃、梨、柑橘ノ四種ヲ採用奬勵シ左ノ計畫ニ依リ增殖ニ努メムトス。

有望果樹	奬勵品種名	增殖計畫 現在樹數	增殖樹數	計
枇杷	茂木種	三九一〇本	六〇〇〇	九九一〇
桃	早生＝小林水蜜桃、田中早生、日月桃、傳十郎桃 中生＝土用水蜜桃、離核水蜜桃	四一五四	四〇〇〇	八一五四

晩生＝上海水蜜桃、白桃
早生＝市原、獨乙
中生＝長十郎、大白、晩淡雪
晩生＝晩三吉

梨		九二六六	二〇〇〇	一二六六
柑橘	伊木力溫州、ネーブル、伊豫蜜柑	二八四一七	二〇〇〇	三〇四一七
其他		一七四〇五		
計		六三七九	一四〇〇〇	七七三七九

(三)苗木ノ撰擇

苗木購入ニ際シテハ品種及系統ノ嚴撰ニ努メ就中枇杷、柑橘ハ本縣ノ奬勵方針ニ依ルコト

(四)既成果樹ノ整理、有望品種ノ更新

(イ)既成果樹中老朽又ハ品種劣等ニシテ栽培價値少キモノ一万二千本以上ニ及ブ見込ナルニ依リ之ヲ伐採シ有望種ヲ接木シテ種類ヲ改良スルコト

(ロ)既設果樹園ノ密植ニ過クルモノハ之ヲ間伐整理シ經濟的有望種ノ增殖ヲ爲スコト

(五)經營方法ノ改善

果樹園ノ經營ハ一戸當五反歩以内ノ副業的經營ノ普及ヲ圖ル

從來果樹園ノ經營ハ五反歩以上三町歩内外ノ大面積ニ經營セシモ地勢險惡ニシテ比較的勞力ヲ要スル事多ク其大部ハ雇入ヲ要シ管理モ自然粗放トナリ利益僅少ナリ將來經營面積ヲ狹クシ集約經營ニ依リ反當收益ノ增加ヲ計ル事

(六)施肥法ノ改善

(イ)施肥量ノ增加

一般果樹ノ施肥量僅少ナルヲ以テ施肥量ヲ現在ノ三倍以上ニ增加スルコト

(ロ)肥料要素配合ノ適度

有機質肥料就中堆肥敷草ヲ充分ニ施シ土質ヲ改良シ一面肥料要素ノ配合ヲ適度ニスルコト

(ハ)柑橘類ノ施肥量

柑橘類ニ對シテハ石灰ヲ反當リ四五十貫施用スルコト

(七)病害虫ノ驅除豫防

(イ)柑橘介殻虫及瘡痂病梨姫心蝕虫桃疽瘡病ノ驅除豫防上藥液ノ調製使用其他適當ノ方法ヲ研究改善シ且協同實行ニ努ムルコト

(ロ)有益菌虫ノ繁殖利用ニ努ムルコト

(ハ)(ハ)驅除豫防器具類ヲ完備スルコト

(ニ)(ホ)苗木類ノ購入ニ際シテハ病菌虫、傳播ノ未然防止ニ留意スルコト

驅除豫防ハ可成部落的ニ共同實行ヲ爲スコト

(八)管理法ノ改善

(イ)剪定整枝法及摘果等ヲ合理的ニ行ヒ發育及結實作用ヲ促進シ又隔年結實ノ防止ニ努メ生産ノ增加ヲ計ルコト

(ロ)(ロ)果樹園ノ間作トシテ蔬菜類ヲ栽培シ難キモノハ可成綠肥作ヲ爲シ園内ニ之ヲ鋤込ミ地力ノ增進ニ努ムルコト

(ハ)中耕除草ヲ適度ニ行フ事

(ロ)蔬菜

一、現況

(一)作付反別生産額

本市ニ於ケル蔬菜ハ需用增加ニ伴ヒ之ガ栽培亦著シク發達シ殊ニ促成蔬菜ノ如キハ市ノ奬勵ト農家ノ覺醒トハ相俟テ最近異常ナル發達ヲ遂ゲ大ニ見ルベキモノアルニ至レリ

大正十四年中ニ於ケル蔬菜總作付反別ハ三百六十七町五反歩ニシテ生産價格ハ二十万五百七十六圓ノ多額ニ上リ蘿蔔漬菜馬鈴薯茄子蓮根青苧等ヲ其ノ主要ナルモノトス

然ルニ本市ノ莫大ナル需要ニ對シテハ未ダ漸ク其ノ三分ノ一ヲ充スニ過キズシテ三分ノ二ハ依然移入ニ俟チツヽ

アル現狀ナリ

今品種別作付反別生産額ヲ示セバ左ノ如シ

品種別作付反別生産額

（大正十四年中）

種類別	作付反別	反當收量	生産收量	價格
馬鈴薯	三〇二反	二四〇〆	七二、四八〇〆	一九、五七〇円
青芋	二九四	二六〇	七六、四四〇	一五、二八八
漬菜	八六二	四八〇	四一三、七六〇	二三、八二〇
蘿蔔	六九一	七二五	五〇〇、九七五	三〇、〇五八
蕪菁	九九	三九五	三九、一〇五	二、七三七
胡蘿蔔	七八	二三五	一八、三三〇	一、九一六
葱	一六六	二七〇	四四、八二〇	七、一七一
葱頭	六〇	二七〇	一八、九〇〇	三、七八〇
午蒡	六八	一八六	一二、六四八	一、五一八
蓮根	一三七	二七七	三七、九四九	二〇、八七二
慈姑	三	六〇	一八〇	二四〇
筍	一〇一	八〇	八、一六〇	四、〇八〇
胡瓜	九四	三四〇	三一、九六〇	九、五八八
南瓜	一五四	二六五	四〇、八一〇	九、一六二
西瓜	二一	三五五	七、四五五	二、六八四
瓜	二二	二〇〇	四、四〇〇	一、四〇八
茄子	二一七	三六〇	七八、一二〇	二三、四三六
生薑	二二	一二八	二、八一六	九二九
菜豆	四〇	一、〇〇〇合	四、〇〇〇合	一、一〇〇
胡麻	六	四〇〇	二、四〇〇	八九
冬瓜	一八	三一〇〆	四、五〇〇〆	一、三七四
薤	三〇	二四〇	七、二〇〇	三、九六〇
萵苣	一七	一四〇	二、三八〇	四七六
菠薐草	九五	二四〇	二三、八〇〇	四、五六〇
不斷菜	四六	三四五	一一、二七〇	二、〇二九
甘藍	七五	四九五	三七、一二五	七、四二五
蕃茄	五	一〇〇	五〇〇	一、〇〇〇
苺	二	二五	五〇	二〇〇
計	三、七二五	—	—	二〇〇、五七六

（二）蔬菜ノ栽培狀況

甲、普通栽培

（イ）重要蔬菜ノ品種別普及狀況

蔬菜ノ品種數頗ル多シト雖モ現在普及品種ノ主要ナルモノヲ示セバ左ノ如シ

種類別	品種名	割合（百分中）	種類別	品種名	割合（百分中）
馬鈴薯	長崎赤	三〇	蘿蔔	宮重	六〇
	アーリーローズ	六〇		美濃早生	一〇
	其ノ他	一〇		聖護院	一〇
漬菜類 白菜系	長崎白菜	一〇		時無大根	一五
	在來白菜	三〇		其ノ他	五
漬菜類 結球系	愛知白菜	二〇	葱	深葱	四五
	茨城白菜	一〇		玉葱	三〇

其ノ他	其ノ他	雜菜	一〇	分葱	一五
			二〇	在來	一〇
南瓜	春日南瓜系		三〇	長茄子	三〇
	菊座南瓜系		三〇	丸茄子	二〇
	在來		四〇	中長系	二〇
			六〇	其ノ他	三〇
甘藍	サクセツシヨン		二〇	蓮根 ダルマ種	九〇
	名古屋種		一〇	在來	一〇
	豊田早生		一〇	菜豆 在來	一〇〇
	其ノ他		一〇〇	生薑 在來	一〇〇
菠薐草	在來		一〇〇		

(ロ)蔬菜ノ肥料

蔬菜ノ肥料ハ葉菜類ハ專ラ下肥ヲ用ヒ根菜果菜類ハ堆肥、油糟下肥等ヲ用ユ、施用量ヲ列記スレバ左ノ如シ

種類別	多量施用	普通施用
葉菜類	下肥 一、二〇〇貫 油粕 一六	下肥 (九〇〇—一〇〇) 油粕 (一〇—一五)
根菜類	下肥 一、〇〇〇 堆肥 三〇〇	下肥 (六〇〇—九〇〇) 堆肥 (三〇〇—四〇〇)
果菜類	下肥 一、〇〇〇 堆肥 五〇〇 油粕 三〇	下肥 (九〇〇—一、〇〇〇) 堆肥 (二〇〇—三〇〇) 油粕 (一〇—一六)
其ノ他	下肥 一、二〇〇 油粕 三六	下肥 (九〇〇—一、〇〇〇) 油粕 (一〇—一五)

(ハ)病害虫

蔬菜ノ病害虫ハ蚜虫、青虫、サルハムシ、根切虫、青枯病、白斑病等種類甚ダ多ク被害亦激甚ニシテ之ガ驅除豫防適當ナラズ收穫皆無ノ慘狀ヲ見ルコトアリ

乙、不時栽培

A、促成栽培

(イ)沿革

明治四十三年市農會ニ溫床一個ヲ作成シ無償ニテ篤農家ニ貸付シ茄子ヲ育成シ半促成栽培ヲ奬勵セシガ當時農家ハ之ヲ顧ル者ナク胡瓜、土當歸其他ノ促成蔬菜ハ全部縣外ヨリ移入シ價格亦高價ナリシガ大正五年拆橋免長谷川傳重大野源太郎氏等先進地ノ狀況ヲ視察シテ自ラ木業ニ着手シ相當ノ成績ヲ收メ得タルヲ以テ漸時附近ニモ普及シ栽培者四十餘名溫床框數壹千二百餘ニ達シ普及區域ノ主ナルハ折橋免、中通免、山中免、横尾免、日宇里免等ナリ

(ロ)促成蔬菜ノ生產

促生蔬菜ノ品種ハ胡瓜茄子南瓜蕃茄草苺山菽タデ菜豆土當歸メロン等種々ナルモ現在經濟的ニ廣ク栽培シツヽアルモノハ胡瓜茄子ノ二種ナリトス

(ハ)設備

促成栽培ニ用ユル溫床ハ從來木框床ニ油障子ヲ附シタルモノヲ使用セシガ近來煉瓦製ノ固定框ニ硝子障子ヲ附スルモノ漸次增加セリ

今構造別ニ列記スレバ左ノ如シ

構造別溫床框數

種類別	木框油障子附	木框硝子障子附	煉瓦框硝子障子附	計
框數	六三〇	二一九	三五六	一、二〇五

(ニ)栽培ノ方法

1 發熱物

溫床ニ使用スル發熱物ハ主トシテ紡績屑稻藁ヲ用ユ一框ノ使用量ハ紡績屑三十貫稻藁十二三貫ヲ普通トス

2 管理

溫床ノ管理ハ十一月ニ始マリ六月ニ終ルモ胡瓜ハ一月ニ下種シテ四月上旬頃ヨリ收穫スル、一期作法最モ多シ。

(ホ) 收穫

促成蔬菜ハ收穫早キニ利アルハ勿論ナレドモ胡瓜茄子ノ如キ類菜類ハ相當ノ太サニ成長セザレバ市價割安ナルヲ以テ比較的遲ク迄結果セシメ大類ヲ收穫スルノ慣習アリ、故ニ一樹ノ結果數ハ少ナシ一框ノ結果數ハ胡瓜ハ普通二百類（四尺ニ六尺框）內外ニシテ價格ハ三月下旬一類十錢內外最盛期ハ三四錢ナリ、溫床一框ノ收入ハ八九圓ヲ普通トス

(ヘ) 病害虫

促成蔬菜ノ病害虫、シテハ根瘤病、べと病、ねまどーだ等ニシテ根瘤病ハ被害年々增加スルガ如シ

B 抑制栽培

(イ) 抑制蔬菜ノ品種

胡瓜菜豆ノ二種トス

(ロ) 栽培概要

北面セル冷凉ノ場所ヲ撰定シ胡瓜菜豆等ヲ七月頃下種シ九十月收穫スルモノアルモ栽培法ハ極メテ粗放ナリ

二、蔬菜栽培奬勵方針

本市ノ蔬菜栽培ハ漸次發達ノ趨勢ニアリト雖モ現況ニモ記セル如ク末ダ需要ノ三分ノ一ニモ達セザル狀態ニシテ今最近年度ニ於ケル主要蔬菜ノ移入數量ヲ示セバ左表ノ如ク四百二三十万貫ニ達シ

主要蔬菜ノ需給狀況

品名	昭和元年度 消費量	昭和元年度 市外ヨリ移入量	昭和元年度 市內生產量	昭和二年度 消費量	昭和二年度 市外ヨリ移入量	昭和二年度 市內生產量	移入品ノ主ナル仕向地
甘藷	一三五、〇〇〇貫	九一五、五〇〇貫	四〇九、五〇〇貫	一三六、八三二貫	九三一、〇〇一貫	三九五、八三〇貫	西彼杵、北松浦郡
午蒡	三〇〇、二〇〇	二七三、一〇〇	二七、〇〇〇	三〇〇、三三三	二五六、八二三	四三、五〇〇	熊本縣八吉、北松浦郡田平
人參	六二、五〇〇	四九、〇〇〇	一三、五〇〇	九二、五二五	六九、四八五	二三、〇四〇	東彼杵、北松浦郡
蓮根	一七五、三四五	一四一、七〇九	三三、六三六	一八五、三四五	一四五、七九五	三九、五五〇	早岐
馬鈴薯	三〇一、四六五	二三二、八一五	七八、六五〇	三〇六、九六五	二三四、八一五	七八、六五〇	東彼杵、北松浦郡
玉葱	一七三、五七三	一七一、〇四八	二、五二五	一九六、七一三	一九〇、九四八	二、五二五	右同
里芋	一九六、〇〇〇	一五二、〇〇〇	四四、〇〇〇	一九九、七一二	一四五、七九五	四四、〇〇〇	右同
大根	一二四、三〇四	九三六、三〇四	二三八、〇〇〇	一二六二、四〇二	八五〇、六五二	二三八、〇〇〇	右同
蕪菁	七一、三三〇	七一、三三〇	五四、〇〇〇	七〇、三三〇	七〇、三三〇	五三、〇〇〇	右同
胡瓜	二三四、三四八	二一〇、三四八	二四、〇〇〇	二三五、三四八	二一〇、三四八	二五、〇〇〇	右同、熊本縣飽託郡
南瓜	一八〇、九五〇	一二八、四五〇	五二、五〇〇	一八六、九五〇	一三四、四五〇	五二、五〇〇	右同、宮崎縣
唐瓜	二七、三五〇	二〇、二〇〇	七、一五〇	三〇、五五〇	二〇、二〇〇	一〇、三五〇	右同
茄子	一六九、二一五	一二七、二一五	五二、〇〇〇	一七〇、七一五	一二三、五一五	五七、二〇〇	右同
山薑	六、六五九	六、六五九	—	六、六五九	六、六五九	—	門司、下關、大阪
ウド	五、一三三	五、一三三	、一〇〇	五、一三三	五、一三三	、一〇〇	右同
花椰菜	、四八七	、二八七		、四八七	、二八七		北松浦郡
甘藍	二八七、八八〇	二七九、八八〇	八、〇〇〇	三七四、八八〇	三六〇、八八〇	二四、〇〇〇	東、西、北松浦郡
白菜	四〇一、〇三三	二〇九、〇三三	一九二、〇〇〇	四一一、〇三三	二六、七二二	一四、三一〇	右同
結球白菜	三四五、七四〇	二七五、七四〇	七〇、〇〇〇	三四七、二四〇	二三五、七四〇	一二、五〇〇	右同
高菜	三二、六五〇	二、六五〇	三〇、〇〇〇	三三、六五〇	二、六五〇	三〇、〇〇〇	北松浦郡
トマト	八、二八五	八、一八五	、一〇〇	八、二八五	八、一八五	、一〇〇	右同、福岡縣久留米
莢豆	二五、七三〇	二四、七三〇	一、〇〇〇	二六、二三〇	二四、七三〇	一、〇〇〇	東、西、北松浦郡
越瓜	三〇、六〇〇	三〇、〇〇〇	、六〇〇	三〇、六〇〇	三〇、〇〇〇	、六〇〇	西彼杵郡
薑	三〇、一六〇	二六、五六〇	三、一八六	五、八四二	二、六五六	三、一八六	東、西彼杵郡
漬大根	五六、七〇〇	四三、七〇〇	二三、〇〇〇	六六、七〇〇	四三、七〇〇	二三、〇〇〇	東、西彼杵郡
西瓜	九九一、九〇七	八八五、七〇七	七、四五五	一〇〇一、二五〇	九九三、八〇五	六、二〇〇	仝

甜瓜	一五九、四八〇	一五七、六八〇	一、八〇〇	一四九、五八〇	二、〇〇〇　仝
深葱	五〇、一〇〇	三五、三〇〇	一四、八〇〇	九五、四七〇	四二、三五〇　東彼杵郡、北松浦郡
青葱	七三、三二〇	四三、三二〇	三〇、〇〇〇	一三四、五二四	四七、五三四　仝
草苺	一、九一〇	一、八六〇	五〇	一、八〇	八〇　仝
山芋	一八、一九〇	一八、〇〇二	一九〇	一、三五〇	二五〇　仝
菠薐草	六七、一三五	四四、三三五	三、八〇〇	九〇、九〇〇	二、九〇〇　仝
隼人瓜	一、五〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	一、二〇〇	七〇〇　仝
其他	七〇、九八二	五九、九八二	二、〇〇〇	六五、二四	四五、三二四　仝
合計	六九〇七、六八〇	五四三〇、一八一	一四五二、三〇一	七四二〇、八六〇	一九、八〇〇　仝

備考　前表中其他ノ蔬菜トハ蒿苣、不斷草、茗荷、芽物、水芹、水芋、慈姑、款冬、蒿苣、紫蘇、薤、韮、胡荽、豇豆、苦瓜等ヲ含ム

甘藷、午蒡、人參、蓮根、馬鈴薯、玉葱、里芋、大根等ハ近接郡部ヨリ、茄子、胡瓜、南瓜等ハ熊本縣ヨリ促成蔬菜ハ下關地方ヨリ移入シツヽアルノ現狀ナルヲ以テ大要左ノ方針ノ下ニ奬勵セムトス。

甲、普通栽培

移入蔬菜ノ内重要ナルモノハ之ヲ市内農業部落中、比較的適當ト認ムル地方ニ對シ之ガ增殖ヲ奬勵スルト共ニ優良品ノ栽培研究ヲ促サムトス

(一)有望品種ノ栽培增殖

有望種トシテ撰擇スベキ蔬菜ハ主トシテ市外ヨリ移入スル蔬菜類ノ内貯藏、輸送性弱キ茄子、胡瓜、蕃茄、草苺、深葱、蚕豆、甘藍、漬菜類中品種優良ナルモノヽ生產ノ增殖ヲ計リ自給自足ヲ爲スコト

(二)輪作法ノ改善

蔬菜ノ畑作ハ普通三毛内外ニ過ギザルヲ以テ、輪作法ヲ改善シ土地ヲ集約的ニ利用シ反當收益ノ增加ヲ圖ルコト

(三)水稻裏作ノ改善

水稻裏作ノ利用法ヲ改善シ一般蔬菜ノ作付ヲ爲シ生產ノ增殖ヲ圖ルコト

(四)施肥法ノ改善

肥料ノ施用量ヲ增加シ就中堆肥、石灰類ヲ使用シ肥料養分ノ配合ヲ合理的ナラシムルコト

(五)病害虫驅除豫防

イ、藥液ヲ以テ簡易ニ驅除豫防スル方法ヲ講スルコト

ロ、部落ヲ區域トスル共同施行機關ヲ組織シ一齊驅除ニ努ムルコト

(六)種子ノ交換改良

種子ノ交換改良ヲ爲スコト

(七)加工方法ノ研究改善

蔬菜ノ加工方法ヲ研究改善スルコト

乙、不時栽培

A、促成軟化蔬菜

(一)設備ノ改善普及

(イ)溫床ノ擴張及溫室ノ建設

溫床新設ニ對シテハ從來市ヨリ相當奬勵金ヲ交付シテ、之ガ普及促進ニ努メツヽアリ現在設置數ハ一千二百框ニ達シ居レドモ生產品ハ未ダ本市ノ需用ヲ充スニ足ラザル狀態ナルヲ以テ一層之ガ奬勵ニ努メムトス溫室ハ全ク建設ヲ見ザル狀態ナルヲ以テ需要ノ程度ニ應シ之ガ建設奬勵ニ努メムトス

(ロ)補溫設備ノ研究改善

從來ノ發熱材料ハ主トシテ紡績屑、藁等ヲ使用シタレトモ紡績屑ノ如キハ將來價格騰貴ヲ來ス傾向アリ經濟上使用困難ナルヲ以テ簡易ボイラー等ノ使用法ヲ研究シ之ガ普及ヲ計ラムトス

(二)有望種類ノ栽培統一

有望種類ノ栽培統一ヲ圖リ且之ガ生產增加ニ努ムルヲ要スベク而シテ有望種トシテ奬勵スベキモノヽ大体左ノ如シ

促成蔬菜＝胡瓜、茄子、草苺、菜豆、蕃茄、蕃菽

軟化蔬菜＝土當歸、芽薑、茗荷、水芹、芽芋

(三) 販賣方法ノ研究改善

生產品ノ荷造及出荷方法ノ研究統一ヲ圖リ販路ノ擴張ニ努ムルコト

(四) 栽培管理法ノ研究改善

管理ハ作物ノ種類ニ依リ異ナレドモ主トシテ用土ノ使用、保溫、換氣又ハ施肥方法適當ナラズ往々失敗ヲ招ク事少カラザルヲ以テ、講習講話又ハ先進地ヲ視察シ技術ノ熟達ニ努ムルヲ急務トス

B、抑制栽培

抑制蔬菜ハ熊ヶ倉兎及木場兎地方ノ冷涼ナル部落ニ胡瓜、菜豆其他適當ナル品種ヲ選定シ作付ヲ奬勵スルコト

(八) 花卉

一、現況

本市人口ノ增加ニ伴ヒ花卉ノ需要モ增加シ從テ之ガ栽培著シク發達シ漸次專業的經營ヲ見ルニ至レリ

大正十四年中ニ於ケル作付反別ハ五町五反歩ニシテ生產價格ハ壹萬五千百八拾圓ニ及ベリ今品種別作付反別及生產額ヲ示セバ左ノ如シ

品種別作付反別生產額

（大正十四年）

種類別	作付反別	反當收量	生產收量	價格
江戸菊	二四反	二八〇円		七、二六〇円
菊	一七	三〇〇		五、一〇〇
其ノ他	一四	二〇〇		二、八〇〇
計	五五			一五、一八〇

二、花卉ノ栽培奬勵方針

花卉ノ栽培ハ晩近著シク發達シ一ヶ年壹萬五千圓ノ生產ヲ見ルニ至リタレドモ尙需用ノ半ニ達セザル狀態ナルヲ以テ左記方法ニ依リ副業的栽培ノ普及ヲ圖リ自給自足ノ域ニ到達セシメムトス

(一) 農家ノ副業トシテ一畝歩內外ノ切花栽培ノ普及ヲ圖ルコト

(二) 宅地畦畔ヲ利用シ切花盆栽鉢物類ノ栽培ヲ爲スコト

(三) 市農會等ニ於テハ可成種子ノ購入斡旋及配布ヲ試ミ栽培普及促進ニ努メシムルコト

四、特殊農產物

一、現況

從來本市ニ於テハ特殊農產物トシテ何等見ルベキモノナカリシガ最近蠶業發達ニ伴ヒ桑葉ノ生產增加ハ注目ニ値スヘシ

大正十四年中ニ於ケル總作付反別ハ八町六反七畝歩ニシテ生產價格貳千九百九拾八圓ニ達シ桑葉ヲ第一位トシ茶葉菜種等之ニ次ゲリ今品種別作付反別及生產額ヲ示セバ左ノ如シ

品種別作付反別生產額

（大正十四年）

種類別	作付反別	反當收量	生產收量	價格
桑葉	一五、二〇反	二三五ノ	三、五四〇ノ	一、二三〇円
桑苗	、五〇	一、〇〇〇本	五、〇〇〇本	一〇〇
茶葉	三三、〇〇	八三合	三、五〇〇合	一、八〇〇
菜種	一五、〇〇	一ノ	一五〇ノ	一五〇
椿	一九、〇〇	五	一五	九〇
除虫菊	三、〇〇	一	一五瓩	三〇
糸瓜	一、〇〇	一	七〇〇	二八
計	八六、七〇			二、九九八

二、特種農產物奬勵方針

(イ)茶

茶ノ栽培ハ從來畑地畦畔ニ栽植セラレ既ニ三四十年以上ヲ經過セシモノ多ク殆ド自然成長ニ放任シタルモノニシテ生育甚ダ不良樹姿亦不整ニシテ且ツ肥料不足ノタメ摘葉量極メテ少ク反當四十貫價格二十圓內外ニ過ギザルノミナラズ又摘葉ニ不便ナルヲ以テ斯クノ如キ茶樹ハ之ガ更新ヲ行ヒ肥培管理ヲ充分ナラシムル時ハ收葉量反當二百貫價格百圓以上ヲ得ルハ極メテ容易ニシテ尙製茶法ニ改善ヲ加フルニ於テハ上茶四十貫百六拾圓下茶十貫拾圓內外ヲ得ベク依テ茶ノ自給自足ヲナス程度ニ其ノ生產ヲ計ラントスルモノニシテ先ヅ地勢上最モ適地ト認ムル熊ケ倉日宇猫山兎、木場兎、小佐世保兎、名切兎等ノ如キ山間地帶ノ農家ノ副業トシテ之ガ新植又ハ既設園ノ改良ヲ奬勵シ優良茶園ノ增加ヲ圖ルト共ニ製茶ノ生產增加ヲ圖ラムトス

(ロ)除虫菊、油菜、其ノ他

除虫菊ハ園藝業ノ普及ニ伴ヒ害虫驅除用トシテ需用益々增加スベキハ勿論又油葉ハ水稻裏作トシテ最モ適當シ兩者共ニ栽培ハ比較的容易ニシテ相當ノ收穫ヲ得ル見込ナルヲ以テ將來果樹園ノ間作二毛田ノ裏作トシテ之ガ普及ヲ圖ラムトス。其ノ他糸瓜、箒黍等モ家庭副業奬勵ト相俟テ栽培方法ノ研究改善ヲ遂ゲ漸次普及セシメムトス

第二　畜產業

一、牛

一、現況

(一)畜牛頭數

本市ニ於ケル畜牛ハ大正十四年末現在總頭數一千二十頭ニシテ既往五ヶ年ノ平均頭數ハ九百七十五頭ナリ其ノ間一進一退アリシト雖モ五ヶ年間ノ增加僅カニ四十二頭ニ過ギズ而シテ之ヲ農家戶數(一八九六戶)ニ比スル時ハ百戶當リ四十八頭ニシテ本縣ノ夫ニ比シ及バザルコト約二十頭ナリ更ニ生產頭數ヲ見ルニ同十四年中九十八頭ニシテ之モ既往五ヶ年間大ナル增減ナシ

畜牛累年頭數表

年次	年末頭數 乳農別	牝	牡	合計	年內生產頭數 乳農別	牝	牡	合計
大正十年	乳農	一〇〇七一〇	— 一六八	一〇〇八七八	乳農	二一三九	一六二九	三七六八
大正十一年	乳農	一〇八六八五	— 一三六	一〇八八二一	乳農	一六三一	一九二三	三五五四
大正十二年	乳農	一〇五六九五	— 九九	一〇五七九四	乳農	一二三九	一八三〇	三〇六九
大正十三年	乳農	一三五七二八	— 一九四	一二五九二三	乳農	一三三三	一八三〇	三一六二
大正十四年	乳農	一〇九七四七	— 一六四	一〇九九一一	乳農	一六三三	一九三一	三五五三

(二)畜牛ノ系統

農役牛ハ從來平戶五島ノ在來牛系ノ飼育多カリシガ現今早熟性ノ朝鮮牛ノ飼育增加シ乳用牛ハ「せるしー」「あしや」等ノ飼育多カリシガ現今「ほるすたいん」種ニ統一セリ

(三)飼育狀況

(イ)、方法

飼育ノ方法ハ農役用トシテ成牛ヲ飼育スルモノ犢牛ヲ育成シテ利益ヲ得ルモノヽ二法ニ分ツベク前者ハ成牛ヲ農業勞役ニ使役シ相當ノ年齡ニ達スレハ肉用牛トシテ販賣シ後者ハ犢牛ヲ飼育成長セシメテ販賣スル方法ニシテ後者ハ前者ニ比シ利益常ニ多シ

(ロ)飼料

農役牛ノ飼料ハ山野ノ雜草、藁ノ生產多ク飼育客易ナリ

(ハ)牛ノ使役

牛ノ使役ハ主トシテ水稻植付ト麥播種期ニ於テ田畑ノ耕耘又ハ肥料運搬ニ使役シ一ヶ年ノ使役延日數ハ多キハ

五六十日ニ達スルモノアレドモ普通二三十日ニ過ギザルベシ

畜産奬勵

畜産業ノ改良發達ヲ期スルハ畜産其物ノ收益ヲ增加スルノミナラズ農業勞力肥料經濟上影響スル所大ニシテ之ガ改善奬勵ハ極メテ緊要事ナリ

而シテ本市ハ地積擴大ナラズ飼養頭數ノ增加ヲ望ミ難キヲ以テ主トシテ資質ノ改善ニ努メムトス

一、牛ノ奬勵方針

牛ハ農勞用及乳用ノ二種ニシテ農役牛ハ農業經營ノ精粗ニ依リ改良ノ目的ヲ異ニスル必要アルベク即チ

(一)農役採肥ノ目的ヲ以テ一町歩以上ノ耕作ニ從事セシムル農役牛ハ早熟ニシテ成長迅速ナル役牛系ノ肉牛飼養ヲ奬勵スルコト（當分五島牛系ヲ採用スルコト）

現在飼育スル農役牛ノ多クハ平戸系ニシテ体軀矮少晩熟性ナルヲ以テ肥肉向ニ飼育スル場合ハ不適當ナリ

(二)小規模ノ農業經營ニハ乳用牛ヲ採用シ酪農ノ普及放善ヲ圖ルコト牛ノ勞働ハ農業經營ノ程度ニ依リ異リ小規模ノ農業ニアリテハ一ケ年ノ勞役二十日內外ニ過ギザルヲ以テ乳牛ヲ飼育シ勞役搾乳ヲ兼ネ農家經濟ノ發達ヲ圖ルヲ肝要トス

(三)乳牛ハホルスタイン種ヲ奬勵品種トシ純粹若ハ進化雜種ノ蕃殖ヲ奬勵シ能力增進ニ努ムルコト

現在ノ乳牛ハ牛系統雜駁ニシテ生產能力低キヲ以テ優良ナル純粹種ヲ飼育シ生產能力ノ增進ニ努ムルヲ要ス

(四)畜牛、衞生及管理方法ノ改善ヲ爲スコト

以上ノ改良ヲ促進セシムル爲メ施設ノ急ナルモノ左ノ如シ

(1)、優良種牛ヲ購入シ之ガ繁殖奬勵ヲ爲スコト

(2)、本市ノ生產犢牛ニシテ將來繁殖牝牛トシテ優良ノモノヲ保留シ資質ノ改善ヲ圖ルコト

(3)、畜產組合又ハ市農會等ニ於テ種牛利用衞生上ノ設備畜產物製造ノ研究ヲ爲シ共同利益ノ增進ニ努ムルコト

(4)、將來適當ナル時機ニ於テ家畜市場ヲ設立シ家畜販賣上ノ利益ヲ增進セシムルコト

二、馬

一、現況

馬ハ本市ノ地勢上農役用トシテ適當ナラザルヲ以テ農家ニ之ヲ飼養セルモノナク五六頭ノ乘馬ヲ除キ全部荷馬車用トシテ飼養セルモノニシテ大正十四年末頭數ハ百十二頭ナリ而シテ生產ハ既往數年間一頭モ之ヲ見ズ

牛馬頭數ト農家及耕地トノ對比

牛馬ノ使役如何ハ農家經濟上ニ及ボスベキ影響甚大ナルヲ以テ農家ハ農耕地ノ地勢ニ依リ畜牛又ハ馬匹ノ何レカヲ飼養セザルベカラザルガ本市ノ如ク地勢概シテ峻嶮平地ニ乏シク且ツ地積狹小ナルトコロニ於テハ馬匹ハ適セズ畜牛ノミヲ飼養シツヽアリ然ルニ畜牛モ他ニ比シ著シク少ナク農家百戶當リ四十八頭ニシテ本縣平均牛馬頭數八十五頭ニ比スレバ其ノ半數ニ過ギザル現狀ナリ

牛馬頭數ト農家戶數並耕地トノ比較表（大正十四年末）

區別	牛馬頭數及農家戶數耕地反別	對比	備考
牛馬頭數	九二頭	—	頭數ハ牛ノミナリ
農家戶數	一八九六戶	—	
農家百ニ對スル牛馬頭數		四八頭	
田使用反別	五五二反	三反	強
畑使用反別	四六八七反	六反五反二反	強
牛馬頭數ニ對スル田畑反別			

二、將來ノ方針

本市ノ農村部落ハ概シテ地勢峻嶮、平地ニ乏シキヲ以テ馬ハ農役用トシテ適セザルヲ以テ將來ト雖モ特ニ之レガ飼育ヲ奬勵スル必要ナキモノト認ムルモノナリ

三、豚

一、現況

(一)豚　頭　數

本市ニ於ケル豚頭數ハ最近著シク增加シ大正十四年末總頭數ハ三百五十五頭ニシテ同年內ノ生產頭數ハ百八頭ナリ今累年頭數ヲ示セバ左ノ如シ

年次	年末頭數 牝	牡	合計	年內頭數 牝	牡	合計
大正十年	九二	七二	一六三	四八	四一	八九
大正十一年	八五	八七	一七二	五四	四八	一〇二
大正十二年	八七	八九	一七六	六七	六三	一三〇
大正十三年	一四三	二〇四	三四七	七二	六二	一三三
大正十四年	二一七	一三八	三五五	六三	四五	一〇八

(二)豚ノ系統

豚ハ「よーくしやー」雜種ノ飼育最モ多ク大正十四年市農會ニ農林省ヨリ「よーくしやー」ノ純粹種豚ノ拂下ヲ受ケ繁殖ヲ圖リツヽアル結果「よーくしやー」種ノ純粹系統普及シツヽアリ

(三)飼育狀況

豚ハ市內ニ殘飯其ノ他飼料多ク飼育容易ナルヲ以テ專業的ニ副業的ニ之ヲ飼育スルモノ漸時增加シツヽアリ

二、奬勵方針

豚ハ汎ク之カ飼育ヲ奬勵スルハ困難ナレドモ市內ニ豚肉ノ需用多ク加之近時生豚ヲ縣外ニ搬出スルモノ漸時增加スル傾向アリ。幸ヒ本市ニハ料理殘物魚腸骨等豚飼料多キヲ以テ將來牛ノ飼養困難ナル農家ニ對シ副業的ニ之ガ飼育ヲ奬勵セムトス。

(一)種牡豚檢查ノ實施ヲ期スルコト

現在一般當業者ノ種豚ハ檢查制度ナキタメ系統体質區々ナルハ勿論体型ノ統一ヲ缺キ資質ノ改善困難ナルヲ以テ牛ト同樣種豚資格ノ檢查ヲ實行スルヲ急務トス

(二)養豚組合ヲ組織シ共同利益ヲ增進スルコト

(三)仔豚ノ生產ヲナシ市外ニ輸出スルコト

(四)去勢ヲ勵行スルコト

四、山　羊

一、現　況

山羊ハ大正四年頃搾乳用トシテ「ざーねん」種「ぬびや」種等ノ純粹種ヲ飼育スルモノアリシガ現今「ぬびや」種系ハ漸時減少シ「ざーねん」種ノ雜種ヲ飼育セルモノ最モ多シ今累年頭數ヲ示セバ左ノ如シ

山羊累年頭數表

年次	年末頭數 乳肉別	牝	牡	合計	年內頭數 乳肉別	牝	牡	合計
大正十年	乳	一二	一〇	二二	乳	一	一	二
	肉	一七	五	一二	肉	一	一	二
大正十一年	乳	一三	一七	三〇	乳	一	一	二
	肉	一七	一五	三二	肉	一	一	二
大正十二年	乳	一〇三	九四	一九七	乳	一	一	二
	肉	一四	一三	二七	肉	一	一	二
大正十三年	乳	五一	一八三	二三四	乳	一	一	二
	肉	八二	一八	一〇〇	肉	一	一	二
大正十四年	乳	五三	一九三	二五六	乳	一	一	二
	肉	八五	一九	一〇四	肉	一	一	二

二、奬勵方針

(一)粗惡ナル飼養管理ニ堪ユルヲ以テ農家ノ副業トシテ普及ヲ圖ルコト

(二)營養價大ナル山羊乳肉ノ消費ヲ宣傳スルコト

五、家禽

一、現況

(一) 家禽飼育狀況

家禽中主ナルハ鷄トス本市ニ於テハ鷄肉、鷄卵ノ需要多キヲ以テ養鷄業ハ自然的ニ發達スベキ情勢ニアリシガ市當局ニ於テモ種卵ノ斡旋品評會ノ開催養鷄組合ノ設立等種々之ガ奬勵ニ努メタル結果最近著シク發達シ大正十四年末ニハ飼育戸數三千二十九戸家禽數二萬三千九百八羽ノ多數ニ及ベリ

家禽飼育表

年次	飼育戸數	家禽數	産卵數	雛生産數
大正十年	二、六九九	一六、六〇四	一、〇七四、三〇四	六、三二九
大正十一年	二、七二七	一四、五四五	一、〇九九、九三五	四、八三四
大正十二年	二、八〇六	一七、五〇二	一、一四八、三五八	四、五一四
大正十三年	二、二三五	二三、九四二	一、三三八、六〇五	八、六八一
大正十四年	三、〇二九	二三、九〇八	一、三一五、四七八	八、七四

家禽種類別飼養數

年次	鷄	数鳥	其他	合計
大正十年	一五、六八三羽	八九五羽	二六羽	一六、六〇四羽
大正十一年	一三、四六七	一、〇四三	三五	一四、五四五
大正十二年	一六、三六五	一、一〇一	三六	一七、五〇二
大正十三年	二一、七八	一、二七	三七	二三、九四二
大正十四年	二三、七三五	一、〇九四	七九	二三、九〇八

(二) 養鷄ノ種類別普及狀況

鷄ハ其ノ種類頗ル多シト雖モ主ナル種類ノ普及割合ヲ示セバ左ノ如シ

名古屋こーちん三〇%、白色れぐほん二〇%、みのるか一〇%、ぷりまうすろつく一〇%、其他三〇%

(三) 繁殖ノ方法

主トシテ母鷄ヲ用ヒテ孵化繁殖ヲ圖リ孵化器ヲ使用スルハ稀ナリ

二、奬勵方針

養鷄ハ輓近急速ニ普及シ飼育羽數二萬三千九百、産卵百三十一萬五千個、價格四萬參千余圓ニ達スル狀態ナルモ末ダ堅實ナル發達ヲ見ルニ到ラズ寧ロ流行的普及ニ終ラムトスル傾向ナシトセズ

養鷄ハ副業的ニ經營シ管理周到ナレバ相當ノ利益ヲ得ベキハ勿論ニシテ將來一層研究改善ノ餘地多シト云フ可シ

將來特ニ左記事項ノ奬勵ニ努メ、斯業ノ堅實ナル發展ヲ期セムトス

(一) 從來ノ養鷄ハ美鷄繁殖主義ニ傾キタル觀アリシヲ以テ將來專ラ實用本位ニ向ハシメ多産卵系種ノ繁殖普及努メルコト

(二) 養鷄ハ專ラ副業トシテ之ヲ奬勵スルコト

(三) 種類ハ名古屋種、レグホン種ヲ奬勵シ種類ノ統一ヲ圖ルコト

六、畜産物ノ需給狀況

一、現況

本市畜産業ハ逐年發達ノ傾向ヲ示シ畜産物ノ生産著シク增加セリト雖モ末ダ本市ノ需要ヲ充ス能ハズ消費ノ八割強ハ移入ニ俟チツヽアルノ現狀ナリ、即チ大正十四年消費額九十六萬二千四百四十三圓中生産額ハ二十三萬九千八百三十六圓ニ過ギズシテ移入額ハ七十七萬五千百九十九圓ノ多額ニ上レリ

畜産物需給表

種類別	生産 數量	生産 價格	移入 數量	移入 價格	消費 數量	消費 價格

牛乳	四七四石	二八、〇〇〇円	二〇〇石	二、〇〇〇円	—	六七四石	三〇、四〇〇円
ミルク	—	—	四七、〇〇〇斤	二八、四八七	二、六〇〇斤	一、四六五	二七、〇二二
牛肉	三四一、八七七斤	一三六、七五〇	八四一、八四〇斤	三三六、七三六	八六、〇〇〇斤	四四、四〇〇斤	四三八、九二六
豚肉	九一、六八六斤	二七、五〇六	二一〇、四六〇斤	六三、一三八	九、〇〇〇斤	二、七〇〇	八七、九四四
鷄肉	四五、〇〇〇	一四、二五〇	二四、二〇〇	九、三〇〇	一四、〇〇〇	四、八六〇	一八、六九〇
バター	—	—	四、三〇〇	八、〇二六	七〇〇	一、三〇七	六、七一九
ベーコン	三二	三五	三、五〇〇	四、六四八	—	—	四、六八三
ハム	六〇〇個	八九五	五、〇〇〇	四、九八四	—	—	五、八七九
鷄卵	六四、〇〇〇	三二、〇〇〇	六九〇、二〇〇	三一七、八八〇	一三、四〇〇	七、七〇〇	三四二、一八〇
計		二三九、八三六		七七五、一九九		五二、五九二	九六二、四四三

二、奬勵方針

ハム、及バター製造奬勵

ハム、バターハ近時需用年々增大シ加之製品ハ全部市外ヨリ移入シツヽアル狀態ナルガ、何レモ本市ニ原料ヲ得ルコト容易ナルヲ以テ之カ製造奬勵ヲナシ自給自足ニ努メムトス

第三、農業奬勵並施設事業

一、現況

(一) 奬勵施設ノ方法

農業改良上市ニ於テ奬勵若ハ施設シタルモノヲ記スレバ左ノ如シ

（大正十五年度）

奬勵事項	經費	事業方法概要
温床設置補助	一八〇	温床新設者ニ對シ補助金ヲ交付ス
噴霧器購入補助	一二五	害虫驅除用噴霧器購入者ニ對シ補助金ヲ交付ス
枇杷苗配布	八〇	茂木枇杷苗木ヲ原産地ヨリ購入シ一反歩以上ニ集團栽植者ニ限リ配布
果樹更新奬勵	一〇〇	劣惡果樹ニ良質ノ果樹ヲ接木更新シ種類ノ改良ヲ奬勵ス
種子配布	七〇	蔬菜花卉、種子ヲ原産地ヨリ購入シ當業者ニ配布
箒黍栽培奬勵	三〇	箒黍原ニヲ栽培シ當業者ニ配布ス
農事講習	五〇	蠶業畜産業ニ付講習會ヲ開ク

(二) 成績概要

(イ) 温床設置奬勵

本ニ奬勵ハ促成蔬菜ノ自給自足ヲ期スル目的ヲ以テ大正十年ヨリ毎年温床新設者ニ對シ補助金ヲ交付シ斯業ノ普及ヲ圖リツヽアリ大正十年以來市ノ補助ヲ受ケテ新設シタルハ六百枠ニシテ（巾四尺ニ長サ六尺）生産逐年增加シツヽアリ

(ロ) 噴霧器購入

農作物ノ害虫驅除豫防奬勵ノ爲メ大正十二年以來噴霧器ヲ購入スルモノニ對シ補助金ヲ交付シツヽアル結果使用漸時普及セリ

(ハ) 枇杷苗配布

新ニ枇杷園ヲ造成スルモノニ對シ大正十年ヨリ苗木ヲ配布セシニ現今新植園頓ニ增加セリ

(ニ) 果樹更新

在來ノ劣等果樹ヲ良種ニ接木シ優良果實ノ生産增殖ヲ圖ル爲メ大正十五年ニ於テハ伊木力溫州密柑接穗五千本ヲ伊木力村ヨリ取寄セ之ヲ當業者ニ配布シ柑橘ノ改良ヲ圖レリ

(ホ) 種子配布

蔬菜花卉種子ヲ原產地ヨリ取寄セテ當業者ニ配布シ蔬菜類ハ近時品種大ニ改マリ草花栽培モ逐年普及スルニレリ

(三) 農事團体ニ對スル市ノ奬勵

(1) 團体及補助狀況

市ガ農事團体ニ對シ補助金ヲ交付シ或ハ其ノ他ノ方法ニ依リ組合團体ノ事業ヲ助成セシ所少ナカラズ今最近五ケ年間ニ補助金ヲ交付シタルモノヲ記スレバ

團体別最近五ケ年間補助額

團体名	昭和二年	大正十五年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
市農會	二、六五〇円	一、四〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	七五〇円
果樹病害虫防除組合其他	一〇〇円	二〇〇円	二〇〇円	二〇〇円	二〇〇円

(2) 農事組合團体

(イ) 市農會

市農會ハ昭和二年四月一日ヨリ日宇、佐世村、農會ヲ併合シ會員數ニ於テ二十五割余、耕地ニ於テ二十五割强增加セリ

會員並ニ諸經費ヲ示セバ左ノ如シ

（經費ハ豫算額ヲ示ス）

會員並歲入歲出別	昭和二年	大正十五年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
會員數	二、七八一人	一、二一〇人	?	?	?
歲入 計	四、五八七円	一、〇一五円	九三五円	八六一円	一、一四七円
歲入 補助金	三、七〇〇円	一、九〇〇円	一、三〇〇円	一、六〇〇円	八〇〇円
歲入 會費其他	八八七円	二、九二五円	二、二三五円	二、四六一円	一、九四七円
歲出 計	二、二五八円	一、〇一五円	九〇九円	四二三円	二六四円
歲出 事務所費	一八〇円	六四円	八五円	八五円	八五円
歲出 會議費	五、〇三八円	一、八一五円	八三七円	一、七三〇円	一、二八〇円
歲出 事業費	五〇〇円	一五〇円	三三五円	四〇〇円	一五〇円
歲出 諸負担	三〇一円	一、八一一円	一七九円	一九四円	一九三円
歲出 其他	八、二六七円	二、九一五円	二、二三五円	二、四六一円	一、九四七円

(ロ) 果樹病害虫防除組合

果樹中主トシテ柑橘類ノ瘡痂病、介殼虫類ノ驅除豫防ノ實行ヲ期スル爲メ大正十一年組合ヲ組織シ毎年七月、十月ノ二回ニ驅除藥ヲ調製シ日割ヲ定メ一齊驅除ヲナシツヽアリ大正十五年度ノ成績概況ヲ誌スレバ左ノ如シ

一、驅除樹數一萬五千本

二、驅除人員三百五十八人分

三、藥液使用量松脂合劑原液十七石、機械油乳劑十二石

四、效果第一回(七月)ハ主トシテるびー蠟虫驅除ノ爲メ松脂合劑ヲ使用シ第二回ハ(十月ヨリ翌年二月迄)機械油乳劑ヲ矢ノ根介殼驅除ニ使用セシガ後者ハ本年初メテ使用シ效果殊ニ顯著ナリ

(ハ) 農事改良實行組合

農事ノ改良發達ヲ期スル爲メ部落ヲ單位トシ之ガ設置ヲ促シ市及ビ市農會ノ指導奬勵ニ對シ實行機關トシテ其ノ徹底セル成績ヲ得ン事ヲ期ス

大正十五年度末ニ於ケル組合ノ狀況左ノ如シ

組合數	組合員數	組合經費	
一七	四四六人	一、二八四圓一七	米、麥、蔬菜ノ立毛品評會。農產物品評會。苗代品評會開催。組合貯金基本財產ノ造成。共同購入農事視察員派遣。堆肥舍建設。田畑ノ共同開墾若ハ整理。害虫驅除奬勵。農用機械ノ共同利用。採種圃設置。

(ニ)養蠶組合

農家ノ副業、市內ノ家庭副業トシテ養蠶業ヲ奬勵スルハ本市目下ノ產業狀態ニ於テ最モ相應シク最有利ナルモノナルヲ以テ之ガ奬勵ニ努メタリ、而シテ本組合ノ狀況ヲ記スレバ左ノ如シ

組合名稱	組合員數	組合經費	組合事業大要
日宇養蠶組合	二三人	一八四、六〇圓	蠶種共同購入、稚蠶共同飼育、生繭共同販賣、共同桑園設置、講話會開催、
		大正十五年七月	

二、將來ノ方針

農事組合團体奬勵方針

(イ)市　農　會

市農會ハ大正十一年農會法ノ改正ト共ニ其組織ヲ改善シ又較近ニ隣接貳ケ村農會ヲ併合シテ區域人員ニ於テ著シク增加シ縣下有數ノ大農會トナリ諸般ノ施設奬勵ヲナシ農業啓發ニ努力シツヽアリト雖モ時代ノ進運ニ伴ヒ生產上、經濟上、農民生活上、將又本市對農村トノ物資取引ノ發展ニ資スル上ニ於テ適當ノ施設奬勵カ促サムトス。而シテ市農會ニ於テ施設奬勵ノ急務ト認ムルモノ左ノ如シ。

(甲)生產的方面

(一)米麥種子ノ更新

米麥優良種子ノ更新奬勵ニ付テハ原種ヲ縣農事試驗場ヨリ配付ヲ受ケ依託採種ヲ爲シ當業者ニ交換セシメ良種ノ普及ニ努メツヽアリト雖モ尙左記施設ヲ爲シ之ガ促進ニ努ムルヲ必要トス。

(イ)五戶乃至十戶ノ範圍ニ於テ共同採種組合ノ設置ヲ計リ種子交換ノ實行ヲ容易ナラシムルコト

(ロ)採種組合ノ効果ヲ徹底的ナラシムル爲メ共同採種立毛品評會ヲ開催スル事

(ハ)當業者ヲシテ優良種ノ栽培種子更新ノ有利ナル事ヲ知得セシムルコト

(ニ)肥料增施及使用法ノ改善

(イ)施肥量一般ニ少ク又配合ノ方法適當ナラザルヲ以テ各部落ノ土性及耕作ノ狀態ヲ考察シ可成理想的肥料成分ノ配合ト施肥量ヲ算定シ之ガ應用ヲ勸奬スルコト

(ロ)自給肥料ノ增給ヲ圖ル爲メ堆肥製造ヲ目的トスル品評會ヲ開催スルコト及適當ノ方法ニ依リ堆肥ノ効果ヲ知悉セシムルコト

(ハ)堆肥舍ノ建設及改築ヲ勸奬スルコト

(ニ)靑刈大豆其他綠肥ノ栽培ヲ奬勵スルコト

(ホ)肥料共同配合所ヲ建設スルコト

(三)病害虫防除法ノ徹底

(イ)重要ナル殺虫殺菌劑ノ製法及使用ヲ指導シ且新ニ發明發賣セラル、藥劑ニ對シテモ常ニ調査研究ヲ爲シ農家ノ藥劑選擇ニ資スルコト

(ロ)病害虫防除器具ヲ設備シ當業者ニ貸付シ驅除豫防ノ勵行ヲ促スコト

(ハ)病害虫ノ共同又ハ一齊驅除豫防ヲ促スコト

(四)裏作ノ普及改良

(イ)水稻裏作トシテ麥作及蔬菜其ノ他ノ栽培研究地ヲ設置シ蒔方及施肥法ノ改善ヲ圖ルコト

(ロ)水稻裏作トシテ蔬菜及菁苔ノ栽培普及ヲ圖ルコト

(五)園藝業ノ改善

(イ)庭園其他果樹ノ品種ヲ改良スル爲メ優良穗木ノ共同接木ヲ行フコト
(ロ)蔬菜ノ共同苗床ノ設置ヲ奬勵スルコト
(ハ)部落ニ試作場ヲ設ケ各種蔬菜ノ栽培研究ヲナシ部落的特産造成ニ努ムルコト

(乙)經濟的方面

(一)共同事業ノ普及奬勵

(イ)各部落ニ實行組合ノ設立ヲ促シ適切ナル共同作業ノ實行ヲ奬勵スルコト
(ロ)肥料種苗其他農業用品ノ共同購入ヲ爲スコト

(二)生産費ノ節減指導

(イ)小型發動機ノ普及ヲ圖リ穀類ノ調製及精白等ヲ奬勵スルコト
(ロ)耕鋤具其他優良農具ヲ選定シ之ガ設備ヲ勸奬スルコト
(ハ)簡易ナル農業簿記ノ使用普及ヲ圖リ農業經濟ノ整理改善ヲ促スコト
(ニ)農業經營ニ付テハ基本計畫ノ樹立ヲ促スコト

(丙)農民生活ノ改善

(一)農業住宅建築法ノ理想的設計ヲ爲シ之ガ實施ヲ勸奬シ且部分的改修實行ヲ促スコト
(二)宅地及庭園ノ整理ヲ圖リ其利用ヲ促ス爲メ宅地利用品評會ヲ開催スルコト

(丁)市對農村トノ物資取引

市對農村トノ物資取引ノ圓滑ヲ計リ自他ノ利益ヲ增進シ共存共榮ノ目的ヲ達成スベキ方策種々アリト雖モ研究施設ノ急ナルモノ左ノ如シ

(一)農業倉庫ノ建設

農村對都市ノ物資取引ノ中心ハ穀類ニシテ之ガ取引上尙改善ノ余地少カラズ。將來農業倉庫ヲ建設シ穀類ノ貯藏賣買ノ利便ヲ計ルベク隣接地方ト協力シテ研究調査ヲ遂ゲ之カ建設ニ努ムルヲ必要トス。

(二)生産品共進會開催

從來市農會ハ本市ト物資取引ノ密接ナル地方ト聯合シ農産共進會ヲ開催シ相當ノ成績ヲ收メタリシガ尙時代ノ進運ニ伴ヒ時々此種ノ共進會ヲ開催シ一層需給兩者ノ利福增進ニ努ムルヲ肝要トス。

(ロ)果樹病害虫防除組合

本組合ハ本縣柑橘害虫驅除奬勵規定ニ依リ大正十一年之ヲ組織シ主トシテ柑橘ノ病害虫驅除豫防ノ共同實行ヲ爲シツヽアレドモ尙組合員ノ自覺徹底ヲ缺キ充分ノ効果ヲ擧ゲ得ザル憾ナキ能ハザルヲ以テ將來益々組合員ノ協力一致ヲ促シ初期ノ目的ヲ達成セシメムトス。

(ハ)農事改良實行組合

農事改良實行組合ハ現在十七組合ニ過ギザレドモ市農會共同實行ヲ促シツヽアルヲ以テ其優秀ナルハ之ヲ表彰シ其長所ヲ向上セシメ組合員ノ自發的努力ヲ促サムトス。

(ニ)養蠶組合

本市內當業者ヲ網羅シテ組織セラレタル本組合ハ設立後日猶淺キモ蠶種共同購入、稚蠶ノ共同飼育及生繭共同販賣等相當見ルベキモノアリト雖モ未ダ本市ノ養蠶業ハ副業トシテ最モ適當セルニ拘ハラズ一般ニ幼稚ナルヲ免ガレザルヲ以テ將來之レガ發達ヲ促シ保護指導ヲ加ヘ組合ノ事業ヲ助成セムトス。

第四、農業教育

一、現況

(一)機關

農業教育上特設シタル機關ナキモ實業補習學校ニ於テ農業科ヲ設置シテ農業一般ノ教育ヲ爲ス外、市又ハ市農會ニ於テ時々講習講話會ヲ開キ農業智識ノ向上ヲ促シツヽアリ

農業補習教育並ニ農事講習ノ現況ヲ記スレバ左ノ如シ

(イ)農業補習教育

補習學校名	設立數	現在就學數	教育程度	備考

日宇實業補習學校	一		
佐世實業補習學校	一		
計	二		

(ロ)農事講習講話

最近一ヶ年ニ開催シタル成績ヲ記スレバ左ノ如シ

講習會名	講習終了者數	會期	備考
畜産講習會	五〇	一日	佐世保市農會並ニ佐世保市主催
蠶業講習會	四〇	一日	佐世保市農會主催
婦人農事講習會	三〇	五日	日宇農會主催
竹細工講習會	二五	五日	同右

(ニ)教育程度

農業教育ヲ受ケタルモノヽ數ヲ表示スレバ左ノ如シ

	小學校又ハ農事講習所之ニ準ズベキモノヲ卒業シタルモノ	農事講習又ハ之ニ準ズベキモノヲ終了シタルモノ
小學校程度	一七三	日宇小學校ニ併置
中學校程度	一五三	同右
高等學校程度	三六	佐世小學校ニ併置
大學校程度	二	
	四	
	一	
	四五八	

二、將來ノ方針

農業教育ノ振興ヲ圖リ農業智識ノ向上ニ努ムルハ極メテ緊要ノ事ニシテ本縣ニハ縣立農學校ノ一校ヲ有スルノミニシテ之ヲ地方的ニ考察スレバ本市ヲ中心トシテ北松浦、東彼杵郡其他隣接地方ノ農業開發上乙種程度ノ農學校ヲ增設シ農村中心人物ヲ養成スル必要ナシトセズ然レドモ斯ノ如キ問題ハ多額ノ經費ヲ伴ヒ將來ニ於ケル市ノ財政其他研究考慮ヲ要スベキ所多キヲ以テ差當左左記事項ノ奬勵ニ努メムトス

(一)農業補習教育ノ振興助成

青年男女ニ對スル農業教育ハ現在日宇、佐世ノ兩實業補習學校ニ農業專任教員ヲ置キテ農業教育ヲナシ農業智識ノ向上ニ努ムル所アリテ漸時合理的ニ進歩シツヽアリト雖モ尚實地教授上ノ設備完カラズ又生徒父兄ノ自覺ヲ缺ギ就學督勵ノ如キハ殆ド學校當局ニ一任シ補習教育ノ徹底ヲ缺グ憾ナシトセズ將來補習教育ハ農業部落ノ實行組合又ハ市農會等ト連絡ヲ保チテ設備ノ完成ヲ期スルト共ニ教育ハ市及市農會ノ指導奬勵方針ニ基キテ之ヲ行ヒ所謂教育ノ實際化ニ努ムルヲ肝要トス

(二)農業趣味教育ノ普及

農業ノ改善發達ノ基礎ハ農業趣味ノ誘導ヨリ漸次實利主義ニ進マザル可ラズ而シテ市內小學校又ハ女學校中校庭ノ一部又ハ適當ノ地ヲ撰定シテ小區域ノ花壇栽培ヲ設置シ兒童及生徒ニ之ガ培養ヲ爲サシメ以テ趣味ノ誘導ヲ爲スニ於テハ將來本市ノ農產業開發上多大ノ効果ヲ收メ得ベク農業部落ヲ包擁スル小學校ニ於テハ農業教員ヲ置キ其ノ任ニ當ラシムルヲ急務トス

(三)農業部落ニ中心人物ヲ養成スルコト

農業實務ノ指導奬勵ハ其方法種々アリト雖モ農業部落ニ於テ先覺者ガ農業ノ理想的經營ヲ爲シ附近農家ニ其ノ實際ヲ指導スル場合ハ効果最モ多キヲ以テ本縣立農事試驗場ニ於テ養成スル乙種練習生入所希望者ニ對シテハ市及市農會等ハ適當ノ方法ニ依リ之ガ入所練習ヲ助成シ修業後ハ部落ニ歸リ一般農家ノ中堅者トナリ指導奬勵ヲ爲サシムルニ於テハ其効大ナルベシ

(四)主婦ニ對シ農業智識ノ向上ヲ圖ルコト

從來ノ農事講習等ハ主トシテ男子ヲ本位ニ開設セラレタルモ一家ノ農業經營上ノ改善ハ主婦ノ自覺ニ俟ツ所亦多大ナルヲ以テ將來婦人ニ對シテモ講習講話會等ヲ開設シ或ハ先進地方ノ視察ヲ奬勵シ主婦ノ智識向上ニ努メムトス

第五、蠶絲業

一、現況

(一)養蠶業

1 養蠶戸數

	大正十四年	大正十三年	備考
春蚕	三	一九	
夏蚕	三	一九	
秋蚕	二四	二〇	
晩秋蚕	三〇	二五	
合計	九八	八三	仝一戸ニテ數回飼育スルコトアルモノトス

2 飼育品種及産繭額

	大正十四年			大正十三年			備考
	枚數	仝上品種別	産繭貫數	枚數	仝上品種別	産繭貫數	
春蚕	三	交雜	二九	三四	交雜	二〇一	
夏蚕	二八	日本種	一四	二四	日本種	一三四	
秋蚕	三一	日本種	一五四	一四	日本種	四三	
晩秋蚕	三三	日本種	二〇八	二九	日本種	一八〇	
合計	一一四		七三九	一〇一		五四八	

3 桑園反別

(イ)畑總反別(第一部農業經營土地ノ項ニアリ)

(ロ)桑園反別(品種別)

魯桑	一二町一八	
鼠返	三、〇〇	
市平	〇、〇二	

(ハ)一戸植付反別「大正十四年現在」

最大	〇、三〇
最小	〇、〇二

(ニ)桑園ニ適當ト認メラル、畑反別部落別

横尾	二、町〇〇	舊佐世村合計五、八〇
山中	、八〇	
熊ヶ倉	三、〇〇	
折橋	、六〇	
大塔	五、〇〇	舊日宇村合計九八、〇〇
猫山	五、〇〇	
木場	三〇、〇〇	
犬尾	五、〇〇	
里	二〇、〇〇	
東浦	一〇、〇〇	
崎邊	一五、〇〇	
福石	三、〇〇	
木風	五、〇〇	

右ノ外舊佐世保市内若干

4　繭ノ販賣方法

産繭額僅少ナルヲ以テ販賣方法モ區々ナレドモ主トシテ早岐ノ出張購入者ニ對シ個人販賣ヲ爲ス

5　桑苗仕立本數

大正十三年度　二八、〇〇〇本

大正十四年度　五、〇〇〇

6　蚕種製造

製造業者ナシ

7　蚕業教育

從來特ニ蚕業ニ關シ教育ノ施設無シ

(二)製絲業

1　現在製絲業者

製糸ヲ以テ生業ト爲ス者無ク只僅カニ座繰等ニ依リ自家用ノ製品ヲ爲ス者アルモ殆ンド論ズルニ足ラズ

2　製糸會社設立豫定地

本市内ニ於テ製糸會社ノ豫定地トシテ適當ト認ムルハ山ノ田附近平原地及元日宇村内ニ於ケル平原地帶トス、工場倉庫及女子寄宿舍其他ニ於テ相當ノ建築地積ヲ要スルヲ以テ人家密集ノ地帶ハ之ヲ避ケザル可カラザルモノトス地區ノ具体的決定ハ將來ニ於ケル都市計畫トノ關係ヲ考慮セザル可カラズ

製糸業ニ關シ最大ノ條件ハ水質ノ適否ナリトス今本市水道水ニ付糸質ニ影響ヲ及ボスベキ物質ノ含有量ヲ調査スルニ凡次ノ如シ

有機物		一、五八〇
硫化石灰（硫酸石灰）		一、二三〇
塩化石灰		二、九五四
炭酸石灰		四、九九六
硝酸石灰		—
硫酸苦土		—
塩化苦土		六、六五九
硫酸鐵		〇、五四四
硫酸アルミナ		四、四二三
塩化アルミナ		—
硝酸アンモニア		—
硅酸曹達		一〇、一五六
塩化加里		一、二八九

備考　以上含有量ハ水一リツトル中ミリグラムニテ表示ス

一、硝酸及安母尼亞ハ含有セズ

二、上記成分ノ外ナトリウム炭酸ヲ含有ス

三、性ハ微弱アリカリ性トス

四、硬度一度半（但獨逸法）

二、奬勵方針

日宇佐世兩村併合前ノ本市ハ農業部落狹少ニシテ畑地ハ主トシテ蔬菜栽培ヲ爲シタルヽヽ蚕糸業ノ見ルベキモノ無カリシハ止ムヲ得ザル處ナリシモ隣村併合ノ結果農業部落著シク澎張スルコトヽ爲リ併合前ノ畑地面積從來二百三十町ハ五百八十町ニ增大シ從テ桑園トシテ適當ナル畑地亦百町歩ヲ超ユルニ至リタルヲ以テ本業ノ奬勵ニ就キ相當ノ考慮ヲ要スルモノトス

農家副業トシテノ蚕糸業ノ前途ニ就テハ人造絹糸ノ發達ト支那ニ於ケル養蚕業トノ二者ノ將來ヲ考ヘ危惧ノ念ヲ

抱ク者無キニ非ザルモ人造絹糸ト天然絹糸トハ自カラ其用途ヲ異ニスルヲ以テ近キ將來ニ於テ人造絹糸ヲ驅逐スルニ至ルガ如キハ容易ナラザルモノトス、隣邦支那ニ於テハ蠶糸業ニ關シ各種ノ天惠アリト雖モ諸種ノ事情ハ之ガ發達ヲ阻害スルモノアリ敢テ深ク念頭ニ置クヲ要セズ本邦ノ生糸ハ依然世界大半ノ需要ヲ充ス可キ地位ニ在ルモノナリト斷定シテ大過無シト信ズ

又昭和二年秋蠶ニ於テ金融界ノ變調ト飼育中天候不良ノ結果繭價未曾有ノ暴落ヲ示シタル結果トシテ本業ノ前途ヲ憂フル者アルモ此ノ如キハ一時ノ變調ニシテ之ヲ以テ直チニ本業ヲ廢棄スルガ如キハ早計モ亦甚シキモノト謂ハザル可ラズ

(一)養蠶業

以上ノ如ク觀察スルニ於テ農家副業トシテノ蠶業ハ將來ニ於テモ相當之ヲ奬勵誘導ノ要アルモノナルヲ以テ本市ニ於テハ全畑地面積ノ約一割即チ六十町歩ヲ目標トシ養蠶業ヲ奬勵セントス之ガ方法トシテ凡ソ次ノ如キ施設ヲ爲スモノナリ

甲、指導者ノ設置

專門ノ技術者ヲ設置シ飼育各戸ニ就キ指導セシム

乙、蠶業智識ノ普及

臨機ニ講習講話會ヲ催シ桑掛栽培飼育其他斯業ニ關スル智識ノ普及ヲ計リ又縣ニ於ケル移動教室等ハ頻繁ニ本市ニテ開催セラルル樣努メントス

丙、桑園ノ改良新設

優良桑苗ノ新植改植ヲ奬勵シ時宜ニ依リテハ桑苗購入費ノ一部ヲ補助シ且ツ桑園品評會ヲ開催ス

丁、蠶室ノ整備

將來養蠶ニ適スル部落ニ於ケル農家ニシテ住宅ヲ新築スル場合ニ於テハ通風保溫等ニ關シ蠶室ニ兼用スルコトヲ考慮シ設計スルコト及現在住宅ニ僅少ノ改造ヲ加フル等隨時之ガ指導ヲ爲ス

戊、稚蠶共同飼育ノ奬勵

共同飼育ニ對シテハ時宜ニ依リ補助金奬勵金ヲ交付シテ之ヲ奬勵誘導セントス

己、優良品種ノ普及統一

品種ノ統一ヲ計ルコトハ販賣時期其他諸種ノ点ニ於テ有利ナルヲ以テ縣ノ奬勵品種ヲ奬勵セントス

庚、共同販賣

生繭ノ共同販賣ヲ爲サンガ爲メ產額增大ノ曉ニ於テハ市內ニ繭市場ヲ開設シ市內產ノミナラズ隣接町村ノ分ヲモ此市場ニ於テ販賣スルニ至ル樣努メントス

蠶種製造業ニ就テハ農家副業トシテ適當ナラズト雖將來本市並ニ本市ヲ中心トセル隣接郡內ノ養蠶業ノ發展ト共ニ一二其ノ專業ヲ市內ニ於テ營ムハ相當ノ利便ヲ得ベク殊ニ市內ニ製氷會社アリ隨時短時間內ニ氷ノ供給ヲ受クルコトヲ得ルヲ以テ冷藏設備比較的容易ナルモノアリ一層本業經營上ノ條件有利ナルモノアルニ依リ將來本業經營者ニ對シ相當ノ保護指導ヲ爲サントスルモノナリ

(二)製絲業

本市ヲ中心トセル隣接郡部ノ產繭額七八万貫ニ至リタル時期ニ於テ本市ニ一製絲會社ヲ經營シ產繭ノ消化ヲ計ルコトハ市ニ於ケル生產工業發達ノ上ヨリ見ルモ深ク考慮スベキ点ナリトス製絲ニ最大關係ヲ有スル水質ニ就テハ現況調查ニ於テ水道水ノ分析表ヲ掲ゲタルガ如ク該表ニ依レバ含有無機物中ニ製絲上最モ忌ムベキ硫酸鐵並ニ硅酸曹達ノ含有量ハ含有量過多ニシテ前者ハ煮繭時間ヲ遲クシ生糸ニ黑味ニ帶バシメ光澤ヲ奪ヒ抱合並ニ手觸ヲ不良ナラシムベク後者ハ生糸ニ赤味ヲ帶バシメ手觸及强力伸度ニ惡影響ヲ及ボスヲ以テ使用ニ當リテハ水質ノ改良ヲ要スルモノトス以上二者ヲ除キタル他ノ含有物ニアリテハ不適當ナルモノアルヲ認メズ然レドモ分析上ノ含有物質ハ常ニ變化アルモノナルヲ以テ調查表ニ掲出セル分量ハ絕對的ノモノニ非ズ只將來計劃上深甚ノ注意ヲ要スルモノトシテ茲ニ之ヲ提唱シ置クモノナリ

第二部　商工業

一、現況

商業總論

本市ハ海軍鎮守府ノ諸施設ヲ中軸トシテ商工業特ニ商業之ヲ圍繞シ原始的產業更ニ其外廓ヲ形成セルノ觀ヲ呈セリ

此都市形態ハ又偶々本市ノ經濟的推移ト其內容トヲ如實ニ表現セルモノト謂フヘク卽元來消費地ニシテ一大消費者タル海軍ヲ中心ニ其直接間接購買力ガ價値滲透ノ理法ニ由リ商業ヲ振起シ商工業漸次其盛大ヲ來スニ從テ商工業圈ハ遠心的ニ擴大セラレテ次第ニ原始的產業區域ニ侵入シツヽ今日ニ及ベリ

此沿革ト任來ノ傾向並ニ今日ノ現狀ニ稽ヘ海軍ト商工業ト及ヒ本市ノ外廓タル原始的產業トノ各獨得ノ活動並ニ其ノ相關的活動ニヨリ本市特有ノ經濟事情ヲ深ク考察シテ將來ノ發展ヲ企圖セサルベカラズ

以下項ヲ分チテ現況ヲ餘スル所アルベシ

(一)　商人

本市ノ商人總數ハ四千四百三十三人ニシテ國稅營業稅納稅者二千百八十四人縣稅營業稅納稅者二千二百四十九人ナリ今之ヲ本市總戶數ト比較スレハ左表ノ如シ

(イ)　總戶數ト商家戶數トノ割合

年次	總戶數	商家戶數			總戶數對比
		國稅營業稅納稅戶數	縣稅營業稅納稅戶數	計	
大正十三年	二、五五〇	二、三五八	二、四二八	四、七八六	〇、二弱
大正十四年	二、五五二	二、一八四	二、二四九	四、四三三	〇、三弱
前二ヶ年增減	一	一七四	一七九	三五三	
(十)		(一)	(一)	(一)	

（總戶數ハ年末現在　商家戶數ハ四月一日現在）

之ヲ業態別ニ區別スレバ左表ノ如シ

(ロ) 業態別商家戸數

業態別	大正十四年				大正十三年			
	國稅營業稅納稅戸數	縣稅營業稅納稅戸數	國稅營業稅納稅戸數	縣稅營業稅納稅戸數	國稅營業稅納稅戸數	縣稅營業稅納稅戸數	國稅營業稅納稅戸數	縣稅營業稅納稅戸數
物品販賣業	一、七九六	一、二三	一、八八六	一、三四	一、七九六	一、二三	一、八八六	一、三四
銀行金錢貸付業	二	二	二	一	二	二	二	一
運送物品貸付業	二一三	一二	一六九	一三	二一三	一二	一六九	一三
倉庫請負業	六	一	五	一	六	一	五	一
貸席業	二四	一五	二六	一八	二四	一五	二六	一八
旅人宿業	二	一	二	一	二	一	二	一
飲食店業	九八	八七	一一八	一〇〇	九八	八七	一一八	一〇〇
周旋代理業	一	一	一	一	一	一	一	一
仲立業	一九	一一	一〇	七	一九	一一	一〇	七
問屋業	二五	五〇	二六	四〇	二五	五〇	二六	四〇
湯屋業	一	八	一	四	一	八	一	四
理髪業	一七	一三	一七	一〇	一七	一三	一七	一〇
渡船業	一	一	一	一	一	一	一	一
行商	八	六	八	六	八	六	八	六
其他	一、一八四	一、二四九	一、三五八	一、四八二	一、一八四	一、二四九	一、三五八	一、四八二
計	二、一八四	一、二三	二、三五八	一、四八二	二、一八四	一、二三	二、三五八	一、四八二

(ハ) 主要商業一覽表

更ニ右商業中主要商業ト認ムルモノヲ擧グレバ左表ノ如シ

（大正十五年九月現在　國稅營業稅二十圓以上納稅者）

業態別	稅額	戸數	從業員數
銀行業	一、八八七、一二	一三	二一四
米穀商	三八三、二八	四三	八五
酒商	三四九、四九	二九	八八
呉服商	三〇七、一三	一三	一〇九
履物商	三四一、五三	一八	三七
青物商	三〇四、一四	一三	五〇
賣藥商	三〇九、五四	一三	二九
飲食店業	二四五、九八	二八	一一
小間物化粧品商	二六八、九九	一七	五七
文房具商	二二四、五九	一七	七一
金物商	二二六、三七	一八	四二
醬油商	二二三、三九	一〇	七五
旅人宿業	一八二、六九	三〇	五四
漁類取扱業	一四四、一七	一三	一〇
乾物商	一三七、八四	一七	三三
菓子商	一〇五、七六	一五	八〇
代理業	一三五、〇〇	一〇	一六
洋品雜貨商	一二八、〇八	一七	二八
請負業	一二五、七〇	一三	三二
洋服商	八九、三八	一三	一八

薪炭商	六七、八〇	一六	三
合計	六、一五七、九三	四九一	一、二六六

(二) 會社

本市ニ於ケル商事會社ハ商工業ノ發達ト相俟テ逐年其數增加シ大正十四年末ニハ六十七ニ達シ之ヲ營業別ニ區別スレバ商業三十、工業十、水產業一、金融業十三、運輸業八、其他五ニシテ之カ資本總額一千十三萬八千六百圓內拂込濟額六百十二萬五千六百八十七圓積立金四十七萬一千八百八十九圓ナリ又之ヲ組織別ニ觀レハ株式四十六、合資十四、合名七ナリ

尙之ヲ本支店別ニ觀レハ株式ニ於テ本店三十三、支店十三、合資ニ於テ本店十三、支店一、合名ニ於テ本店五支店二ナリ

惟フニ個人的企業ヨリ團体的企業中株式會社ノ勃興發達ハ最近全國的ノ顯著ナル傾向ニシテ本市ニ於テハ其ノ程度先進都市ニ比シ極メテ緩漫ナリト雖モ尙同一軌道ヲ進ミツヽアルノ事實ヲ觀取シ得ベシ

(イ) 業態別組織別資本別會社調

(支店ヲ除ク)

業態別	組織別	一萬圓未滿	五萬圓未滿	十萬圓未滿	五十萬圓未滿	百萬圓未滿	百萬圓以上	計	資本總額	拂込濟額	積立金	備考
商業	株式會社	一	二	三	七	二	一	一七	六、七二、〇〇〇	一、一五、九三七	三九、五〇〇	
	合資會社	二	一	三	一	一		五	七四、〇〇〇	七四、〇〇〇		
	合名會社	二	一	一	一			三	一一、五〇〇	一一、五〇〇		
工業	株式會社	一	一	一		一		四	五二五、〇〇〇	四一三、七五〇	一六、五四六	
	合資會社	二	一					三	三一、三〇〇	三一、三〇〇		
	合名會社	二						二	二四〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇		

(ロ) 拾萬圓以上會社調

(昭和二年六月末日現在)

銀行ヲ除ク

業態別	組織別	本支店別及所在地	取締役又ハ代表者	公稱資本金	設立年月日	商號
水產業	株式會社	本店 五島町	富田愿之助	三〇〇、〇〇〇	大正二年三月二十一日	五島電燈株式會社
金融業	合資會社	本店 濱田町	肥塚末二	二〇〇、〇〇〇	明治四十三年一月一日	合資會社肥塚商店
	株式會社	支店 戸尾町	伊丹彌太郎	一四四、三一、二〇〇 円	明治三十八年十一月廿九日	東邦電力株式會社
運輸業	合資會社	本店 松浦町	富田愿之助	三〇〇、〇〇〇	大正二年三月二十一日	五島電燈株式會社
	株式會社	支店 戸尾町	伊丹彌太郎	一四四、三一、二〇〇	明治三十八年十一月廿九日	東邦電力株式會社
其他株	合名會社	本店 濱田町	肥塚末二	二〇〇、〇〇〇	明治四十三年一月一日	合資會社肥塚商店
	合資會社	本店 松浦町	富田愿之助	三〇〇、〇〇〇	大正二年三月二十一日	五島電燈株式會社
計	株式會社					
	合資會社					
	合名會社					
合計						

株式會社日之出商會	大正四年十月二十日	二五〇、〇〇〇	本店 萬津町	一
三菱商事株式會社	大正七年四月十五日	一五、〇〇〇、〇〇〇	支店 港町	四
佐世保電氣軌道株式會社	大正七年八月十日	五〇〇、〇〇〇	仝 島潮町	六一
佐世保鐵道株式會社	大正七年八月二十一日	一、〇〇〇、〇〇〇	本店 俵町	七八
佐世保土地株式會社	大正七年八月二十六日	一五〇、〇〇〇	仝 相生町	三
株式會社田中丸商店	大正七年十月三十日	一、〇〇〇、〇〇〇	支店 榮町	五〇
久富合名會社	大正八年七月二十五日	三七五、〇〇〇	仝 下京町	六九
佐世保紙株式會社	大正八年十月十五日	一五〇、〇〇〇	本店 榮町	三八
西肥自動車株式會社	大正九年二月十日	一〇〇、〇〇〇	仝 相生町	一八
佐世保汽船株式會社	大正九年十二月四日	五〇〇、〇〇〇	仝 島瀬町	三五
株式會社共運組	大正九年十二月五日	一五〇、〇〇〇	仝 萬津町	五一
株式會社佐世保魚市場	大正九年十二月十七日	二二五、〇〇〇	仝 萬津町	一
馬場商事株式會社	大正十年一月六日	一〇〇、〇〇〇	仝 常盤町	六七
中村商事株式會社	大正十年六月二十三日	三〇〇、〇〇〇	仝 天滿町	三四
東邦瓦斯株式會社	大正十一年六月二十六日	二二、〇〇〇、〇〇〇	支店 萬津町	四三
株式會社大和屋呉服店	大正十一年八月十二日	一〇〇、〇〇〇	本店 松浦町	三一
合名會社蒲原時計店	大正十一年十二月十四日	三八〇、〇〇〇	支店 濱田町	三一
株式會社米倉魚市場	大正十二年五月二十三日	一二五、〇〇〇	本店 日字里免	四一九四

齊藤源一	
川井源八	
門屋尚志	
中倉萬次郎	
一ノ瀬靜夫	
田中丸善八	
久富季九郎	
永池義一郎	
中村京太郎	
古澤與吉	
北村伊之次	
田中丸善藏	
馬場清次	
中村實	
岡本櫻	
佐保畢雄	
蒲原伊三郎	
古賀健達	

株式會社大丸呉服店	大正十三年三月九日	五〇〇、〇〇〇	仝 本島町	七〇
平戸電燈株式會社	大正十三年十一月十五日	一五〇、〇〇〇	仝 保立町	一四
ヤマコ醬油古賀合名會社	大正十四年五月十七日	一八〇、〇〇〇	仝 港町	五二
佐世保合同運送株式會社	昭和二年四月二十二日	三〇〇、〇〇〇	仝 三浦町	三五

高木龜太郎	
中倉萬次郎	
古賀勘四郎	
山下楚代太郎	

（三）價物

大正十三年仝十四年ニ於ケル本市主要物價ヲ示セハ左表ノ如シ

品種利物價表

品種別	單位	大正十四年 三月	大正十四年 九月	大正十四年 十二月	大正十三年 三月	大正十三年 九月	大正十三年 十二月
玄米 上等	一石	三七、五〇円	四三、三〇円	三五、〇〇円	三五、〇〇円	四一、〇〇円	三八、〇〇円
玄米 中等	仝	三七、二〇	四三、〇〇	三四、四〇	三四、二五	四〇、二五	三七、二五
玄米 下等	仝	三六、九〇	四二、七〇	三四、一〇	三三、七五	三九、七五	三六、七五
白米 上等	仝	三八、一〇	四四、〇〇	三五、四〇	三七、〇〇	四三、〇〇	四〇、〇〇
白米 中等	仝	三七、八〇	四三、六〇	三五、〇〇	三六、二五	四二、二五	三九、二五
白米 下等	仝	三七、五〇	四三、二〇	三四、六〇	三五、二五	四一、五〇	三八、五〇
大麥	仝	一五、六〇	一一、〇〇	一一、七〇	一一、〇〇	一一、五〇	一四、五〇
稞麥	仝	二四、〇〇	一七、〇〇	一八、〇〇	二一、八〇	一九、〇〇	二三、〇〇
小麥	仝	二三、〇〇	二二、〇〇	二一、八〇	一八、〇〇	二〇、〇〇	二六、〇〇
大豆	仝	二一、五〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	一八、二〇	二〇〇、五〇	二一、〇〇
小豆	仝	三六、〇〇	三二、五〇	二七、〇〇	二八、〇〇	三三、〇〇	三二、〇〇

| | | |

(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ) 當業者ハ常ニ離島ノ商況ヲ調査シ之ニ適應シ得ル樣豫テ準備ヲ怠ラザルコト
市況通報等ヲ配付シ常ニ本市ノ商況ヲ通報スルト同時ニ離島向ノ物品ハ努メテ之ヲ宣傳スルコト
時機ニ應ジ巡廻見本市出張販賣等開催ヲスルコト
離島主催ノ水產品評會又ハ水產品試賣會等ヲ可成本市ニ開催セシムルコト
本市ニ水產倉庫ヲ建設シ離島水產業者ニ便宜ヲ與フルコト

(二) 滿鮮貿易ノ振興

大正拾五年度ヨリ釜山航路ノ開拓ヲ見爾來朝鮮本土トノ直取引逐年增進シツヽアリト雖モ未ダ局部的ニ限ラレタル憾ナシトセザルノミナラズ滿洲方面トノ取引ノ如キ殆ド皆無ニ等キヲ以テ將來朝鮮全土ハ勿論滿洲方面迄販路ヲ擴張スルト同時ニ彼地ニ於ケル豐富ナル物資ヲ移入シ彼我ノ取引增進ヲ圖ルヲ要スベク市トシテハ大体左ノ方針ヲ採ラムトス

(イ)(ロ) 將來適當ノ時機ニ於テ朝鮮西沿岸各港及滿洲大連トノ交路開拓ニ努ムルコト
本市當業者視察團ヲ組織シ鮮滿地方ニ於ケル產業狀況ヲ實地ニ視察調査セシムルト同時ニ該地方ニ於ケル當業者ノ視察團ヲ誘致シ彼我當業者ノ接觸握手ニ努メシムルコト

(ハ) 滿鮮地方ニ於テ開催セラレル博覽會共進會等ニハ可成出品セシムルト同時ニ本市ニ於ケル博覽會共進會ニ對シテモ極力出品勸誘ニ努ムルコト

(ニ) 時機ニ應ジ本縣勸業協會等ニ依囑シ見本市又ハ出張販賣等ヲ開催スルコト

(三) 百貨市ノ開設

商業繁盛方策種々アリト雖モ「市」ノ開設モ其ノ一方法タリ幸ニ本市ハ海陸交通ノ便ヨキ塩濱町地先ニ千數百坪ノ埋立ヲ爲シツヽアルヲ以テ之ガ竣工後ハ每年適當ノ時機ニ於テ市ヲ開設シテ離島及隣接郡部地方トノ取引增進ニ努ムルトコロアラムトス

(イ)(ロ) 春秋二回三日宛位之ヲ開設スルコト
本市生產品ハ勿論茶陶磁器古着ヲ初トシ其他總ユル商品ヲ廣ク蒐集スルコト

(ハ) 宣傳ヲ盛ニスルト共ニ船車ノ割引券ヲ配付シ多數地方人ノ誘致ニ努ムルコト

(四) 商品陳列所ノ創設

本市ヲ產業都市トシテ發達セシメントセバ之ガ助成機關即チ當業者ノ指針タルベキ機關ノ創設ヲ必要トス全國各都市ニ於テハ續々商品陳列所ノ創設ヲ見ツヽアル現在商工都市トシテ之ヲ有セザルトコロ殆ドナキ狀態ナリ然ルニ本市ニ於テハ未ダ其ノ計畫ナキヲ遺憾ナリトス故ニ將來市財政上ノ關係ヲ考慮シ本機關ヲ創設シ商工技師又ハ商工技手ヲ設置シ凡ソ左ノ事業ヲ行ヒ以テ本市產業ノ改善發達ニ資スルノ要アルモノトス

(イ) 本市生產品ノ陳列及委託販賣
(ロ) 產業ニ關スル參考品ノ陳列及貸與
(ハ)(ニ) 商品ニ關スル各種ノ調査
商取引ニ關スル各種ノ調査及紹介
(ホ) 本市生產品ノ試賣會及出張見本市ノ開催
(ヘ) 品評會展覽會ノ開催
(ト) 產業ニ關スル意匠圖案ノ調製
(チ) 產業ニ關スル刊行物ノ發行及蒐集展覽
(リ) 其ノ他產業ノ改善發達上必要ナル事項

而シテ本市一般商工業ヲ發展助成スヘキ經濟的諸機關ノ改善施設及各實業團体ノ活動等ニ關スル具体的方策ニ就テハ以下項目ヲ設ケ夫々揭記スルコトヽセリ

第一、交通及運輸

交通

我佐世保市ハ九州ノ西北部長崎縣ノ東彼杵郡ト北松浦郡ノ中間ニ介在シ交通機關略整備シ四通八達ノ要衝ヲ占ム即チ國道ハ南ヨリ本市ニ入リ中央ニ於テ縣道ニ連結北ニ縱貫シ鉄道ハ國鉄佐世保線ノ開通ニ依リ早岐ニ於テ長崎本線ニ連結シ私鉄佐世保鉄道ハ本市ヲ起點トシテ北松浦郡相浦及柚木ニ通ズ航路ハ平戸航路、五島及長崎航路ア

リテ日ニ數回往復シ釜山航路亦月六回寄航ス加之小型汽船並發動汽船ニ至テハ三十有餘ノ航路アリ港内ハ船舶常ニ輻湊シ本市ノ商工業ヲシテ益々隆盛ニ導キツヽアリ

甲 鉄 道

一、現 況

本市ニ初メテ鉄道ノ開通ヲ見タルハ明治三十一年ナリ當時ノ九州鐵道早岐ヨリ分岐シテ本市ニ通ジタルモノニシテ日露戰爭後政府ハ軍事上及鉄道運輸統一上ノ理由ニ依リ明治三十九年三月法律第十七號鐵道國有法ヲ制定シ同法ニ基キ私設鉄道ヲ國家ニ買收スルニ及ビ遂ニ國鉄ノ頭域ニ入リタルモノナリ爾來本市ノ發展ニ伴ヒ乘降客並積卸貨物漸增シ佐世保驛ハ門鉄管内ニ於ケル重要驛タルニ至レリ又私鉄佐世保鐵道ハ大正十年本市ヲ起點トシ北松浦郡相浦及柚木ニ通ジ本市北松間ノ交通ハ大ニ至便トナレリ更ニ國鐵伊佐鐵道ハ伊萬里ヨリ北松田平經由當市ニ通ズル豫定ニシテ既ニ其ノ工事ノ一部ニ着手セルヲ以テ之ガ開通ノ曉ニ於テ本市ノ交通上及ボス好影響タルヤ蓋シ大ナルベシ

今佐世保驛ヨリ九州各主要驛ニ至ル哩程及運賃ヲ示セバ左ノ如シ

鉄道哩程及通賃表

驛名	經由	距離	客車三等乘車賃	貨物一噸當運賃	所要時間
早岐		五、五哩	一五錢	二級品四級品 五五錢	二三分
長崎		五四、六	一、三六	三、〇五	三時間〇分
佐賀		三九、五	一、〇〇	二、四〇	二時間三〇分
鳥栖		五五、〇	一、三六	三、〇五	三時間〇分
博多		七三、三	一、七六	四、二五	四時間〇分
門司		二三、一	二、七〇	五、二五	六時間三〇分
大分	小倉	一九七、〇	三、九五	七、一〇	一一時間〇分
宮崎	熊本吉松	二五五、五	四、七九	八、四〇	一四時間〇分
鹿兒島		二三六、二	四、三八	七、七五	一二時間〇分
熊本		二〇一、八	二、四九	五、〇〇	九時間〇分
久留米		五九、四	一、四六	二、三〇	三時間〇分

備考

イ、貨物運賃ハ發送物資ニ依リ等級ヲ附セラレ一定セザルニ付本市ヨリ最モ積出多キ鮮魚ヲ含メル二級品及本市ノ製造加工業トシテ將來最モ有望ト認メラレル水産製造加工品ヲ含メル四級品ノ二種等級ノ運賃ヲ掲記セリ

ロ、貨物列車ノ所要時間ハ貨車連結列車及索引定數等ノ關係ニテ變動アリ正確ヲ期スルコト因難ニ付急行貨物列車ノ概略ノ時間ヲ掲記セリ

(一) 鉄道乘降人員ノ狀況

本市ノ鉄道乘降人員ノ趨勢ヲ觀ルニ年ニ依リ多少ノ例外アリト雖モ逐年增加シツヽアリ鐵道開通當時ノ統計ハ此處ニ掲記シ能ハサルモ卽チ大正元年ニハ乘車卅一萬二千六百二十八人、降車三十三萬五百二十五人ニ過ギサリシガ大正五年ニハ乘車三十七萬七千百三十六人、降車三十七萬八千四百四十九人ニ增加シ大正十年ニハ乘車六十七萬七千六百六十六人、降車七十萬八千二百十二人ニ激增シ又一方私設佐世保鐵道ノ開通ニ依リ上佐世保驛ニ於ヲモ乘車四萬一千四百九十一降車四萬一千三百八十四人ニ及ビタリ而シテ大正十四年ニハ兩驛ヲ合シ乘車八十八萬四千四十八人、降車九十萬二千八百二十一人ニ達シ驚クベキ增加率ヲ示セリ

今最近二ケ年間ニ於ル統計ヲ掲クレバ左ノ如シ

(イ) 佐世保驛乘降人員並賃金表

年次	乘車人員 一等	二等	三等	計	乘車賃金	降車人員	一日平均 乘客	降客
大正十三年	一八二	三八、三七〇	六七五、二八五	七一三、七九四	八一四、三一三	七三一、七二二	一、九五五	二、〇〇三
大正十四年	一三二	三三、一四二	六四〇、五四五	六七三、八一〇	八三〇、四六一	六八三、四六五	一、八四六	一、八七二

(ロ) 上佐世保乘降人員並賃金表

年次	乘車人員 一等	二等	三等	計	乘車賃金	降車人員	一日平均 乘客	降客
大正十三年	一	一	一九七、七八八	一九七、七八八	三一、五四六	二〇三、一二三	五四二	五五六
大正十四年	一	一	二一〇、二三八	二一〇、二三八	三一〇、七六六	二一九、三五六	五七六	六〇一

(二) 鐵道便ニ依ル貨物移出入狀況

本市移出入貨物ハ市ノ膨脹ト人口ノ增加ニ伴ヒ年々異常ナル增加ノ跡ヲ示セリ即チ明治三十一年鉄道開通當時ニ於テハ僅カニ移入約七千噸移出二千三百九十六噸計九千三百九十六噸ニ過ギザリシガ爾來年ト共モ急激ニ增加シ大正元年移入七萬二千百五十三噸移出一萬三百四十一噸計八萬二千四百九十四噸ニ大正五年ニハ移入七萬四千八百七十一噸移出一萬五千六十噸計八萬九千九百三十一噸ニ達セシガ歐洲大戰中一般財界好況ヲ呈スルヤ市民ノ購買力モ著シク增大シ物資ハ年々洪水ノ如ク本市ニ流入シ移入ハ躍進的增加率ヲ示シ移出ハ移入ノ如ク加速度ニ增加率ヲ示サヾリシモ依然年々增加ヲ續ケタリ又一面當時海軍ノ八八艦隊計畫成ルヤ製艦材料ノ移入夥シク大正九年ニハ移入十七萬六千四百九十噸移出三萬七千五百三噸計二十一萬三千九百九十三萬噸ト云フ鉄道開通以來未曾有ノ驚クベキ數字ヲ示セリ然ルニ大正九年財界反動トワシントンノ會議ニ基ク八八艦隊計畫ノ中止トハ相俟テ本市ノ移出入貨物ニ大影響ヲ及ボシ爾來一進一退遲々トシテ進ズ大正十四年ニ於テ移入九萬七千六百九十九噸移出二四萬五千三十三噸計十四萬二千七百卅二噸ニシテ前年ニ比シ移入ニ於テ一萬二千五百五十噸移出ニ於テ千二百四十噸計一萬三千七百九十噸ノ減少ナルモ鉄道開通當時ニ比スレバ移入ニ於テ九萬六百九十九噸移出ニ於テ四萬千六百三十七噸計十三萬三千三百三十六噸ニシテ約十五倍ノ增加ナリ斯ク本市ノ移出入貨物ガ時ニヨリ減退ノ跡アリト雖モ逐年增加シツヽアルニ拘ラズ常ニ移入超過ヲ示セルハ本市ガ生産工藝品ニ乏シク且又中繼地トシテ地ノ利少ナク單ナル消費地タルニ過ギサルガ故ナリ而カシテ移出ノ主ナルモノハ活鮮魚塩干魚等ノ水產品ニシテ移入ノ主ナルモノハ米雜穀酒砂糖其ノ他ノ食料品日用品ヲ初メトシ木材鉄及鋼、機械類、石油等ニシテ大正十三年同十四年中佐世保、上佐世保ノ兩驛ニ於ケル發着貨物ノ統計ヲ示セバ左ノ如シ

鐵道便ニ依ル主要貨物移出入表

(佐世保驛 上佐世保驛)

品名	移入 數量 大正十四年	移入 主ナル移入地	移出 數量 大正十四年	移出 主ナル移出先
米	噸 一九、一八四	神崎、佐賀牛津、肥前古	噸 二五、八九六	板橋、長崎
麥類	一、九六九	高橋、伊萬里、門司	一、八〇六	高橋、豐前善光寺
大豆	一、一二六	大牟田、上熊本、佐賀	一、〇四四	兵庫、京都、岡山
雜穀	一、〇八九	諫早	一二	
生甘藷	四〇	門司、吉塚	一六〇	
生馬鈴薯	三三	門司、牛津、兵庫、長崎	三七一	京都、佐賀、京城
生野菜	一、二一九		三五三	
柑橘	五二三	川尻、早岐、熊本、諫早	九	北方、武雄
其ノ他ノ果物類	一、七八四	大草、嚴木、津久見	八	有田
蒿工品	五四四	門司、川尻、牛津	四	佐賀、千々岩、北方、有田
	六七二	松原、鹿兒島	三五	
		三間坂、武雄	二	

| | | |

品名	移入 數量 大正十四年	移入 數量 大正十三年	移入 主ナル移入地	移出 數量 大正十四年	移出 數量 大正十三年	移出 主ナル移出先
煉瓦	二七九噸	六〇七噸	戸畑、東京	二一噸	三四噸	
陶磁器	三六八	三三二	瀬戸、小倉、久留米	三〇	六一	有田
土器	九〇	八八	有田、武雄	三九	一九三	久留米
瓦	一四八	一八五	久留米、武雄	二	一	
硝子類及其ノ他製品	六三一	五〇一	荒木、中津	四四四	五五六	神崎、大里、竹下
バルブ及襤褸類	〇	五〇	久留米、品川、折尾	〇	一六	
其ノ他製紙原料	一二三	一一三	羽犬塚、牛津、大分	一八三	一四五	
和紙	一九二	二〇七	博多	一	二	
洋紙	二二八	三四〇	坂本	〇	七	
疊表類	三六六	三三〇	尾ノ道、羽犬塚、有佐	〇	〇	
鉄及鋼製品	二、〇二〇	二、九六九	久留米、球磨川	一、三四七	二、六八二	博多、大牟田、呉
漆器	六九	一三四	川口、東京、横濱、戸畑	〇	二	横須賀
機械類	三、五六三	二、九六六	片町、廣島、門司	一、七一九	一、三一三	横須賀、呉、荒川沖
油脂蠟類	四四七	六九九	日方、和歌山、久留米	四一	三五	鳥栖
染料顔料及塗料	一九八	一〇〇	東京、横須賀、名古屋	五一	三八	
藥品類	二六八	三三六	京都、大坂、呉、博多	二	二	
燐寸類	一六六	九一二	門司、小ノ濱、巳斐	〇	〇	
鮮肉	六一九	八五八	尼ケ崎	〇	七	
皮革類	一二	一一〇	大阪、横須賀	七	〇	
獸毛	〇	一三		〇	〇	
牛	三四	二三	喜々津、倉吉、伊萬里	二五	六	島原、大村
馬	八七	八	久保田	一〇三	二八	二日市、大村
豚	〇	〇		〇	〇	
其他	一六、〇〇二	一四、一四四		一九、八一四	二一、二七五	
合計	九七、六九九	一一〇、二四九		四五、〇三三	四六、二七三	

二、將來ノ方針

(一) 鐵道未成線敷設速成並改善ニ關スル考慮

都市ノ經濟的發展ニ鉄道ノ及ボス影響如何ハ今更茲ニ贅言ヲ要スルマデモナキトコロナルガ本市ノ如ク將來商工都市トシテ發展ヲ策セントスル都市ニ於テハ水陸交通機關ノ整備ニ俟ツコト實ニ大ナリ故ニ本市トシテハ常ニ此ノ點ヲ考慮シ鉄道交通上左ノ方針ヲ以テ善處セザルベカラズ

イ、伊佐鉄道ノ速成

ロ、本市長崎間ノ列車運轉方ノ圓滑

ハ、本市門司間ノ直通列車增發

(二) 鐵道敷設ニ關スル考慮

伊佐鐵道完成ノ曉ニハ北松方面トノ交通至便トナルハ勿論之ニ依リ沿線地域大ニ開發セラレ物資ノ需給圓滑トナランモ之ヲ以テ本市ノヒンターランド開發ハ充分ナリト云フヲ得ズ更ニ一歩進メテ之ガ完成ニ一大發奮ヲ要スベシ即チ本市ガ商工都市トシテ將又水產都市トシテ活躍セントセバ一般物資ノ集散上水產物ノ輸送上最モ必要且ツ有望ト認メラレル左ノ二產業鉄道ノ敷設ニ緊褌一番ノ努力ヲ要スベシ

イ、本市ヨリ折尾瀬上佐見ヲ通過シ佐賀縣ノ藤津郡ニ出デ嬉野塩田ヲ經テ鹿島ニテ平垣線ト結ブ線

本線ハ物資豐富ナル産業地帶ヲ縫走スルガ故ニ其ノ經濟的價値ハ實ニ莫大ナルモノアリ卽チ本鐵道ノ開通ニ依リ沿線地方ニ本市ノ商權ヲ扶植シ得ベキ事ハ容易ニ想像シ得ラレル所ニシテ折尾瀨上波佐見ニ於ケル陶磁器嬉野ニ於ケル陶磁器、茶、米、鹽田鹿島方面ニ於ケル米酒等ハ當然本線ニ依リ吸集シ得ベシ殊ニ本市ヲ經由シ朝鮮ニ積出サレツヽアル吉田ノ陶磁器ノ如キ大ニ運賃ヲ低減セラレ朝鮮移出貿易上裨益セラレル所極メテ大ナルベシ

ロ、本市ヨリ伊萬里ヲ經テ唐津ニ出ラ北九州鐵道ニ連絡シ博多ニテ本線ニ結ブ線

本線モ前線ニ劣ラザル物資豐富ナル産業地帶ヲ縫走スルヲ以テ本市ノ商工業發展ニ資スルトコロ大ナルベキハ机上地圖ヲ披クモ直チニ首肯セラルベシ卽チ佐賀縣北部ハ當然本市ノ商圈ニ屬スベク又本市對伊萬里唐津博多トノ取引ハ自然密接トナリ殊ニ本市ガ工業燃料ヲ得ントセバ東松浦及筑豐地方ヨリ低廉ナル石炭ノ供給ヲ仰ギ得ベキヤ明ナリ加之政府ニ於テ北九州鐵道ヲ買收シ之ニ改善ヲ加エ本鐵道ヲ以テ門司佐世保間ノ本線タラシムレバ距離大ニ短縮セラレ一般乘客ハ勿論貨物運搬上時間的經濟的ニ裨益セラレルトコロ實ニ莫大ナルベシ然ルニ鐵道ノ敷設タルヤ大事業ニシテ小資本ヲ以ハ容易ニ之ガ達成ヲ望ムベキニアラズ又政府トシテモ國費多端ノ際急速ニ敷設ヲ望ムガ如キハ到底困難ナルトコロナルヲ以テ本市トシテハ沿線地方トモ協力シ官民一致以テ之ガ機運ノ釀成ニ努メ徐ロニ本目的ノ達成ヲ圖ラザルベカズ

乙 航路

一、現況

(一)汽船ノ部

(イ)五島航路

現在九州汽船株式會社之ニ當リ市ハ同社ニ對シ補助金年額二千五百圓ヲ交付ス、第一線（上五島下五島各港經由長崎ニ至ル線）第二線（上五島各港經由長崎ニ至ル線）共汽船二艘宛ヲ使用シ每日午後六時當港ヲ出航ス

船名	總噸數	寄港地	佐世保寄港度數	經營者名
長保丸	噸 四〇八、〇〇	宇久平、神浦、小値賀、立串、小串、似首、榎津、有川、奈留島、福江、富江	每月七回以上	九州汽船株式會社

船名	總噸數	寄港地	佐世保寄港度數	經營者名
泰丸	三七五、三三	右仝	仝	仝
壹州丸	三〇四、三九	宇久平、神浦、前方、小値賀、立串、津和崎、立串、似首、榎津、有川、友住、平島、奈良尾	仝	仝
兩肥丸	一五一、〇六	右仝	仝	仝

(ロ)長崎、壹岐、對島、釜山、航路

本航路ハ從來長崎ヲ基點トシ壹岐對馬ヲ經テ釜山ニ至ル線ナリシガ本市ト朝鮮本土トノ取引ヲ密接ナラシムベク豫テ本市勸業調査會ニ於テモ種々調査中ナリシガ先ヅ第一ニ航路ヲ開拓スベキコトニ意見ノ一致ヲ見對馬商船株式會社ニ交涉ノ結果大正十五年四月ヨリ本市ニ寄港セシムルコトヲ得タリ爾來市ハ年額三千圓ノ補助金ヲ交付シツヽアリ

船名	總噸數	寄港地	佐世保寄港度數	經營者名
博丸	五五〇、〇〇	長崎ヲ發シ佐世保、田助、壹岐、對馬寄港釜山ニ到ル	每月往復十二回	對馬商船株式會社

(ハ)平戸及大島生月航路

本航路ハ本市ト平戸並北松浦郡本土ノ西部沿岸地方トノ取引上最モ重要ナルモノニシテ就航度數モ極メテ頻繁ナリ現在北松本土西部沿岸ヲ經テ平戸ニ至ル沿岸線ト平戸直航ノ二線アリ

船名	總噸數	寄港地	佐世保寄港度數	經營者名
金昇丸又ハ泉賀丸	一四一、〇七 一四七、八八	平戸、長崎間	每日	九州汽船株式會社
清丸	九九、八八	本市、平戸、大島、生月間	每日往復	松島汽船商會
清貞丸	八六、〇三			九州汽船株式會社
東豫丸	五二、五二	本市、相浦、佐々、楠泊、歌ヶ浦江迎、田平、平戸	仝	吉住商會

(二) 大村灣航路

本航路ハ大正拾五年四月ノ開始ニ係リ長崎澤山汽船株式會社ノ經營ニ屬ス現在汽船二隻之ニ當リ交互ニ毎日入港ス

船名	總噸數	寄港地	佐世保寄港度數	經營者名
旺載丸	一	長浦、村松、時津、長與、大村、松原、千綿、彼杵、川棚、龜岳、瀬川、佐世保	隔日	澤山汽船株式會社
長濱丸	一	右ニ同	右ニ同	右ニ同

(ホ) 大阪若津航路

本航路ハ明治三十年ノ開始ニ係リ大阪尼崎汽船會社ノ經營ニ屬ス阪神ヲ初メ愛媛、福岡、佐賀、熊本ノ縣下各港トノ商取引上極メテ重要ナルモノニシテ現在貨物汽船六隻之ニ就航シ月十五回入港ス

船名	總噸數	寄港地	佐世保寄港度數	經營者名
三德丸	三七六、〇〇噸	大阪、神戸、今治、三津濱、下關	毎月二回半	合名會社尼崎汽船部
敬神丸	三六七、〇〇	博多、唐津、呼子、伊萬里	六隻ニテ月十五回	右ニ同
太洋丸	三五〇、〇〇	平戸、佐世保、長崎、三角、島原		右ニ同
明石丸	四五一、〇〇	大牟田、若津		右ニ同
一心丸	四九〇、〇〇	右ニ同		右ニ同
第一大湖丸	五一九、〇〇	右ニ同		右ニ同

(ヘ) 大阪航路

本航路ハ明治貳拾貳年鎭守府設置ト同時ニ開始セラレ本市ノ航路中最モ古キモノニ屬シ大阪方面トノ商取引上重要ナルモノナリ元深川汽船株式會社ノ經營下ニアリシモ昭和三年四月ヨリ飯野汽船株式會社之ニ代リ貨物汽船四隻ヲ就航セシム各一隻ノ入港度數ハ月二回平均ニシテ四隻ニテ月八回入港ス

船名	總噸數	寄港地	佐世保寄港度數	經營者名
諏訪丸	四〇〇、〇〇	大阪、若松、佐世保、長崎	毎月二回	飯野汽船株式會社
第一大島丸	八二〇、〇〇	右ニ同	右ニ同	右ニ同
第二大島丸	八五〇、〇〇	右ニ同	右ニ同	右ニ同
第六大島丸	八三〇、〇〇	右ニ同	右ニ同	右ニ同

(二) 發動機船ノ部

發動機船ノ發達ハ實ニ目覺シキモノナリ本市ト近島各港間ノ運行開ケザルハナク最近近海交通上最モ輕便ニシテ且ツ重要ナル位置ヲ占ムルニ至レリ

航路名	寄港地	寄港度數	船名	總噸數	經營者氏名
自庵ノ浦至佐世保	赤崎	往復一三六	庵盛丸	七〇、〇〇噸	吉村庄藏
自佐世保至赤崎			赤崎丸	一、五〇	山中竹三郎
自佐世保至浦頃	野崎		俵榮丸	九、〇〇	佐野權之重
自佐世保至龜岳	大串上岳	往復一	辨天丸	一〇、〇〇	池永平助
自佐世保至瀨川	崎針尾	右ニ同	大八丸	二一、〇〇	田崎重郎
自佐世保至瀨川	横瀨、畑下、川內	右ニ同	畑丸	一〇、〇〇	田崎重郎
自佐世保至瀨川			天與丸	三、〇四	辻脇要三郎

自面高佐世保 至黒島	黒口	全	面高	九	太田四郎吉
自七釜中浦佐世保 至黒口	黒口、面高	全	大和	九	八、〇〇
自佐世保 至七釜中浦	黒口、面高	全	龍浦	九	一〇、〇〇
自佐世保 至釜浦	馬込寺島、中浦、七釜	全	第一鷹	九	山口岩作
自佐世保 至面高	黒口、柳内	全	第二鷹	九	一五、〇〇
自瀬戸 至佐世保	中浦、釜浦、瀬戸	全	崎戸	九	中浦信用組合
自松島 至佐世保	大田和	全	蠣浦	九	四、〇〇
自瀬戸 至佐世保	右	全	梶浦	九	岡口陸太郎
自蠣浦 至佐世保	大島、太田尾	全	崎岡	九	一
自早岐 至佐世保	瀬戸、松島	全	大崎	九	全
自崎針尾 至佐世保	崎針尾、江上	全	旭	九	四、九八
自崎針尾 至佐世保	全	全	津吉	九	福野宇八
自津吉 至佐世保	相浦、津吉木ノ浦	全	東盛	九	一〇、〇〇
自崎針尾 至佐世保	江上、飽ノ浦	全	早岐	九	尾下直武
自東浦 至佐世保	相浦、津吉木ノ浦	全	琴海	九	三〇五
自早岐 至佐世保	江上、飽ノ浦	全	崎戸	九	中村安吉
自歌ケ浦 至佐世保	横瀬、葉山、畑下	全	大崎	九	三、八〇
自南風崎 至佐世保	亀岳、南風崎	全	崎岡	九	中山吉太郎
自佐大瀬 至佐世保	矢岳	全	梶浦	九	四、五〇
自楠泊高島 至佐世保	梶浦	全	龍浦	九	尾上十大郎
自佐世保 至黒島	大瀬	全	明星	九	三七、〇〇
自佐世保 至黒島	黒島	全	亀家	九	青崎伊吉
			高串和三郎		九、〇〇
			繁一		増元
			加	九	四、八九
			川治三郎		相
			次郎		二、五〇
			吉		田川
			汽船部		三、四九
			山		長崎澤
			光衛		四、〇〇
			尾		神
			亀太郎		四、六三
			澤		富

自南風崎 至佐世保	葉山、横瀬	全	樺島	九	一五、〇〇
自佐世保 至蠣浦	蛎浦、大島	全	大長	九	長崎澤山汽船部
自野崎 至佐世保	横瀬、針尾、畑下	全	金比羅	九	三七、二二
至面高 佐世保	黒口	全	初吉	九	崎戸商工組合
自大村 至佐世保	亀岳、南風崎、彼杵	全	樺島	九	二、〇五
自瀬川 佐世保 至紐差	川柳、大村	片航路	樺島	九	中里太郎助
自紐差 至津吉	佐世保紐差	全	初吉	九	一五、〇〇
自瀬川 至佐世保	津吉	全	竹島	九	四、〇〇
	従来ノ大八九ト		第二大八九		宮崎四郎工門
	出逢ヒ航路				八、〇〇
					澤山汽船部
					一五、〇〇
					全
					一四、〇〇
					田崎重郎

右各航路ノ外ニ上荷積トシテ補帆曉丸全宮島丸ノ不定期船アリ

(三) 船舶乗降人員ノ状況

船舶乗降人員ノ状況ヲ見ルニ大正十二年以前ノ資料ニ乏シク其ノ統計詳ナラズト雖モ本市ノ發展ニ伴ヒ逐年其ノ數増加シツヽアルハ事實ナリ

今大正十三年同十四年ニ於ケル統計ヲ示セバ左ノ如シ

(イ) 市營棧橋板乗船人員表

年次	海水浴	団体	普通	計
大正十三年	一五、九七九人	四〇人	六九、七六六人	八五、七九五人
大正十四年	三八、二九四	—	七二、〇五二	一一〇、三四六

(ロ) 市營棧橋扱降船人員表

年次	海水浴團体	普通	計
大正十三年	一五、九四二人	七一、八〇九人	八七、七五一人
大正十四年	三八、二〇〇人	七〇、七三一	一〇八、九三九

(四) 船舶便ニ依ル貨物移出入狀況

本市離島間ニ航路ノ開拓ト近時發動機船ノ急速ナル發達ハ離島貿易ヲシテ益々密接ナラシメ水運ニ依ル出入貨物モ年々增加シツヽアリ然レドモ移入ノ主ナルモノガ鮮魚、鹽干魚等ノ水產品ナル關係上近海ニ於ケル漁業ノ不振ハ直ニ移入ニ影響シ移出ノ大部分ガ米、酒、砂糖其他ノ食料品日用品ナル關係上北松、西彼ニ於ケル鑛業ノ不振ハ直ニ移出ニ大影響ヲ及ボスモノナリ大正十四年中ニ於ケル移入ハ八萬九千三百二十噸、八百七十三萬三千九百九十四圓、移出ハ四萬九百四十九噸、四百七萬四千七百十一圓、計十三萬二百六十九噸、壹千二百八十萬八千七百五圓ニシテ前年ニ比シ移入ニ於テ八萬一千七十六噸減少シタルハ鮮魚ノ數量價格ノ減少ニ依リ移出ニ於テ三萬八千六百九十八圓減少シタルハ北松、西彼ニ於ケル鑛業不振ノ結果食料品日用品ノ需要減少ニ由ルモノナリ

船舶便ニ依ル貨物移出表

品種	數量	價格	主ナル仕出港
米	二、四一五 石	四五九、三五五 円	長崎、瀨川、江迎
麥	二、九五〇	二三〇、一五〇	唐津、大牟田、平戸
大豆	九、〇五〇	一八一、〇〇〇	龜岳、伊萬里
小豆	一、五六五	四二、二五五	大村、瀨川、平戸
其ノ他ノ豆類	—	—	門司、長崎、平戸
蕎麥	四九一	八、三四七	長崎、門司、平戸、大村
粟	三五〇 石	五、六〇〇 円	大村、面高、長崎
其ノ他雜穀	二四〇	四、〇八〇	五島、各港
胡瓜	—	—	近海、各港
種子	—	—	
小麥粉	七九五、〇〇〇 斤	一〇三、三五〇	長崎、神戸、門司
米粉	三、八〇〇	六八四	大阪
其ノ他ノ粉	八、〇〇〇	九六〇	大阪、長崎
澱粉	二、〇〇〇	三〇〇	大村
茶	五、六〇〇	六、七一〇	五島、平戸
塩	一、六二二、〇〇〇	七二、五四〇	早岐、長崎
昆布	八、五〇〇	一、〇一〇	長崎、門司、大阪
其ノ他海藻	三三、〇〇〇	二、九七〇	平戸、平戸、釜浦
生魚介	三、八七〇、〇〇〇	一二五九、六一〇	五島、各港
塩干魚	四、三五六、二〇〇	九九二、二〇八	北松南松西彼各港
乾貝	二三、一〇〇	一、八四八〇	同
鰹節	四〇、五〇〇	八一、〇〇〇	同
其ノ他海產物	七四七、三〇〇	一六四、四〇六	同
椎茸	五五〇	一、三七五	五島、各港
麵類	六〇、五〇〇	一、〇四〇	長崎、門司
甘藷	三、七四七、〇〇〇	五六、二〇五	面高、五島、平戸
馬鈴薯	一、六四、〇〇〇	六、五六〇	大村、五島各港
其ノ他ノ生野菜	六、五八〇、〇〇〇	一九七、四〇〇	島原、面高 近海各港

品種	數量	價格	主ナル仕向港
米	一九、七五〇 石	七三〇、七五〇 円	蛎浦、松島、長崎
麥	二、一四〇	四四、六三〇	小値賀、五島各港
大豆	一、一四〇	三一、八〇〇	松島、平戸、蠣浦
小豆	六八五	一八、四九五	五島、蛎浦、長崎
其ノ他ノ豆類	—	—	小値賀、各港
蕎麥	四一〇	九、二四〇	江迎、蛎浦
粟	六六 石	一、〇五六 円	松島、平戸、長崎
其ノ他雜穀	—	—	五島各港
胡瓜	五〇	一、五〇〇	福江、蠣浦
種子	—	—	平戸、蛎浦
小麥粉	一二 斤	一、一〇〇	五島、各港、平戸
米粉	四五九、〇〇〇	五九、六七〇	有川、榎津、平戸
其ノ他ノ粉	一九、一〇〇	三、四五六	江迎、五島、各港
澱粉	二〇、五〇〇	二、四六〇	江迎、蠣浦、松島
茶	一八、七〇〇	二、八〇五	同
塩	一六八、〇〇〇	二〇、一六〇	平戸、蛎浦、松島
昆布	一二九、八〇〇	五、三九一	五島、各港、江迎、
其ノ他海藻	一八、八〇〇	二、二五六	松島、平戸、松島
生魚介	三、〇〇〇	二七〇	五島、各港、江迎、蛎浦、五島、各港
塩干魚	—	—	大阪
乾貝	九〇、〇〇〇	一九、八〇〇	長崎、大阪
鰹節	四五五、〇〇〇	一一、六〇〇	長崎、門司
其ノ他海產物	三、〇〇〇	六、〇〇〇	長崎
椎茸	四〇〇、〇〇〇	八八、〇〇〇	
麵類	三、九五〇	九、八七五	平戸、蛎浦
甘藷	八八、二〇〇	一四、一二	平戸、江迎、田平
馬鈴薯	七〇、〇〇〇	一一、七〇〇	蛎浦、松島、五島
其ノ他ノ生野菜	五〇、〇〇〇	二、〇〇〇	神戸、大阪
	七五、〇〇〇	二、二五〇	大阪、門司 内浦、蠣浦

品種	移入 数量	移入 価格	移入 主ナル仕出港	移出 数量	移出 価格	移出 主ナル仕向港
密柑	六六、五〇〇斤	五、九八五円	長崎、伊木力	四、〇〇〇斤	四、六〇円	平戸、松島、蛎浦
林檎	—	—	南風崎、門司	四、八〇〇	一、〇五六	五島各港
バナナ	二五〇、〇〇〇	二三、五〇〇	門司	一、〇五六	一、〇五六	平戸、蠣ノ浦
梨	—	—		一七、〇〇〇	二、七〇〇	平戸、江迎、蛎浦
其ノ他ノ果實	九三、〇〇〇	九、三〇〇	長崎、近海各港	一五、〇〇〇	二、三〇	松島、五島及近海各港
味噌	五七、七〇〇	五、七〇〇	長崎、平戸	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	平戸、蛎浦、松島
醤油	四、〇五〇石	一七八、〇〇〇	伊万里、大牟田	二三七、五〇〇	二三、七五〇	五島各港
酢	三五〇	七、〇〇〇	大牟田、大阪、長崎	一、九三〇石	七七、二〇〇	平戸、生月、松島
清酒	八七五	七、〇〇〇	平戸、長崎、瀬戸	六〇	一、二〇〇	五島各港、松島
焼酎	三九〇	三五、一〇〇	相浦、三角	二九六、四〇〇	七、〇〇〇	五島、各港長崎
其ノ他ノ和酒	二〇〇	一四、〇〇〇	平戸、長崎、瀬戸	三、七〇五	七、〇〇〇	蠣浦、平戸、小値賀
麦酒	一三、九〇〇打	六二、五〇〇	佐々、平戸、大阪	八三〇	七四、七〇〇	五島各港、松島
葡萄酒	一、七〇〇	一七、〇〇〇	門司、相浦、長崎	三一〇	二三、四〇〇	瀬川、面高
其ノ他ノ洋酒	二、七〇〇	六七、五〇〇	早岐	八、三〇〇打	三七、三五〇	五島各港、平戸
清涼飲料水	一二、七〇〇	一五、二四〇	長崎	一、八五〇	一八、五〇〇	松島、其他各港
砂糖	九一、〇〇〇斤	二〇、九三〇	大阪、門司、博多	七八〇	一九、五〇〇	平戸、松島、面高
菓子	三九、〇〇〇	一五、六〇〇	長崎	一八、三〇〇	二、九六〇	五島各港、松島
飴及水飴	四三、〇〇〇	八、六〇〇	長崎、大阪	七三、〇〇〇斤	一六六、二九〇	平戸、五島各港
同			長崎、博多、大阪	五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	松島、五島各港、平戸、松島
同			門司	八三、〇〇〇	一六、六〇〇	五島各港

品種	移入 数量	移入 価格	移入 主ナル仕出港	移出 数量	移出 価格	移出 主ナル仕向港
乳	一、五〇〇打	七、五〇〇	大阪	八、二〇〇	二〇、五〇〇	平戸、松島、蠣浦
罐詰	三二、〇〇〇	五五、〇〇〇	平戸、長崎、瀬戸	四〇、四〇〇	二〇、一〇〇	五島各港
牛肉	—	—	門司	一四八、〇〇〇	五、九一〇	蛎浦、平戸、生月
牛皮	—	—		一四、〇〇〇斤	二八、〇〇〇	五島各港、蛎浦、平戸
煙草	二三、〇〇〇	四六、〇〇〇		一五、〇〇〇	二、二五〇	平戸、五島各港
鶏卵	二三三、〇〇〇	一〇四、八五〇	長崎	二、五〇〇石	一五、〇〇〇	近海各港、大阪
清物	一〇七〇、〇〇〇斤	四二、八〇〇	五島、平戸、瀬戸	一、二〇五石	三九、七六五	平戸、松島、蛎浦
揮発油	二一〇	八、四〇〇	平戸、大村、長崎	一七五	八、四三〇	五島各港、平戸
機械油	二八〇	一〇、六四〇	長崎、大阪、平戸	二三五	一四、五六〇	江迎、松島、蠣浦
荣種油	一〇五	八、四〇〇	長崎	一八二	一四、九三四	五島各港
鯨油及魚油	九五斤	二、三七五	五島各港、平戸	—	—	—
蠟及蠟燭	七、五〇〇斤	二、八五〇	長崎	—	—	—
薬品	五、三〇〇	三、七一〇	長崎、門司	—	—	—
染料	四、一〇〇	三、三六〇	長崎、大阪	—	—	—
塗料其ノ他	一、一〇〇	一、七三〇	同	—	—	—
綿花	七〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	同	二、五〇〇	一五、〇〇〇	平戸、松島、蛎浦
綿糸	—	—	長崎、大阪	一、八〇五	一四、九二四	五島各港、平戸、松島、蛎浦
綿	—	—	同	五一、七五〇	六九、〇〇〇	五島各港、平戸、松島、蛎浦
綿	一六、二〇〇	一三、五〇〇	長崎、大阪	三四、二〇〇	二八、五〇〇	五島各港

品種	移入 數量	移入 價格	移入 主ナル仕出港	移出 數量	移出 價格	移出 主ナル仕向港
苧及麻	一斤	一円		二三、五〇〇斤	一八、〇〇〇円	平戸、五島各港
繩索	二八、〇〇〇	一九、六〇〇	大阪	一三、六〇〇	九、五二〇	松島、蛎浦、平戸
絹織物	五〇〇	一二、五〇〇	長崎	二、一〇〇	五二、五〇〇	五島各港
綿織物	六八、〇〇〇	一三六、〇〇〇	長崎、今治、大阪	八四、五〇〇	一六九、〇〇〇	蛎浦、平戸
漁網	三八、〇〇	四、五六〇	大阪	三九、五〇〇	四七、四〇〇	平戸、小値賀、松島
衣服同附屬品	五〇、七〇〇	九一、二六〇	平戸、長崎、大阪	一五、六〇〇	二八、〇八〇	五島各港
帽子	四二、〇〇〇	五四、六〇〇	大阪	七、七〇〇	一〇、〇一〇	平戸、生月、小値賀
靴	五、四〇〇	二一、六〇〇	同	二、七五〇	一一、〇〇〇	蛎浦、黑瀬
履物及同附屬品	一三、五〇〇	六、二五〇	長崎、大阪	五三、七〇〇	二六、八五〇	平戸、小値賀
和紙	四五、〇〇〇	一六、二〇〇	大阪	九八、〇〇〇	三五、二八〇	松島、蛎浦
洋紙	二五、〇〇〇	五、〇〇〇	同	五、〇〇〇	一、〇〇〇	五島各港
書籍及雜誌	六、〇〇〇	六、〇〇〇	大阪、長崎	一四、二〇〇	一四、二〇〇	同
印刷物	五、〇〇〇	五、〇〇〇	同	四、八〇〇	四、八〇〇	平戸、松島、江迎
其ノ他紙製品	五、五〇〇	四、四〇〇	同	一〇、一〇〇	八、〇八〇	小値賀、五島各港
石炭	二六、五〇〇屯	三四四、五〇〇	三池、唐津、松島	二五、五五〇屯	三三二、一五〇	平戸
コークス	一〇五、〇〇〇斤	一、〇五〇	長崎、崎戸、蛎ノ浦	一五八、〇〇〇斤	一、五八〇	瀬戸、平戸、佐々
セメント	四・一五〇・〇〇〇	六二、二五〇	香燒、長崎	一〇〇、〇〇〇	一、五〇〇	五島各港
土砂	三〇〇坪	六、〇〇〇	唐津、彼杵	一	一	平戸、五島各港
石材	四三〇、〇〇〇斤	八、六〇〇	五島、平戸	一	一	松島、蛎浦、平戸
石製品	三九〇、〇〇〇	一一、七〇〇	同	一	一	五島各港
鋼鉄及煉鉄	一・七五〇・〇〇〇	一四〇、〇〇〇	八幡、長崎、大阪	二四五、〇〇〇斤	一九、六〇〇	松島、蠣浦、長崎
其ノ他ノ鐵材	一八、〇〇〇	四、八六〇	大阪	四、〇〇〇	一、〇八〇	大坂、八幡其他各港
銅材	七八、〇〇〇	三九、〇〇〇	長崎、大阪	一、五〇〇	七五〇	松島
亞鉛	八、〇〇〇	二、二四〇	大阪	一	一	長崎
錫	九〇〇	一、八九〇	同	一	一	
ニッケル其ノ他ノ金屬	一、八〇〇	一、八〇〇	同	一	一	
レール	三八、〇〇〇	一五、二〇〇	同	一	一	
鉄管	三〇、〇〇〇	二、四〇〇	大阪	一	一	
釘類	一七五、〇〇〇	一四、〇〇〇	長崎、大阪	一	一	
其他鐵製品	一六五、〇〇〇	一八、一五〇	同	三七、〇〇〇	四、〇七〇	蛎浦、松島
鉄線	三七二、〇〇〇	一〇〇、四四〇	長崎、神戸、小濱	五八、五〇〇	一五、七九五	其他ノ各港
銅製品	六五、〇〇〇	一九、五〇〇	大阪	二三、〇〇〇	六、九〇〇	蛎浦、松島 平戸
其ノ他金屬製品	五、二〇〇	七、八〇〇	同	一	一	小値賀、五島各港
陶磁器	九、〇〇〇	一〇、八〇〇	同	一二、五〇〇	四、二〇〇	松島、蠣浦、平戸
硝子板	四七、〇〇〇	九、四〇〇	大坂、讃岐	五四、五〇〇	一〇、九〇〇	五島其他各港
其他硝子及硝製品	四五、〇〇〇	六、三〇〇	三田尻	一五、三〇〇	二、一四二	平戸
	二八、〇〇〇	一六、八〇〇	長崎、大坂	三六、五〇〇	二一、九〇〇	蛎ノ浦、松島、平戸
自轉車	一三輛	七八〇	長崎	五一輛	三、〇六〇	五島各港
			大坂			同
						同
						平戸、江迎

品種	燐寸	硫酸	薬品	氷製品	海藻製品	化粧品	石	雑小間物	文具及製図器	同護謨製品	牛馬具及貨物	皮革	豚	鶏	畜其ノ他	合計
数量	三、八〇〇、〇〇〇函	七、五〇〇、〇〇〇瓩	二、〇〇〇、〇〇〇瓩	二、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	二、八〇〇、〇〇〇瓩	七、〇〇〇、〇〇〇瓩	五、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	三、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩
価格	七五〇〇	七五〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	九、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
主ナル仕出港	大阪	大阪	長崎	蛎ノ浦、江迎	長崎	長崎、大阪	長崎、大阪	大阪、博多	大阪、博多	大阪、博多	長崎	長崎	長崎	長崎	同	同
数量	三、八〇〇、〇〇〇瓩	七、五〇〇、〇〇〇瓩	二、〇〇〇、〇〇〇瓩	二、五〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	二、八〇〇、〇〇〇瓩	七、〇〇〇、〇〇〇瓩	五、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	三、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩
価格	七五〇〇	七五〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	九、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
主ナル仕向港	大阪	大阪	長崎	蛎ノ浦、江迎	長崎	長崎、大阪	長崎、大阪	大阪、博多	大阪、博多	大阪、博多	長崎	長崎	長崎	長崎	同	同

種類	寸法	同	平戸ノ浦、瀬戸、松島、生月、江迎	平戸ノ浦、瀬戸、松島、他各港	松江島、小値賀、平戸港	平戸	蛎ノ浦、平戸ノ浦、江迎島、各値賀、平戸港	平戸	平戸	平戸	平戸	平戸	平戸	平戸	平戸	平戸
数量	三、八〇〇瓩	七、五〇〇	七、五〇〇	三、〇〇〇瓩	二、〇〇〇瓩	二、五〇〇瓩	二、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩
価格	三、八〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
主ナル仕向港	大阪	大阪	長崎	蛎ノ浦、江迎	長崎	長崎、大阪	長崎、大阪	大阪、博多	大阪、博多	大阪、博多	長崎	長崎	長崎	長崎	同	同
数量	三、八〇〇瓩	七、五〇〇	七、五〇〇	三、〇〇〇瓩	二、五〇〇瓩	三、〇〇〇瓩	二、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩	一、〇〇〇瓩
価格	三、八〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
主ナル仕出港	大阪	大阪	長崎	蛎ノ浦、江迎	長崎	長崎、大阪	長崎、大阪	大阪、博多	大阪、博多	大阪、博多	長崎	長崎	長崎	長崎	同	同

品種	燐寸	硫酸	薬品	氷製品	海藻製品	化粧品	石	雑小間物	文具及製図器	同護謨製品	牛馬具及貨物	皮革	豚	鶏	畜其ノ他	合計
数量	三、八〇〇、〇〇〇函	七、五〇〇、〇〇〇瓩	二、〇〇〇、〇〇〇瓩	二、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	二、八〇〇、〇〇〇瓩	七、〇〇〇、〇〇〇瓩	五、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	三、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩	一、〇〇〇、〇〇〇瓩
価格	七五〇〇	七五〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	九、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
主ナル仕向港	大阪	大阪	長崎	蛎ノ浦、江迎	長崎	長崎、大阪	長崎、大阪	大阪、博多	大阪、博多	大阪、博多	長崎	長崎	長崎	長崎	同	同

二　將來施設改善方針

從來本市ノ發展ガ港灣ニ負フトコロ極メテ大ナルハ論ヲ俟タザルトコロニシテ將來ニ於テモ依然港灣ヲ度外視シテノ發

森	其他木製品	空箱	空竹樽	竹材	木炭	薪	板木	其ノ他木材料	八造肥	豆粕	其ノ他機械類	度量衡器	時計	其ノ他車輛	種類
数量	四六、九〇〇	四八、〇〇〇	一、九三〇	九、〇〇〇瓩	三、〇〇〇瓩	三五、〇〇〇瓩	七、〇〇〇石	一、八〇〇	六、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	一、九三〇、〇〇〇	四、〇〇〇輛	平戸ノ浦、瀬戸、松島、生月、江迎
価格	六、九〇〇	四八、〇〇〇	一、四七〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一四、〇〇〇	六、〇〇〇	一、八〇〇	六、〇〇〇	四、六〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、九三〇、〇〇〇	四、〇〇〇輛	平戸
主ナル仕向港	太阪、平戸、長崎、今治	平戸、各港、長崎、大阪	五島、長崎、松島	別府、大分、太田、八代、鹿島、原、唐津、中津	大牟田、大牟田、大牟田、

展ハ之ヲ望ム能ハザルベシ將來一層仲繼港トシテ物資ノ集散呑吐場タラシメザルベカラザル點ニ於テハ何人モ異論ナキトコロナルベシ卽チ近海ニ於ケル豐富ナル水產物ヲ本市ニ吸集スルト同時ニ離島ヲ本市商品ノ主タル販路トシ更ニ滿鮮トノ取引增進ヲ圖ルハ本市商工發展ノ第一要件ナリ依テ本市ノ將來ニ備フル爲須ク港灣設備ヲ完成スルト共ニ航路ノ整備ニ努力セザルベカラズ此點ニ鑑ミ本市トシテハ凡ソ左ノ方針ヲ以テ漸次之ガ達成ヲ圖ルコトヲ要スルモノトス

(一) 港灣設備

大正十三年市營棧橋ノ建設ニ依リ乘降船客並貨物積降上大ナル利便ヲ與エツヽアリト雖モ入港船舶ノ增加ト發動機船ノ急速ナル發達增加ハ本港ノ設備ヲシテ規模小ナル感ヲ抱カシムルニ至レリ加之將來ノ本港發展ニ對シ現在ノ設備ニテハ到底堪エ難キヲ以テ港灣設備ノ改修ハ最必要事タルベシ

(イ) 市營棧橋擴張

入港船舶ノ增加ト船体增大ニ伴ヒ現在ノ市營棧橋ヲ更ニ擴張スル要アリ現在ノ待合所亦狹隘ノ憾アルヲ以テ之ガ擴張ヲ要スベシ

(ロ) 發動機船專用ノ棧橋新設

發動機船ノ入港激增ニ鑑ミ發動機船專用ノ棧橋ヲ新設シ併テ乘降船客ノ爲ニ待合所ヲ荷揚ノ便ノ爲ニ上屋荷置場ヲ建設スルノ要アリ

(ハ) 港內ノ浚渫

河川ヨリ流出スル土砂ノ爲港內ハ年々淺メラレツヽアルヲ以テ市營棧橋附近ノ港內ヲ浚渫シ其他河川及海岸ノ整理ヲ爲スノ要アルベシ

(二) 近海航路

近海航路ハ本市ガ離島方面トノ取引增進最モ重要ナルヲ以テ就航船舶ノ改善航路ノ擴張開拓ハ焦眉ノ急務ナリ本市トシテハ相當ノ犧牲ヲ拂フモ大凡左記事項ノ實現ニ方ヲ致ス必要アルモノトス

(イ) 優秀船ノ就航

最近漸ク優秀船ノ就航見ヲルニ至レリト雖モ尙ホ老朽船ナシトセズ今後漸次之等老朽船ハ淘汰シ優秀船ヲ就航セシムルヲ要ス

(ロ) 津吉直通交路ノ開拓

平戶島南方トノ商取引增進上同島津吉トノ直通航路開拓ニ就テ相當研究考慮ノ價値アルモノトス

(ハ) 上五島直通交路ノ開拓

上五島ニ於ケル商取引ノ狀況ヲ見ルニ現在ニ於テハ長崎市トノ間ニ於ケル取引相當額ニ上リ居ル事實アリ之ガ原因種々アリト雖モ主要原因ハ交通ノ便否ニアルガ如シ故ニ本市ガ上五島全部ニ相當ノ商權ヲ扶植センガ爲メニハ上五島ト本市間ノ直通航路ヲ開クコト最緊要事タリ將來此點ニ就テハ深キ考慮ヲ要スルモノトス

(ニ) 五島航路玉ノ浦延長

下五島玉ノ浦ハ商取引上重要ナルヲ以テ現在ノ五島航路第一線ノ終點富江ヲ玉ノ浦ニ延長スルコトハ頗ル重要事ナリトス

(ホ) 發動機船ニ對スル補助奬勵

發動機船ハ近海交通上最モ輕便ニシテ益々發達ノ傾向アルヲ以テ本市ヲ其ノ目的航路トスルモノニ對シテハ將來適當ノ方法ヲ以テ之ヲ補助奬勵スルノ要アルモノトス

(三) 遠海航路

釜山航路ノ開拓ニ依リ彼地トノ直接取引開始サレ本市ノ蒙ル利益相當大ナルモノアリト雖モ末ダ北鮮西沿岸及大連方面ノ航路ナキハ遺憾トスルトコロナリ依テ北鮮並ニ滿洲方面ニ於ケル豐富ナル物資ノ直移入上本航路ノ開拓ハ要必事ナリトス

(イ) 鮮滿航路ノ開拓

現在仁川ヲ基點トシ大連ニ至リ再ビ朝鮮西沿岸各港ヲ經由シ長崎寄港鹿兒島ニ至ル線ト鹿兒島ヲ基點トシ三角長崎經由朝鮮西沿岸各港ニ寄港新義州ニ至ル線ノ二航路アルヲ以テ將來之ヲ本市ニ寄港セシムルコトハ最モ有利ナル事項ナリトス

(ロ) 大連航路ノ開拓

現在大阪ヲ基點トシ神戸長崎經由大連牛莊ニ至ル線ト大連ヲ基點トシ長崎三角經由鹿兒島ニ至ル線ノ二航路アリ將來之ガ本市寄港ヲ實現セシムレバ本市ノ對滿取引上稗益セラレル處相當大ナルベシ

(四) 其ノ他

將來海上交通機關ハ發動機關就中デイゼルエンヂンノ著シキ發達ト造船技術ノ進歩トニ伴ヒ型式ニ種々ノ變動ヲ來スモノト觀察セザル可カラズ將來海運業ニ就テハ此點ヲ深ク考慮スル必要アリ卽チ特ニデイルゼエンヂンノ如キ高速度ニシテ經費ノ節約可能ノ點ヨリ觀テ舊式ナル老朽汽船ノ如キハ漸次落伍ノ悲運ニ至レルモノトシテ觀測セザルベカラズ

丙 其ノ他交通機關

一、現況

最近交通運輸ノ機關著シク發達シ來レルガ就中自動車ノ發達增加ハ特ニ注目ニ値スヘク之ニ反シ馬車人力車ノ逐年減少ノ傾向アルハ時代ノ趨勢ナルベシ

各種類別車輛數

(年末現在)

	自動車					自轉車		
	乘用	積荷用	乘用	荷車	人力車	自動通常	合計	
大正十三年	三	〇	〇	一三六	一、六二六	二八〇	五	一、九〇六	三、九六六
大正十四年	二七	三〇	〇	一三〇	一、六一五	二七〇	七	一、九九一	四、〇三〇
大正十五年	三	〇	〇	一三三	一、六二六	二五四	一五	二、〇九一	四、一三三

尙本市ハ末タ電氣軌道ノ敷設ナキモ昭和二年三月ヨリ市ニ於テ乘合自動車ヲ經營シ之ニ依リ市內ニ於ケル交通機關ハ稍々整備スルヲ得タリ今同年末ニ於ケル營業哩數及車輛數ヲ示セハ左ノ如シ

營業哩數	七、二
車輛數	二六台

二、將來ノ方針

本市ハ目下都市計畫中ニ屬スルヲ以テ之ガ完成後ハ道路ノ改善ニ伴ヒ市內ノ交通運輸機關ニモ一大變革ヲ來スハ明ナルトコロナルガ將來考慮ヲ要スベキ事項大凡左ノ如シ

(一) 電氣軌道ノ敷設

現在本市ハ乘合自動車ヲ以テ市內ノ主要交通機關トナシ居ルモ將來ハ更ニ市內及近接地方ニ通ズル電氣軌道ノ計劃ニ就キ考慮ヲ拂フノ必要アルモノトス

(二) 自動車網ノ速成

本市ト郡部地方トヲ連結スル貨物自動車ノ民間經營等ニ對シテハ種々便宜ヲ與ヘ之ガ發達ヲ促シ本市ヲ中心トシ最モ有利ナル交通系統ノ完成ニ努力スルノ要アリ

第二 金融機關

一、現況

總說

金融

本市ガ都市トシテ新參ナル爲メ經濟上持異性ヲ有スル點ハ幾多アルベキモ各種資本ノ蓄積ハ比較的少ナキコトナリ從テ金融上對物信用ノ材料モ亦少ナキハ當然ナリト云ハザルベカラズ從令非營業家屋庭園等ノ不生產的蓄積ナリト雖モ可及的多キニ如カズ而シテ少資本ノ對外的ニ効果少クシテ大資本ノ遠キニ及ボシ得ルノ相違ハ魚業資金ニ於ケル長崎ト本市トノ實例ニテ明カナリ、次ニ經濟的ニ周圍ノ事情ヲ伴ヒテ自然ニ興リタルモノニ非ラザルガ爲メニ市外ノ農村離島ニ對スル物資流通ハ交通開拓ノ進度ニ支配セラルル筈ナルニ當初海軍ヲ專ラ目標ニシテ都會ヲ營メル習性ハ交通ノ開拓ヲ等閑ニ附シ等シク外國貿易ニ衰頽ヲ來セル長崎ガ離島貿易ニ早クヨリ着眼シ先鞭ヲ着ケタルニ對シ本市ハ後レタルノ感アリ從テ久シク海上交通ハ多ク長崎ヲ本位トセラレ今日尙其憾ノナシトセズ況ヤ陵上ノ交通ノ開拓ヲヤ、海軍ヲ擁セル幸福ハ周圍ニ對スル中心トシテノ脈絡ヲ執ルニ努力ヲ缺キタルノ不幸ヲ生ジ金融ハ斯ル事情ニ伴ヒテ卸取引的ナラズシテ小賣商向ニ出來上レリ故ニ久シキ間銀行ノ如キモ他市ノ支店銀行ヲ置カシタルニ止マリ集メラレタル預金信用材料少キヲ以テ容易ニ他ニ移出セラレ消化スル部分ニ於テモ製造業ニ使途ヲ求ムルコト少クシテ土地ノ開發又ハ家屋建設ニ當テラレタルニ過ギズ故ニ生產的資金トシテハ小賣商業ノ外ハ人口急增ニ伴都會ノ建設ニ振向ケラレ從テ金利高クシテ製造業發達ニ不適合ナリシハ當然ナリ卽チ外ニ對シテハ小資本ナルト交通ノ伴ハザル爲メノ物資ノ流通ヨリ來的ル刺戟少ク內ニ於テハ都會建造ノ固定的資本ニ投入ノ忙カハシクシテ高金利ヲ招致シ製造工業ノ進步ヲ防ケタリ、唯特長トスベキハ殆ンド一定ノ消費ヲナス海軍ヲ有スル一事ニシテ況不況ニ左右セラルヽノ程度少ク都會急造ノ經過ヲ遂ゲタル後ニ於テハ金融ハ他ノ都市ヨリモ波瀾少ク金利モ尙之ニ伴ヒ事業上ノ便利少カラザルベシ、爾今信用ノ增加ト交通ノ發達ト資金增加ハ商工業ノ發展ヲ刺戟スル關係ヲ大ナラシムルヤ必然ナリ

金融ノ機關トシテハ普通銀行最モ重要ナル部分ヲ占ムルモ其他貯蓄銀行、無盡會社、個人貸金業各々補助的立場ニ在リ從來賴母子講ハ特ニ本市ノ中流資金トシテ重要ナル地位ヲ占メ他ノ都市ニ比シ著シク繁昌シテ家屋建設多カリシ時代マデハ信用保タレタルモ其後ハ多ク不生產的ニ流シ信用ノ維持因難ヲ告ゲ甚ダシク衰退ヲ來タセリ、庶民金融トシテ質業モ發展ノ限度ヲ示シ市街地信用組合トシテノ庶民金庫ハ他ニ先ンジテ興リ今日中小商工業者並ニ勤勞階級ニ別用セラレツヽアルモ此種機關ハ家庭工業的職業指導宜シキニ件ハシメノ需用資金ノ方途ヲ與ヘテ將來ノ發展ヲ期スベキモノトス

本市ニ於ケル金融上ノ概觀上記ノ如シ今其ノ種類ニ應ジテ各別ノ觀察ヲ遂グレバ左記述ブル所ノ如シ

(一) 銀行

(イ) 普通銀行

日清戰爭當時ニ於ケル本市ニ銀行トシテ存在シタルハ九十九銀行、有田銀行及十八銀行ニシテ三者共ニ支店ニ過ギズ明治三十三年四月糸山銀行創設セラレタルガ本店銀行ノ濫觴ニシテ其後佐世保銀行ガ明治四十年四月ニ佐世保商業銀行ガ糸山銀行ヲ增資改稱シテ各々本店トシテ所在セシメ市內ニ支店ヲ置ククニ至リ其他支店トシテ伊萬里、同明、殖產、大村（西州銀行ヲ改稱ス）ノ各銀行支店ノ設置ヲ見現在ニ於テハ第一表ニ示スガ如ク本支店合計十二行ヲ算スルニ至ル

第一表　普通銀行ノ部

銀行名	資本金 總額	資本金 拂込額	創立年月 本店	創立年月 支店	所在地 本店	所在地 支店	氏名 頭取	氏名 支店長
佐世保銀行	二、〇〇〇、〇〇〇円	一、二五〇、〇〇〇円	明治二四、二、六 早岐銀行設立 明治四〇年三月本市ヲ本店トス		濱田町三八		須藤直方	
仝京町支店	—	—	—	明治四〇・一二・二	仝右	上京町		久住呂省二郎
仝金比良町支店	—	—	—		仝右	金比良町		代理 里元林三郎
佐世保商業銀行	二、〇〇〇、〇〇〇	一、二四〇、〇〇〇	明治三三、七、四 糸山銀行商銀ハ大正七年一月		島瀨町		川副綱隆	
仝京町支店	—	—	—	大正九、三	仝右	上京町		代理 正司常雄
十八銀行佐世保支店	一五、〇〇〇、〇〇〇	八、六二五、〇〇〇	明治三〇、七	明治三〇、七、一	長崎市	松浦町		田添忠敏
九十九銀行仝仝	四三〇、〇〇〇	四三〇、〇〇〇	明治一二、二	明治三九・一〇・一	長崎縣平戶町	常盤町		白川尙敬
有田銀行仝仝	五、〇〇、〇〇〇	四一七、五〇〇	—	明治二九・九・一六	佐賀縣有田町	松浦町		百田恒右工門
伊萬里銀行仝仝	一、〇〇〇、〇〇〇	六二五、〇〇〇	明治三八、三		仝伊萬里町	濱田町		吉永德一郎
同明銀行仝仝	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	明治三二、三	明治四二、八、一	長崎縣西大村	榮町	長井陽太郎	神近親

西州銀行	仝	仝	一、000、000	七五、000	明治三〇、一〇七	大正九、一、一
殖產銀行	仝	仝	一	一	明治二四、六	仝

次ニ右各銀行ノ大正十三年、十四年ノ期末現在ニ於ケル預金（第二、五表）貸出（第三、六表）及有、價證券現金有高其他業務上成績（四、七表）ヲ示ス

大正十三年十二月末日現在金融調査

第二表　（一）預金ノ部

（單位圓）

銀行名	科目	定期預金	當座預金	特別當座	通知預金	別段預金	コールマネー	借入金	計
佐世保銀行		四六二、六八〇	二九二、一八四	三八六、八八五	二〇、000	八二六、九一二	一	一三〇、000	二、一二八、六六〇
仝京町支店		二三五、四三五	一三七、七八二	三一九、000九	一	一	一	一	六九二、二二六
仝金比良町支店		六二、六二九	八、一一三	五七、三四五	一	一	一	一	一三八、0八六
佐世保商業銀行		六三0、二六二	四00、二三三	二三四、九九九	六0、二五五	八00	一	一	一、二二八、五九七
仝京町支店		一六七、六一八	七0、六七五	一七一、五九六	八00	四二	一	一	四一0、七三二
十八銀行支店		二、0八四、五七五	三0五、七四二	一、五一0、五五五	四、0五六	六、五一九	一	三0、000	三、九二一、四四七
九十九銀行支店		二九九、六一五	三九、00一	一五一、三三八	一	一	一	一	五一九、九五四
同明銀行支店		四八、五六二	九、四一0	三二、五五八	一	一	一	一	九0、五三0
西州農行支店		四、三四0	一、一七0	一五、二六八	一	一	一	一	二0、七六八
殖產銀行支店		八八、七五六	二四、二八四	二二、五0八	一	一	一	一	一四五、五四八
有田銀行支店		一三二、四四四	九、0六八	三四、二九六	一	一	一	一	一六五、八0八
伊萬里銀行支店		一三0、七四五	三四、一一0六	九一、五八0	一	一	一	一	五六、五三一
合計		四、三七、六六一	一、三三、八五七	二、九三七、九二七	八五、一一二	八三六、三三0	一	一六0、000	九、六七八、八九六

第三表　（二）貸付ノ部

（單位圓）

銀行名	科目	證書貸付	手形貸付	當座貸越	割引手形	預ケ金	コールローン	計
佐世保銀行		一、0三五、0二二	八五0、五六八	二四九、三一九	一0、000	二四一、四八六	一	二、三七六、七七六
仝京町支店		九五、一六九	一九一、一三五	一八六、八五七	一	一	一	四七三0、一六一
仝金比良町店支		二二、六0八	三二、五一五	四、九八六	一	一	一	五0、一0九
佐世保商業銀行		三九四、四九六	六0四、七六0	五一五、0九九	二九三、0一八	二一0、九0一	四七五、000	二、四九三、二七四
仝京町支店		七五七	四五、九四三	三六八、三五0	一八、三三四	一	一	四四一、一九九
十八銀行支店		四五、九四三	一九八、二0五	七二、一七四	二三二、五0三	一	一	五四九、三六四
九十九銀行支店		三九一、0五六	一二九、七00	一九九、三七六	六、三六七	二0、000	一	七四六、四九九
同明銀行支店		一四八、七八三	一九八、二0五	五0、五三八	一	一	一	一九九、三三一
西州銀行支店		四二、七0三	三九、七七0	一二一、九一八	一	二0、000	一	六0三、四0一
殖產銀行支店		三一四、九三一	二三、四六五	六五、一七三	一三、二三三	一	一	四三八、二八七
有田銀行支店		二六六、五一一	一0、六五0	一八0、六三八	一七、五00	一	一	五四四、0四七
伊萬里銀行支店		四四四、七0一	二一、四五九	三四四、0六四	一	一	一	一、000、二二四
合計		三、五七一、六八0	二、三四四、九八五	二、三五九、0四一	六一、三五三	五五一、四二六	四七五、000	九、三六三、四八五

第四表　（三）其他ノ部

（單位圓）

銀行名	科目	有價証券	現金有高	送金取組	支拂高	荷爲取組高	仝取立高	代金取立取組高	仝取立高
佐世保銀行		三四二、六五六	二一六、0五七	一、0四八、0七六	一、六二四、六五0	九二、四四六	三九九、七八四	一二六、三七0	四三七、三三0
仝京町支店		一	三八、五二五	四九七、七九六	四、二四五	一五、六七六	一	二八、九一六	八六、三二一

第五表　大正十四年十二月末日現在金融調査

(一)　預金ノ部

（單位圓）

銀行名＼科目	定期預金	當座預金	特別當座	通知預金	別段預金	コマーシャル	借入金	計
佐世保銀行	九六、二五〇	五九九、五七〇	三四、三〇七	二一、四五五	四、八八		一〇五、〇〇〇	一、五三一、四〇〇
全京町支店	三六、二二一	一三九、九七七	三四〇、七四					八四、九二一
全金比良町支店	八三、五五五	五〇、九六七	五六、七四七		九三			一四五、五三一
佐世保商業銀行	一四〇、九三三	五〇〇、九三二	三〇、三五五	一三、一五〇	三、八六三			一、五六三、三二一
全京町支店	六三、四四〇	一三九、三七七	一五、一五七		五、〇五三			四五、五四七
全金比良町支店	四九、六四二	一四、二七三	一五、五〇五	一、一〇〇	二、八九二			四、一三三、二六三
同明銀行支店	六、一四〇	四九、六五三	一三、四〇四	一、〇一八	四九二			四、〇一八、一三七
同九十九銀行支店	二九五、〇三三	一四、二七三	一五、五〇五	一、一〇〇	二、八九二			四、一三三、二六三
同九十八銀行支店	二、三三五、七四四	四六、八四二	一、三三、六六六	一、〇〇一	二、八九二			四、一三三、二六三
全京町支店	三、三四四、五七七	六三、四四〇	一五六、三五七	一三、一五〇	五、〇五三			四五、五四七
全金比良町支店	一、四九五、五四五	五〇、九三二	三〇、三五五	一三、一五〇	三、八六三			一、五六三、三二一
伊萬里銀行支店	四九、四〇〇	一四、二七三	一五、五〇五	一、一〇〇	二、八九二			四、一三三、二六三
有田銀行支店	三四〇、七五〇	九、九六五	一、〇八四					四、一三三、二六三
殖産銀行支店	四三、六四〇	二、三五〇	二、四五七					四、一三三、二六三
西州銀行支店	三、一五六、六四四	一三、四五五	一四、三五七					四、一三三、二六三
同明銀行支店	一、三三、二六四	四五、五四七	一四、三五七					四、一三三、二六三
同九十九銀行支店	四、一三三、二六三	四五、五四七	一四、三五七					四、一三三、二六三
同九十八銀行支店	四、一三三、二六三	四五、五四七	一四、三五七					四、一三三、二六三
合計	三、七〇〇、六六八	四、〇八五、九一五	六、七四八、四八七	二四、一五〇	四九、〇一八	一、〇〇一、五三〇	一〇五、〇〇〇	一〇、五〇六、九〇〇

(二)　貸付ノ部

（單位圓）

銀行名＼科目	證書貸付	手形貸付	當座貸越	割引手形	預ケ金	コールローン	計
佐世保銀行	一、一〇三、四三七	六九四、四三一	二六、三二九	四、五〇〇	二九一、〇六三		二、三七九、七六一
全京町支店	二一七、三五七	二〇一、四七五	二六、五二一		三五九、五三三		七四四、八六六
全金比良町支店	八、三二六	三五、六三九	二、二六		七二、二七七		二六、三六六
佐世保商業銀行	三六三、四六二	五九、三五二	五六、七〇八	二〇六、五五	三三、四四	七三、〇〇〇	二、七〇六、五三二
全京町支店	一、二六、一四七	二〇、六三〇	三五、六四八	一、一六	五六、七〇七		四二六、六二二
全金比良町支店	一四、一三六	一、四五五	一、三四		一、一六		五四、三二一
伊萬里銀行支店	四九、七四〇	一、九九五	一、一〇八		一、一六		五三、一九一
有田銀行支店	三一、〇四一	九、九六五	一、〇八四				四三、一九一
殖産銀行支店	四、一三一、九三七	六三、一四四	一、三五〇				四、一九六、三二一
西州銀行支店	五六、六七〇	一、四五五	一、三四				五九、一五九
同明銀行支店	一、三三、二六四	四五、五四七	一四、三五七				一、四三二、六四八
同九十九銀行支店	四、一三三、二六三	四五、五四七	一四、三五七				四、一九六、三二一
同九十八銀行支店	四、一三三、二六三	四五、五四七	一四、三五七				四、一九六、三二一
合計	二、七四〇、六四八	一、四〇五、四四四	一、三四、四四四	二一六、五五	四三、〇〇〇		五、二六九、九三三

(三)　其他ノ部

（單位圓）

銀行名＼科目	計
佐世保銀行	二、三七九、七六一
全京町支店	七四四、八六六
全金比良町支店	二六、三六六
佐世保商業銀行	二、七〇六、五三二
全京町支店	四二六、六二二
全金比良町支店	五四、三二一
伊萬里銀行支店	五三、一九一
有田銀行支店	四三、一九一
殖産銀行支店	四、一九六、三二一
西州銀行支店	五九、一五九
同明銀行支店	一、四三二、六四八
同九十九銀行支店	四、一九六、三二一
同九十八銀行支店	四、一九六、三二一
合計	一〇、五〇六、九〇〇

第六表　(二)　貸付ノ部

（單位圓）

銀行名＼科目	證書貸付	手形貸付	當座貸越	割引手形	預ケ金	コールローン	計
伊萬里銀行支店	五、三五五、三三〇	二三七、三〇〇	一四三、六三二	一一、六四〇	二七、二三五		五、五六六、一四二
有田銀行支店	一、一〇三、四三七	六九四、四三一	二六、三二九	四、五〇〇	二九一、〇六三		二、三七九、七六一
殖産銀行支店	一四三、六三二	一一、六四〇	二七、二三五				二、三七九、七六一
西州銀行支店	五六、六七〇	一、四五五	一、三四				五九、一五九
同明銀行支店	一、三三、二六四	四五、五四七	一四、三五七				一、四三二、六四八
同九十九銀行支店	四、一三三、二六三	四五、五四七	一四、三五七				四、一九六、三二一
同九十八銀行支店	四、一三三、二六三	四五、五四七	一四、三五七				四、一九六、三二一
合計	一〇、三六六、九〇〇	二、七九九、九三三	二、三六九、八六六	一六、五四〇	三四、〇〇〇		一〇、三六六、九〇〇

銀行名 / 科目	有價証券	現金有高	送金取組	仝支拂高	荷爲替取組高	仝取立高	代金取立取組高	仝取立高
佐世保銀行	二四五、八一三	一、九四一、六五一	一九六、五八五	三〇八、四〇三	二三、五七七	二〇、九二九	四三、六三九	一七三、二六九
仝京町支店	—	三二、六九四	一〇三、一八九	六一、五	四、四八四	—	五、五七九	二、〇五〇
仝金比良町支店	—	八、四〇七	二、一一九	—	—	—	一四八	—
佐世保商業銀行	一六三、六九九	一三〇、七七六	四四三、六九六	三九九、二〇九	一〇、九二三	八五、五〇九	二〇四、六三九	一三一、五九二
仝京町支店	—	四二、八七八	—	—	—	—	—	—
十八銀行支店	—	二五一、三八七	四八四、二六〇	一、二四八、三六九	—	二五七、二四四	二〇三、〇一九	八七三、四九九
九十九銀行支店	—	四〇、五五三	八五、八八二	六〇、六六九	二、五〇〇	一五、〇〇〇	一〇、七六〇	二五、八一〇
同明銀行支店	—	二四、三三七	—	—	—	—	—	—
西州銀行支店	—	一三、七三一	一、四四七	五、三四	—	—	四六八	三七七
殖產銀行支店	—	二九、四九二	四、三六〇	八〇五	—	—	一、五三〇	六七五
有田銀行支店	六四〇	一二、四七四	一、六六三	四、一七二	—	六六八	三、三五一	二、一四四
伊万里銀行支店	—	五四、六七五	二一、九七三	二四、〇二六	—	五二、七九八	三、三一〇	二五、二三二
合計	四一〇、一五二	八三四、〇五五	二、一三四、一七四	二、〇五一、六〇二	四一、四八二	四三、一四七	四七六、四四三	一、二二四、六五七

今回ノ調査ニ係ル大正十三、十四年ノ兩年ノミニテハ銀行界ノ推移ヲ明カニナシ難キヲ以テ夫レ以前大正十四年ノ分ヲモ加ヘテ表示スレバ第八表ノ如シ

第八表　本市預金貸出表

年次	預金高	貸出高	對預金貸出率	對前年增加率
大正四年末	三、五二五、九四九	二、〇六七、九八六	五八六	一〇〇
大正五年末	二、八三七、七二三	一、八五六、五三四	六五一	△八四
大正六年末	三、一三二、九三三	一、九八八、九九四	六九九	一〇九
大正七年末	四、六一一、八六八	三、〇八七、二六六	六七三九	一五七
大正八年末	六、六七五、〇二四	五、〇四六、一四六	七四七	一四五
大正九年末	八、四三五、五〇八	六、一二九、一五二	七二七	一二四
大正十年末	九、三三二、五八九	七、三一一、〇三四	七八四	一一四
大正十一年末	七、八一九、三八七	七、六三一、七五八	九七五	△九三
大正十二年末	一〇、二五六、八六五	一一、七三五、八九四	一一四四	一四二
大正十三年末	九、六七八、八九六	九、三六三、四八五	九六七	△八七
大正十四年末	一〇、二六六、九九三	一〇、五〇六、九九〇	一〇三	一〇九

△印ハ減

（備考）大正十三年、大正十四年ハ今回ノ調査シニテ他ハ佐世保市統計表ニ依リ預金ニ於テ公金ヲ除ク即チ今大正四年以後ノ趨勢ヲ觀レバ預金及貸出シ合計ニ於ケル各年毎ノ對前年增加率ヲ取レバ大正五、十一年及十三年ヲ除クノ外ハ連年增加ヲ示シ連年預金貸出合計ノ除々ニ增加セルハ本市金融界ノ進度トシテ觀取スベシ次ニ預金ニ對スル貸出率ニ於テ率ノ高キハ所用需用又ハ整理貸金ノ高カリシヲ示シ十二年、十四年ハ特ニ著シキ波動ト見ラルベシ

商況發展ノ進度ノ一端ヲ見ル爲メニ參考トシテ本市ノ銀行送金爲替及荷爲替ノ增加率ヲ左表ニ示ス

第九表　本市銀行送金及荷爲替增加率表

年次	振出送金荷爲替增率	受入送金荷爲替增率
大正四年	一〇〇	一〇〇
大正五年	一二七	一九七
大正六年	二三五	三一六
大正七年	四三四	一〇三三
大正八年	六四二	一一五九
大正九年	五五七	七一〇

卽チ右ニ依レバ振出送金爲替、荷爲替ノ方ニ於テ波瀾ハ著シク富ミ十三、四年度ニ於テハ振出卽チ當市ガ物資購入ニ支拂ヒタル金額ハ增加シタルニ不拘受入卽チ物資ヲ販賣シタル代金ハ減少シタリ但シ之ハ銀行ヲ通ゼザル商賣ノ數モ少カラザルヲ以テ之ノミヲ以テ直チニ商業ノ傾向ヲ卽斷スベカラザルハ勿論ナリ

（ロ）貯蓄銀行

本市ニ於ケル貯蓄銀行ハ第十表ノ如ク二行ニシテ

第十表　貯蓄產銀行ノ部

銀行名	資本金 總額	資本金 拂込額	創立年月	所在地 本店支店	氏名 本店支店	頭取支配人長	五七一	四六六
佐世保貯蓄銀行			大正二、三	濱田町三八	富田等平		五六〇	三八三
不動貯金銀行			明治四三、三、五	本島町七	日高德藏		五二九	三五七
佐世保支店							五七三	三六四
							四八五	

其ノ口數及金額及職業別ヲ示セバ左ノ如シ

第十一表　イ　普通貯金金額大小別　（大正十三年末現在）（單位圓）

種別 / 銀行名	一、〇〇〇圓以上 口數	一、〇〇〇圓以上 金額	五〇〇圓以上一、〇〇〇圓未滿 口數	五〇〇圓以上一、〇〇〇圓未滿 金額	一〇〇圓以上五〇〇圓未滿 口數	一〇〇圓以上五〇〇圓未滿 金額	五〇圓以上一〇〇圓未滿 口數	五〇圓以上一〇〇圓未滿 金額	五〇圓未滿 口數	五〇圓未滿 金額	計 口數	計 金額
佐世保貯蓄銀行	三二	八三、八二五	五五	三六、一三四	四五三	九五、五五〇	三一五	二二、二六三、〇五六	三〇、二五八、九一一	二六七、九八三		
不動貯金銀行	三	三、五一八	六	四、〇八二	三四	六、九七九	二三	一、四七八	一五五	八六八	二二〇	一六、九二一
佐世保支店	三五	八七、三四三	六一	四〇、二二	四八七	一〇二、五二五	三三七	二二、八九四、二一一	三一、一二六四、一三一	二八四、九〇四		
計												

第十一表　ロ　普通貯金金額大小別　（大正十四年末現在）（單位圓）

種別 / 銀行名	一、〇〇〇圓以上 口數	一、〇〇〇圓以上 金額	五〇〇圓以上一、〇〇〇圓未滿 口數	五〇〇圓以上一、〇〇〇圓未滿 金額	一〇〇圓以上五〇〇圓未滿 口數	一〇〇圓以上五〇〇圓未滿 金額	五〇圓以上一〇〇圓未滿 口數	五〇圓以上一〇〇圓未滿 金額	五〇圓未滿 口數	五〇圓未滿 金額	計 口數	計 金額
佐世保貯蓄銀行	三二	八三、八二五	五五	三六、一三四	四五三	九五、五五〇	三一五	二二、二六三、〇五六	三〇、二五八、九一一	二六七、九八三		
不動貯金銀行	三	三、五一八	六	四、〇八二	三四	六、九七九	二三	一、四七八	一五五	八六八	二二〇	一六、九二一
佐世保支店	三五	八七、三四三	六一	四〇、二二	四八七	一〇二、五二五	三三七	二二、八九四、二一一	三一、一二六四、一三一	二八四、九〇四		
計												

第十二表　イ　普通貯金現在高職業別　（大正十三年末現在）（單位圓）

種別 / 銀行名	農業 口數	農業 金額	商業 口數	商業 金額	工業 口數	工業 金額	雜業 口數	雜業 金額	計 口數	計 金額
佐世保貯蓄銀行	七二四	六九、九八六	八二八	七五、八一〇	三九五	一六、三一八	一、六六七	七四、〇四二	三、六二四	二三六、一五六
不動貯金銀行	六	六五八	五七	三、五八〇	三	二六七	七六	五、九三一	一四二	一〇、四三六
佐世保支店	七〇	七〇、六四四	八八五	七九、三九〇	三九八	一六、五五五	一、七四三	七九、九七三	三、七六九	二四六、五九二
計										

第十二表　ロ　普通貯金現在高職業別　（大正十四年末現在）（單位圓）

種別 / 銀行名	農業 口數	農業 金額	商業 口數	商業 金額	工業 口數	工業 金額	雜業 口數	雜業 金額	計 口數	計 金額
佐世保蓄貯銀行	七七八	七九、五三九	九一三	九三、〇一一	五三六	一九、三四〇	一、六八四	七六、〇九三	三、九一一	二六七、九八三
不動銀金銀行 佐世保支店	三	三六	八三	七、一七四	一五	一、一三九	一一九	八、五七四	二二〇	一六、九二三
合計	七八一	七九、五七五	九九六	一〇〇、一八五	五五一	二〇、四七九	一、八〇三	八四、六六七	四、一三一	二八四、九〇六

而シテ大正十三、十四年ノ傾向ノ概要ヲ説明スレバ

第十三表 イ　貯蓄預金金高利口數及預金高比率

種別 / 年次	一、〇〇〇圓以上 口數	一、〇〇〇圓以上 金額	五〇〇圓以上 口數	五〇〇圓以上 金額	一〇〇圓以上 口數	一〇〇圓以上 金額	五〇圓以上 口數	五〇圓以上 金額	五〇圓以下 口數	五〇圓以下 金額
大正十三年	〇、八	二六、三	一、五	一六、四	一一、一	三七、〇	八二	八、七	七八、四	一一、六
大正十四年	〇、八	三〇、三	一、五	一四、一	一一、八	三六、〇	八二	八、三	七七、七	一〇、九

第十三表 ロ　貯蓄預金者職業別推移比率

種別 / 年次	農業 口數	農業 金額	商業 口數	商業 金額	工業 口數	工業 金額	其ノ他 口數	其ノ他 金額
大正十三年	一九、七	二八、六	二三、五	三二、二	一〇、六	六、七	四六、二	三二、五
大正十四年	一八、九	二七、九	二四、二	三五、二	一三、三	七、二	四三、六	二九、七

項金額千圓以上ヨリ五十圓以下迄五階段ニ區別シタル十三表ニ就キ檢スルト千圓以上ニ於テ口數ハ前年同樣ナ下ルモ金額ニ五增シ五百圓以上ノ部ニテ口數ハ增減ナク金高ニテ二點ヲ減ジ百圓以上ハ殆ント現狀ヲ止メ五十圓以ノ部ニテハ口數金高共ニ僅カニ減少セリ

職業別ニ關シテハ農業者ノ預金者ハ前年ニ對シ口數一點二金高〇點七ヲ減少シ其反面ニ商工業者ハ增率ヲ示セリ即チ商業ニテハ口數〇點七金高二點ヲ增シ工業ニ於テハ口數二點金高〇點五ヲ增ス從テ其他ノ部ニ於テ著シノ減率ヲ示スハ勿講ナリ卽チ商工業者ガ割合ニ增進セル跡ハ此ノ限リニ於テ証明セラル

定期積金ニ關スル職業別ニ於テハ商工業者ハ其前年ニ比シテ現狀維持ヲ示シ殆ンド差違ナシ

第十四表 イ　定期積金給付契約高大小別　（大正十三年末現在）　（單位圓）

種別 / 銀行名	給付契約及受入高別	契約高 一、〇〇〇圓以上 口數	契約高 一、〇〇〇圓以上 金額	仝 五〇〇圓以上 口數	仝 五〇〇圓以上 金額	仝 一〇〇圓以上 口數	仝 一〇〇圓以上 金額	計 口數	計 金額
佐世保財蓄銀行	給付契約高	九一	一四、三〇〇	六八	三五、一〇〇	一二〇	二三、〇〇〇	二七九	二〇一、一〇〇
不動貯金銀行 佐世保支店	給付契約高	五一五	一、一五五、一〇〇	四六六	二三九、四〇〇	二	五〇〇	九八三	一、三九五、〇〇〇
合計	給付契約高	六〇六	一、一六九、四〇〇	五三四	二七四、五〇〇	一二二	二三、五〇〇	一、二六一	一、五九六、一〇〇
佐世保貯蓄銀行	受入高	—	五五、八七七	—	一三、九五二	—	七、二九二	—	七七、一二二
不動貯金銀行 佐世保支店	受入高	—	五〇一、九一七	—	九六、九三一	—	二三	—	五九八、八七三
合計	受入高	—	五五七、七九四	—	一一〇、八八三	—	七、三一五	—	六七五、九九五

第十四表 ロ　定期積金給付契約高大小別　（大正十四年末現在）　（單位圓）

種別 / 銀行名	給付契約及受入高別	一、〇〇〇圓以上 口數	一、〇〇〇圓以上 金額	五〇〇圓以上 口數	五〇〇圓以上 金額	一〇〇圓以上 口數	一〇〇圓以上 金額	計 口數	計 金額
佐世保貯蓄銀行	給付契約高	一一四	一八九、五〇〇	一〇六	五四、六〇〇	一八八	三四、六〇〇	四〇八	二七八、七〇〇
不動貯金銀行 佐世保支店	給付契約高	七三六	一、四六四、〇〇〇	六〇六	三一〇、八〇〇	二	五〇〇	一、三四四	一、七七五、三〇〇

第十五表 イ　定期積金職業別　（大正十三年末現在）　（單位圓）

銀行名	受入高															
合計	八五〇	一、六五三、五〇〇	七一二	三六五、四〇〇	一九〇	三五、一〇〇	一、七五二	二、〇五四、〇〇〇
佐世保貯蓄銀行	—	七五、七六三	—	二二、三一二	—	一二、〇五六	—	一一〇、一三一
不動貯金銀行	—	五四六、一一	—	一一四、三五五	—	七一	—	六六〇、八三八
佐世保支店	—	六三二、一七四	—	一三六、六六七	—	一二、一二七	—	七七〇、九六九

第十五表 ロ　定期積金職業別　（大正十四年末現在）　（單位圓）

銀行名	種別	給付契約及受入高別	農業		商業		工業		雜業		計	
			口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額
佐世保貯蓄銀行	給付契約高	受入高	一五	九、五〇〇	一二六	一二五、九〇〇	二八	一一、五五〇	一一〇	五四、一五〇	二七九	二〇一、一〇〇
不動貯金銀行			四	二、六〇〇	五三八	九二七、〇〇〇	四六	三五、七〇〇	三九五	四〇九、四〇〇	九八三	一、三九五、〇〇〇
佐世保支店			一九	一二、一〇〇	六六四	一、〇五二、九〇〇	七四	四七、二五〇	五〇五	四六三、五五〇	一、二六二	一、五九六、一〇〇
合計			—	三、七八五	—	四五、七四二	—	六、二八三	—	二一、三一二	—	七七、一二二
佐世保貯蓄銀行	給付契約高	受入高	—	一、二八五	—	四二六、九三六	—	一〇、四九九	—	一六〇、一五二	—	五九八、八七三
不動貯金銀行			—	五、〇七〇	—	四七二、六七四	—	一六、七八二	—	一八一、四六四	—	六七五、九九五
佐世保支店			—	四、〇〇〇	一六二	一七七、一〇〇	二三	六、八〇〇	二一四	九〇、八〇〇	四〇八	二七八、七〇〇
合計			九	三、六〇〇	七八〇	一、二二〇、七〇〇	四五	三六、七〇〇	五一四	五一四、三〇〇	一、三四四	一、七七五、三〇〇

第十六表 イ　定期預金者ニ對スル貸付金　（大正十三年末現在）　（單位圓）

銀行名	項目	前期繰越高	當期貸付高	當期入金高	當期未現在高	同上口數
佐世保貯蓄銀行		四、三二〇	二〇、〇五五	一二、七一五	一一、六六〇	二五
不動貯金銀行		三二二、一五一	八六、八三八	一九七、八七九	二〇〇、七九五	三三二
佐世保支店		三一六、四七一	一〇六、八九〇	二一〇、五九四	二二二、四五五	三五七
合計		一四	七、六〇〇	九四二	一、三九七、八〇〇	六八
佐世保貯蓄銀行	受入高	—	二、九三三	—	七二、七九二	—
不動貯金銀行		—	二、三五〇	—	四六四、三一七	—
佐世保支店		—	五、二八三	—	五三七、一〇九	—
合計		一四	七、六〇〇	九四二	一、三九七、八〇〇	六八
佐世保貯蓄銀行	給付契約高	—	二、九三三	—	七二、七九二	—
不動貯金銀行		—	二、三五〇	—	四六四、三一七	—
佐世保支店		—	五、二八三	—	五三七、一〇九	—

定期預金ニ對スル貸付金

第十六表 ロ　定期積金者ニ對スル貸以金　（大正十四年末現在）　（單位圓）

銀行名	項目	前期繰越高	當期貸付高	當期入金高	當期未現在高	同上口數
佐世保貯蓄銀行		四、四〇〇	一六、二四〇	一九、二三〇	一、四一〇	四
不動貯金銀行		三〇、三〇四	一三、七四五	一五、七七〇	二八、二七九	七七
佐世保支店		三四、七〇四	二九、九八五	三五、〇〇〇	二九、六八九	八一
合計		四、三二〇	一〇、〇五五	一二、七一五	一一、六六〇	二五
佐世保貯蓄銀行	受入高	一一	八六、八三八	一九七、八七九	二〇〇、七九五	三三二
不動貯金銀行		一一	一〇六、八九〇	二一〇、五九四	二二二、四五五	三五七
佐世保支店		一一	一九、二三〇	一一、六六〇	二一〇、七五五	一七
合計		四、三二〇	一六、二四〇	一九、二三〇	一、四一〇	四
佐世保貯蓄銀行	給付契約高	一一	一三、七四五	一五、七七〇	二八、二七九	七七
不動貯金銀行		一一	二九、九八五	三五、〇〇〇	二九、六八九	八一
佐世保支店		一一	一七九、九三五	一一、六六〇	一七九、九六九	一七
合計		一一	一一〇、一三一	一一、七五三	二、〇五四、〇〇〇	二五
佐世保貯蓄銀行	給付契約及受入高別	一一	六六〇、八三八	一九七、八七九	二〇〇、七九五	三三二
不動貯金銀行		一一	二九、九八五	三五、〇〇〇	二九、六八九	八一
佐世保支店		一一	一七九、九三五	一一、六六〇	一七九、九六九	一七
合計		一一	一一〇、一三一	一一、七五三	二、〇五四、〇〇〇	二五

佐世保貯蓄銀行		二、六〇〇	
不動貯金銀行	佐世保支店	一八七、七八	
合計		一九〇、四三八	

定期預金者ニ對スル貸付金

銀行名	項目	前期繰越高	當期貸付高	當期入金高	當期末現在高	同上口數
佐世保貯蓄銀行		一、四一〇	三、二五〇	三、一一〇	一、五五〇	五
不動貯金銀行	佐世保支店	三二、五九九	二一、七五〇	二六、四八五	二七、八六四	一二五
合計		三三、〇〇九	二五、〇〇〇	二九、五九五	二九、四一四	一三〇

次ニ貯蓄預金者ニ對シ預金ニ對スル貸付高ノ振合ヲ見ルニ第十四表ノ定期積金給付契約高ハ貯蓄金ヲ後日給付スル契約高ナルヲ以テ單ニ銀行ガ現實額金トシテ受入レタル十三年度ノ各合計六十七萬五千圓ニ對シ定期積立金者及預金者（第十六表）ノ二者ニ對スル貸付金ハ十三萬六千圓ニシテ二割二分ニ當ル然ルニ十四年度ニ於テハ七十七萬一千圓（第十四表）ニ對シ前同樣ノ二者十四萬八千圓ノ貸付（一六表）アルニヨリ一割九分三厘二點三ノ差トナリ其ノ貸出卒遙カニ低下セリ

（二）無盡會社

第十七表　無盡會社ノ部

會社名	資本金 總額	資本金 拂込額	本店	創立年月	所在地 本店	所在地 支店	氏名 社長	氏名 支店長
大正無盡株式會社	六〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	大正二、二、一五	大正三、二、一〇	島瀬町八八		豐島精太郎	
長崎無盡株式會社佐世保支店	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇			相生町二九		木崎芳平	

無盡會社ニ關シテハ掛金契約高（其內掛金受入レラレタルモノモアルモ）トシテ振合ハ十三年上下期計三百一萬六千圓ニ對シ十四年度ハ四百十六萬一千圓ニ及ビ三割八分餘ノ增加ニ當ル即チ次ノ第十八表ニ示スガ如シ大正十三、十四年期末現在金融調査（單位圓二店合計）

第十八表　イ　（一）契約高

種別 期別	給付金契約高 給付濟高	給付未濟高	合計	掛金契約高 受入高	受入未濟高	合計
大正十三年上半期	八五、〇〇〇	一、三四九、六〇〇	一、四三四、六〇〇	一二六、一二七	一、二三五、一三四	一、三六一、四〇一
大正十三年下半期	二五〇、八〇〇	一、四六一、一〇〇	一、七一二、〇〇〇	三〇六、八五二	一、三四七、七六一	一、六五四、六一三
大正十四年上半期	四一一、七〇〇	一、四六〇、三〇〇	一、八七二、〇〇〇	四九〇、四二二	一、三七〇、六六五	一、八六一、〇八七
大正十四年下半期	五八五、八〇〇	一、六八二、七〇〇	二、二六八、五〇〇	六七一、六六二	一、六二八、二三三	二、二九九、八八四

（二）給付金額及ビ組數期

種別 期別	一〇〇圓	五〇〇圓	一、〇〇〇圓	三、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
大正十三年上半期	二組	二四組	一〇組	六組	一組
大正十三年下半期	三組	三四組	一五組	八組	二組
大正十四年上半期	三組	四四組	一八組	九組	一組
大正十四年下半期	三組	五二組	二一組	八組	三組

(三) 信用組合

信用組合佐世保庶民金庫

大正五年十月ノ設立ニ掛リ當時有限責任佐世保實業會信用組合ト稱ヘ佐世保一圓ノ日用品商ヲ以テ組織セリ當初一口ノ出資金額ヲ五拾圓ト定メ第一回ノ拂込ヲ五圓トス大正八年八月ニ定款ノ變更ヲ行ヒ、組合員資格ノ範圍ヲ擴張シ公共團体又ハ營利ヲ目的トセザル法人若クバ團体ノ貯金ヲモ取扱フノ外商業手形ノ割引等モナセリ、然レドモ尙當市ニハ海軍從業員多クシテ之ヲ利用セントスル者アルヲ以テ大正十二年二月名稱ヲ有限責任信用組合佐世保庶民金庫ト改稱シ一口出資金額ヲ三十圓ニ引下ゲ庶民一般ノ金融機關トナセリ

事業成績概要

大正五年ノ初年度ニ於ケル事業成績ハ徵々タルモノニシテ組合員僅カニ二十名其ノ出資契約高モ一、〇〇〇圓ニ過ギズシテ第一回拂込後ノ負債トシテ現金一、九七九圓預金八〇圓、未濟出資金九〇〇圓ヲ有スルノミ、爾後大正十一年ニ至ルマデ殆ンド爲ス所ナク其ノ間十年三月定款ノ一部ヲ改正シ更ニ十二年二月ノ定款變更ニ依リ一口ノ出資金額ヲ三十圓トシタルニ依リ稍々加入契約者モ增加シ五四二口ニ及ブ爾來年々其ノ實ヲ擧ゲ現在ニ於テハ組合員ハ主トシテ小商人並ニ俸給生活者ニシテ其ノ事業ノ目的ヲ遂行シツヽアリ今十三年、十四年度ノ事業成績ヲ貸借對照表ニ依リ示セバ左ノ如シ

第十九表　大正十三、十四年度貸借對照表

貸方 科目	十三年度 金額	十四年度 金額	借方 科目	十三年度 金額	十四年度 金額
拂込未濟出資金	六五、七九〇	六五、一九八五七〇	出資金（內拂込濟額）	九三、四二〇（四〇、五五〇）	一〇八、三六〇（四三、一六一、四三〇）
貸付金	三三、七五九〇〇〇	三三、〇九五、三〇〇	組合員貯金	—	九、五二九、七八〇
預ケ金	四、二八〇、三七〇	一二、四一八、三〇	團体貯金	一、六五一、〇一〇	八、九五〇、〇三〇
未收入利子	二〇七、七六〇	四五、二六九〇	家族貯金	—	八八五、一六〇
什器	一、九三一、一〇	一、九三一、一〇			

第二十表　剩餘金處分方法

科目 ＼ 年次	大正十三年度	大正十四年度
總益金	五、八四一、〇一〇	六、五五三、三一〇
總損金	二、八〇六、九九〇	一、九〇九、六三〇
剩餘金	三、〇三四、〇五〇	四、八六七、〇〇
準備金	七八七、一四〇	二、四八六、七〇〇
配當金	一、九四〇、七一〇	一、七五五、〇〇〇
役員賞與金	三〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
繰越金		六二、三一〇

縣聯合會出資金	四、〇〇〇、〇〇〇	一般貯金	二三六、七四〇	六、二四四五、一〇
公會積立金	—	準備金	四〇、五九〇	八一七、七三〇
產業組合中央金庫出資金	六、二〇〇、〇〇〇	剩餘金	二、〇三四、〇五〇	二、四八六、七〇〇
印刷物殘高	三六四、八三〇	孫聯合會拂込未濟出資金	三、五七〇、〇〇〇	三、〇九一、七〇
現金	—	產業組合中央金庫拂込未濟出資金	四、四六四、〇〇〇	四、三六九、七六〇
手形貸付	一、九〇〇、〇〇〇	未經過利息	—	二八三、〇一〇
拂戻準備金	一〇〇、〇〇〇	縣聯合會分持	二、七〇〇	二六、七一〇
	—	未拂利子	—	一二、五八〇
	—	特別積立金	—	六、一〇〇
	—	未拂戻出資金	—	一、七六二、七〇
合計	一四七、三七六、一〇	合計	一〇六、四六八、六四〇	一四七、三七六、一〇

特別積立金　六、一〇〇

準備金ハ両年度共剰ニ餘金ノニ當ル配當金ハ十三年度ハ全部出資拂込濟額ニ對シテ七分強ニ當リ十四年度ハ四分一厘ニ當リ而シテ內金一、六三七圓三四錢ヲ出資ノ拂込ニ充ツ

第二十一表　組合員及出資口數

職業別	年別	大正十三年度末現在		大正十四年度末現在	
		組合員數	出資口數	組合員數	出資口數
農業		九	二五	八	二九
林業		—	—	—	—
工業		五五	四三	五九	四一
商業		二八	九八	一九七	一、二八
水産業		—	—	—	—
其ノ他		二九	一、五八	三六三	一、七四
合計		四五二	三、一二四	六三七	三、六二

(四)　質屋業

本市ニ於ケル質屋業者ハ二十七名ニシテ其ノ氏名左ノ如シ

認可年月日	營業所	營業者氏名	認可年月日	營業所	營業者氏名
大正一四、一〇	松浦町 一〇九	石橋セキ	明治四四、一〇	松川町 六	古村清太郎
大正　九、八	宮地町 一二一	田畑秀雄	明治四三、九	島瀬町 一二四	石橋勇一
明治四一、五	常盤町 三六	原口德太郎	大正　七、五	上京町 一七	飯盛信雄
大正一一、二	萬德町 一〇五	上野トシ	明治三六、一〇	島瀬町 七一	貞包重吉
明治二八、九	高砂町 四一	太田開助	明治三七、二	三浦町 二六	松尾良吉
明治三七、一二	高天町 一一六	持永芳雄	大正　八、一二	宮崎町 六	田中彌平
大正一三、一一	金比良町二三七	坂本エイ	大正一四、一二	常盤町 二六	原　松治
大正一一、三	高天町 一六四	松尾カチ	大正一一、三	名切町 一六二	津田房吉
大正一〇、八	宮地町 一六〇	梅崎兵次	明治四三、九	八幡町 一二二	山口六助
大正一二、五	名切町 八五	片山慶次郎	明治三七、一〇	城山町 四五	執行清太郎
大正　九、一二	山縣町 三	古賀倉治	大正　九、一〇	濱田町 七四	堤　チカ
明治四四、六	山縣町 一	馬塲ハル	大正　七、四	福石町 一七二	持永支店
大正一一、一二	福石町 三ノ一	中村勘六	大正　四、七	金比良町 九三	市丸虎吉
不明	俵町 二三二	野田タチ			

本市質屋營業者二十七店ノ一ケ年通計總貸出高ハ約九十萬圓ニ達スノ之ガ利用ハ主トシテ中流以下ノ生活者ニシテ其利用額ニ對スル口數ヲ百分比ニテ示セバ大畧左ノ如シ

第二十二表　(一)　利用單價比率

區分	口數百分率	區分	口數百分率	區分	口數百分率	區分	口數百分率
二圓以下	二八、〇	五圓以下	四〇、〇	十圓以下	一五、〇	十五圓以下	六、〇
三十圓以下	三、〇	四十圓以下	二、〇	五十圓以下	一、〇	百圓以下六	〇、五
						二十圓以下	二、〇
						百圓以上	〇、五

第二十三表　(二)　貸出高受質高流出高調(當該年年度中合計)

年次	貸出高		受質高		流出高	
	口數	金額	口數	金額	口數	金額

太正十三年度	一三七、一四七	八六七、五五八	一〇七、四〇二	
太正十四年度	一四二、七〇四	八七九、一三五	一一〇、一五〇	
	一二八、一六五	七五七、〇八二	二〇、三〇八	
	一二一、九九八	七四一、五六二	二〇、二三四	

(五) 金錢貸付業

金錢貸付業ヲ以テ本業トスル者ハ數多カラズ且之ヲ察ニスル事能ハザルモ當稅務署ノ調査ニ依ル當業者數十二年度ニ百十一名十四年度ニ百六十九名ヲ數フ尤モ課稅ノ便誼上質屋業者モ金錢貸付業トシテ含マルヽガ故ニ前章質屋ヲ控除スレバ即チ十三年度中八十五名、十四年度中百四十二名ノ金錢貸付業者ガ本市ニ存スル所ナル而シテ兩年度貸付通計總額ハ十三年度中總額八六七、五五八圓十四年度中總額九九七、六八〇圓ヲ算シ此等營業者ハ主トシテ副業的ノ營業ニ從事スル者ナリ

二 將來ノ金融改善方針

產業ニ於ケル金融ノ地位ヲ以テ人體ノ血管ニ比シ從テ金融機關ハ產業界ノ心臟ニ該當ストナスハ近世資本制經濟ノ特質ヲ道破セルモノト謂フヘク乃チ其機關ノ健否如何ハ產業振否ノ「バロメーター」タリ從テ金融機關ノ改善ハ重要問題ニシテ其本質的ノ方面等ニ亘リ廣ク深ク考察スル所ナカルベカラス本市ニ於ケル金融ノ沿革ト現狀トハ既ニ現況調查ノ部ニ述タルカ如シ本市ノ金融機關カ發生的ニモ環境的ニモ特異ノ事情ニ制セラレタルハ既述ノ通リニシテ其結果トシテ過去ニ於テ多年間資金ノ需給圓滑ナルヲ得ス金利亦比較的高率ニシテ此不備欠陷ヨリ勢ヒ賴母子講ノ如キ變体的金融方法ノ一時旺盛流行ヲ見ルニ至リシハ蓋シ止ムヲ得サルニ出デタリト認ムヘキカ當時支店銀行ノ外見ルベキ金融機關ナク新興ノ都市資金ノ需要急ナルニ拘ラス支店銀行ハ預金ノ吸收ニハ全幅ノ努力ヲ拂フモ貸出ニ對シテハ

(1) 本店銀行ノ如ク其ノ地方ノ金融機關ヲ以テ終始スヘキ使命感ナク且ツ本店銀行程ノ自由ナル立場ヲ有セサリシコト

(2) 當時市民ノ資產ガ之ヲ資金化スルニ適スル程度ノモノナラザリシコト卽チ量的ニ貧弱ナリシノミナラズ質的ニ銀行放資ノ對象トナリ得サルモノナリシ等ヲ指摘ツ得ベシ

(一) 金融機關自体ノ改善

主トシテ銀行ニツキ其ノ金融機關トシテ活動上ノ改善ヲ置クニ過グルノ憾アリ勿論此ノ點ハ本市ノミニ限ルニ非ラサルモ蓄積資產ノ少ナキ本市ニ於テハ比較的其機關ノ便宜ヲ受クル度合少キハ云フ迄モナシ商工業ノ活動ハ必スシモ所有資產ノ大小ニ關セサルコト多ク一定ノ資本ノ活動量ハ人ニ依ツテ著シク異ル故ニ信用測定上其資本ノ活動量ヲ目標トセラレンコトハ最モ望マシキ事ナリ然レトモ有形ニ存スルモノハ的確ニ測ルニ易ク無形ノ活動量ハ調查捕促スルニ困難ナリ加之變動少ナ有形資產ヲ目標トシテ危險ヲ避ケントスルハ銀行業ノ性質上已ムヲ得サルベキモ茲ニ熱心ト努力トヲ拂ヒ調查ノ方法其ノ宣シキヲ得テ新生面ヲ出スヲ得ハ本市ノ金融界ハ少カラズ其ノ効果ヲ齊ス可シト信ス近時各銀行ニ於テ新知識ヲ採用シ調查係ヲ置キ以テ此種ノ事ニ當ラシメツヽアルモ尙一層ノ活動ヲ望ム所以ナリ

(二) 銀行利用者側ニ關シテノ改善

商業教育其ノ他取引ノ進步ニ伴フベキハ當然ナルモ從來及ビ現下ノ企業經營ニハ余リニ秘密ト不信義多ク爲ニ前項ノ側定ハ極メテ不便ナル狀勢ニ置カル、ヲ見ル卽チ或ハ甚シク資力ヲ誇張シ甚タシキハ虛構ノ事ヲ以テ一時ヲ糊塗セントスルノ風アルハ遺憾トスル所ナリ從テ側定ノ正確ヲ期シ難ク自然ニ遲疑逡巡行ハレ時トシテハ甲乙其ノ所ヲ誤ルコトナシトセズ將來少クトモ金融業者ニ對シテハ開放的ナラシメ進ンデ「バランスシート」ヲ提出スル等側定上ノ効果ヲ擧ケ以テ流通ヲ盛ナラシムルヲ要ス

若シ夫レ本市金融ノ最大難關ハ小賣物業ヲ主トセル本市ニ在リテ其賣掛金ノ資金化ニ何等ノ方法ナキコト之ナリ而カモ營業者ニシテ如上ノ精神ヲ體得シ常ニ銀行業者ニ內容ヲ明示シテ信義誠實ニ取引ヲ行フニ於テハ此最大難關ト雖モ新生面拓カレザルニアラサルベシ、米國ニ於テハ全國ニ於ケル小賣業賣掛金ノ銀行割引制度ノ如キ好參考ト謂フヘク而カモ今日ノ如ク期日ノ觀念乏シク不渡手形多キハ本市經濟界全体ノ爲メ斷々乎トシテ改善セザルベカラザルナリ

(三) 企業ノ指導上ノ改善

前ニ項ノ改善ニハ極力企業當事者ト銀行ト親ムノ外ナシ近代ノ銀行ハ所謂金融相談部ノ役目ヲモ果スヘキ必要ニ迫ラレ居レリ現ニ新知識ヲ有スルモノヲ執務者ニ加ヘ漸次其ノ傾向ヲ帶ヒ來レルカ如キ觀アルモ當市ノ如キ進度幼雅ナル都市ニ於テハ此點ニ關シ一層ノ工夫ヲ要ス

(四) 手形交換所ノ設置

本市ニ來手形タ交換所ノ設立ナキハ本市ノ金融上一大欠陷タリ信用經濟ノ促進ト確立ノタメ之カ設立ノ速カナランコトヲ本市銀行者ニ望マサルヲ得ス而シテ他ノ都市ニ於ケルカ如ク不渡手形ヲ處分シ手形取引ノ普及ト其合理的發達ヲ促進スルハ急務ナリ

第三 倉庫

一、現況

本市ニ於ケル營業倉庫ハ松尾倉庫及佐世保倉庫ノ二アルノミニシテ棟數二十建坪數六百二十九坪ナリ

大正十四年中ニ於ケル証券發行高六百四十九枚、收入金八千百六十九圓入庫貨物總價格百七十五萬五千五百九十三圓ニシテ其ノ主ナルオノハ米、麥、豆類、砂糖、酒類、肥料、油脂等ナリ

今同年中ニ於ケル各品種別入出庫貨物ノ狀態ヲ示セバ左ノ如シ

品種別入出庫貨物調

品種別	松尾倉庫 入庫高	松尾倉庫 出庫高	松尾倉庫 年末現在高	佐世保倉庫 入庫高	佐世保倉庫 出庫高	佐世保倉庫 年末現在高
內國米	九二一、五五八円	九四九、七四一円	六五、六五一円	一三、一八七円	一〇、〇五八円	四、七八三円
麥類	四一、五八六	四五、四八〇	四、一四九	一一、五四九	一四、四三六	二、五一三
豆類	八三、六一九	七五、〇〇六	一四、六九六	四二、三二八	四二、六六五	四、一二七
麥粉					一、〇八〇	
砂糖	一五一、四五七	一五一、九〇四	一一、二七六	八四、三六五	七九、六七九	一二、七五〇
酒類				二一二、一七五	二一三、〇七五	三〇、〇四七
乾物類				三、一二四	三、一二四	
素麵	一七、五一二	一七、七六〇	三、六八九	九、八二四	九、九一四	
其ノ他ノ飯食物				八、五五三	八、九〇五	二、一六五
蠟及油類	五三、七二三	四八、九五二	二七、八七四			
菜種及塗器料				八二九	一、六五七	一五七
諸器械				一、五〇〇	一、二〇〇	二、八〇〇
木炭				一、二二八	九〇二	三二六
木材板類				三、〇四四	二、三九四	六五〇
肥料	六二、九六四	五九、四九四	一〇、七三六			
其他	二四、三七九	二二、二一四	一三、三三〇	七、〇八九	六、四〇二	七、六五一
計	一、三五六、七九八	一、三七〇、五五一	一五一、四〇一	三九八、七九五	三九五、七九一	六八、〇五九
大正十三年	一、三五四、〇九六	一、三四四、二六〇	一六五、一五四	三五二、七七四	三六九、〇九三	六五、〇五五

二、將來ノ施設改善方針

倉庫ガ商業發達上缺クベカラザル要素ノ一ナルコトハ賢言ヲ要セサルトコロナルカ殊ニ經費ノ節減金融ノ流通價格ノ維持危險ノ擔保等一般商取引ニ興フル其ノ便益ハ實ニ多大ナルモノアリ依テ之ガ改善發達ヲ圖ルハ最モ適切ナル事項ナリトス

(一) 施設上ノ改善

(イ) 位置

位置ノ便否ハ直ニ倉康業ノ繁衰ニ關係スルヲ以テ之ガ建設ニ際シテ將來ノ發展ヲ豫測シ得ラルヽ敷地ヲ選定セサルベカラザルハ勿論ニシテ特種ノ倉庫ヲ除キ一般普通倉庫ニ於テハ貨物ノ輸送聯絡入出ニ至便ナル水陸交通ノ要

衡ヲ選ブヲ要スベシ之ハ啻ニ運賃諸掛ヲ低減シ得ルノミナラズ保税倉庫ヲ兼營スルモノニ如キハ輸入手續其ノ他多大ナル利便アルヲ以テナリ

（ロ）構造

構造ノ如何モ位置同樣重要ナル問題ナリ倉庫ノ種別ニ依リテ其ノ建築法ニモ各々特種ノ裝置ヲ要スルハ勿論ナリト雖モ一般ニ構内運搬施設對震對火裝置換氣採光及盜難惡疫豫防設備等ニ對シテハ特ニ考慮ヲ拂ヒ以テ保管ノ安全ヲ期スルニ努メサルヘカラス而シテ本市ノ倉庫ハ末ダ概シテ舊式ナル土藏ナルモ將來ハ煉瓦、石造、鉄筋コンクリート建等新式洋風ノ建築モナシ他市ノ倉庫ニ遜色ナカラシメサルヘカラス

（二）營業上ノ改善

（イ）證券發行上ノ改善

(1) 倉荷證券ノ發行

倉庫証券ノ發行ニ關シ我國ノ改正商法ハ二枚又ハ一枚何レドモ寄託者ノ請求ニ應シテ發行スヘキ旨規定シ居ルガ倉庫聯合會ニ於テハ一枚主義採用ニ協定シ現在各都市ヲ通ジ殆ド一枚主義ニ改メ居ルニ拘ラス本市ノミハ依然二枚主義ナリ而シテ二枚主義ハ一見其ノ運用極メテ巧妙ナルガ如キモ之ガ運用上弊害アリ且又法律關係比較的複雜ナル欠點等アル以テ將來本市ニ於テモ簡便ナル一枚主義ニ改ムルヲ要スベシ

(2) 火災保險ニ關スル改善

(A) 倉庫營業者カ寄託主ト結譯シテ實價以上ノ火災保險ヲ附シタルタメニ證券ノ信用ヲ失墜シ金融ノ圓滑ヲ阻害スルガ如キ例ナシトセス依テ保險ハ必ス實價以下ニ契約シ以テ金融ノ安全ヲ期セサルヘカラス

(B) 倉庫營業者ハ自ラ被保險者トナリテ恰モ自己ノ貨物ナルカ如ク保險ニ附スルモノ多シ尤モ之ニテモ著シキ又都合ハ無カルヘキモ更ニ寄託主ノ便宜ヲ圖リ倉庫ハ寄託主ノ委任ニ依リテ保險ニ附シ証券面ニモ其旨記載シ置キ損害塡補ノ場合ハ寄託者若クハ証券受持人ヨリ直接ニ保險會社ニ請求シ得ルカ如ク爲シ置クヲ可トス

(C.) 更ニ又倉庫營業者ハ自己ノ特定火災保險會社以外ノ會社ニ絶体ニ保險ニ附セサルヲ通例トスルモ之ハ何レノ會社タルヲ問ハス寄託主ノ希望ニ應ジ契約スルコトニ改ムルノ要アルヘシ

（ロ）保管料諸掛ノ低減

保管料及諸掛ノ高率ハ啻ニ寄託貸物ノ價格ヲ引上ゲ商取引上不利ナルノミナラス延イテハ倉庫業ノ發達ニモ影響スルヲ以テ可成之ガ低下ヲ圖ルノ要アルモノト信ス

（三）其ノ他ノ事項

（イ）倉庫ノ賃貸及出保管

倉庫ノ賃貸及出保管ハ種々弊害ナキニアラザレトモ其ノ運用宜敷ヲ得バ商人及倉庫業者ノ利便尠少ナラザルモノアリ依テ將來之ニ關シ相當研究考慮ノ要アルモノトス

（ロ）佐賀米穀取引所ノ受渡指定

佐賀米穀取引所ノ受渡指定ヲ受ケレバ本市商取引上多大ノ利便ヲ蒙ルヘキヲ以テ之カ實現ヲ期スルノ要アルモノトス

第四　公設市場

一、現況

歐州大戰勃發以來諸物價ノ騰貴ハ著シク市民ノ生活費ヲ膨脹セシメ一面人口ノ增加ニ伴ヒ米穀魚菜其ノ他日用品ノ需要激增スルニ至リ此ノ間ニ處シテ新鮮優良正確ヲ旨トスル日用食料品ヲ最モ圓滑ニ一般民衆ニ供給シ市民生活ノ安定ニ努メ傍ラ市價調節ニ資スヘク大正七年之カ開設ヲ企圖シ翌八年三月市内松浦町及港町河岸地ニ半永久的ノ建物三棟ヲ建設シ内二棟ヲ卸市場トシ從來同地域ニ於テ問屋業ヲ營ミシ者ヲ委託賣買業者ニ指定シテ其ノ業務ヲ取扱ハシメ他ノ一棟ヲ小賣市場トシテ小賣商ヲ集メ日用必需品ヲ市吏員監督ノ下ニ販賣セシムルヿヽシタルガ市民之ヲ利用スルモノ日ヲ追テ增加シ其ノ成績頗ル良好ニシテ小賣市場ハ勿論場所狹隘ヲ告ゲルニ至リシヲ以

テ同年十二月一棟同十一年七月更ニ一棟ヲ建築シ都合三棟ト爲シタルモ此ノ利便享クル地域ハ一部ニ局限セラレ全市民ノ要求ニ應スル能ハザルヲ以テ更ニ大正十一年度ニ於テ宮田町白南風町及ビ太田町ノ三ケ月ニ各一棟ヅヽ小賣市場ノ建設ヲ企テ宮田町市場ハ大正十二年六月白南風町市場ハ同年十月太田町市場ハ大正十三年六月竣工開場セリ

公設市場表

市場名稱	卸小賣ノ別	敷地坪數	敷地購入費	建物坪數	建設費	店舗數	開場年月日
中央卸市場	卸	五八、〇〇坪	市有地	五七、八一坪	三、一九〇円	一	大正八年三月
同　下ノ棟	同	六八、〇〇		六四、五〇	三、五六一	六	同
同　上ノ棟	同						
中央小賣市場	小賣	四八、〇		四七、五〇	三、一六二	二三	同
同　下ノ棟	同	五七、五〇		五七、三〇	五、〇一五	八	大正九年一月
同　中ノ棟	同						
同　上ノ棟	同	五一、〇〇		五〇、〇〇	五、四九三	八	大正十一年七
宮田町市場	同	七五、四六		五五、二五	五、四七四	五	大正十二年六月
白南風町市場	同	九七、八二		六三、八四	五、八四一	六	同　年　十月
太田町市場	同	一〇二、二六		八五、九四	六、〇三〇	二	大正十三年六月

(二) 監理ノ大要

(イ) 市場係員

公設市場監理ハ社會勸業課ノ主管ニ屬シ中央小賣市場事務所ニ事員三名ヲ駐在セシメ正札ノ勵行商人ノ風紀衛生賣上ノ屆出其他一般ノ取締ニ任セシメ右ノ內甲一人ハ卸市場ヲ監督シ小賣市場全体ヲ總理シ乙一人ハ各小賣市場ヲ巡回監督シ丙一人ハ市場附屬地ノ第二種使用料徴收ヲ担當セシメ居レリ

(ロ) 販賣人選定方法

販賣人ノ如何ハ市場ノ盛衰存亡ニ直接甚大ノ關係アルヲ以テ其ノ選定ニ付テハ細心ノ注意ヲ拂ヒ斯業ニ對スル相當ノ經驗ヲ有シ且ツ信用性行善良ニシテ市場經營ニ最モ理解アル努力家ト認ムル者ヲ撰ビ市長之ヲ指定スル方法ヲ採リ居レリ

(ハ) 使用料徴收方法

開設當初ハ卸市場ニ於ケル委託賣買業者ヲ第一種トシ小賣市場ニ於ケル出店人並ニ附屬地使用者ヲ第二種トシ第一種ハ坪當リ月何程ト定メ毎月一日ニ納付セシメ第二種ハ一店舗一日何程ト定メ日日徴收シ來シモ大正十四年制度ヲ改メ小賣市場出店人モ卸市場同樣第一種ニ引直シ第二種ハ附屬地使用者ノミトシ第一種中委託賣買業者ノ分ハ之ヲ從前通リノ徴收方法ニ依リ徴收シ小賣業者ノ分ハ納稅組合ヲ組織セシメ使用料ニ諸稅ヲモ加ヘ之ヲ日割ニシ日々徴收ノ上庶民金庫ニ預金シ置キ期日ニ完納セシシムル方法ヲ採リタル處成績頗ル良好ナリ尙ホ附屬地使用者ハ繼續使用者ニ非ザルヲ以テ從前通日々使用券ヲ交付シ之ヲ徴收シツヽアリ今大正十三年同十四年中ニ於ケル使用料徴收高ヲ示セバ左ノ如シ

公設市場使用料徴收高表

年別	市場別	中央小賣市場	宮田町市場	太田町市場	白南風町市場	中央卸市場	合計
大正十三年		五九〇、六五〇	七八六、九〇〇	一一五四、三五〇	一四五〇、九〇〇	三一〇八、六〇〇	一一五〇、七七〇〇
大正十四年		五六五、二七〇	八一五、九四〇	一〇三五、〇六〇	一二六六、五九〇	三一〇八、六〇〇	一〇九七、八九〇〇
合計		一一五九、六五〇	一六〇二、八四〇	二一八九	二七一七、四九〇	四四一七、二〇〇	二二四八、六〇〇

(ニ) 物價調査

物價調査ハ販賣價格決定上必要缺クベカラザルモノナルヲ以テ本市場ニ於テモ是デ調査ニハ相當注意ヲ拂ヒ市營魚市場並ニ青果卸市場ノ毎朝ノ出來値ヲ調査スルノミナラズ月數回ニ亘リ市內卸相場及一般小賣相場ヲ調査シ小賣市場販賣價格決定ノ基準タラシメ月二回物價調査表ヲ作成シツヽアリ

(ホ) 販賣價格決定方法

魚類青果類ノ價格ハ魚市場並ニ青果卸市場ノ同日出來値ヲ基準トシ其他ノ日用品ノ價格ハ市内ニ於ケル卸相場ヲ基準トシ之ニ相當ノ收益率ヲ加算シ尚ホ市内一般小賣相場ヲモ參酌シ市價ヨリ成ベク高カラザル範圍内ニ於テ決定シツヽアリ

（ヘ）宣傳方法

市場ノ宣傳ハ一般市民ニ市場使命ヲ徹底セシメ利用者ノ增加ヲ圖ル上ニ於テ心要缺クベカテザルモノナルヲ以テ之ガ宣傳ニハ常ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ市内要所ニ掲示板ヲ植立シ市場所在地ヲ指示シ主要物價ヲ掲示スルノミナラス本市發行ノ新聞社ニ依賴シ毎日販賣價格ヲ新聞ニ掲載シ當日ノ日用品價格ヲ一般市民ニ周知セシメ且ツ又中元年末ノ賣出ニ際シテハ夫々宣傳文ヲ印刷シテ市内ニ普ク配付シ顧容ノ吸收ニ努メツヽアリ

（三）使用狀況

（イ）利用者ノ階級

市場開設ノ動機ガ大戰當時ノ物價騰貴ニ因ヲ發シタル關係上其ノ當初ハ比較的中以下ノ階級ニ利用サレシ觀アリシモ爾來市民ノ自覺ニ伴ヒ現在ニ於テハ公設市場ハ單ナル救濟的施設ニ非ズシテ產業的施設トシテ一般日用品ノ需給ヲ圓滑ナラシムルト共ニ物價ノ調節ヲ圖リ且ツ小賣營業ノ模範タルベキ商業機關タルコト漸次市民ノ腦裡ニ徹底シタル詰果今ヤ之ヲ利用ズルモノ全階級全市民ニ及ビツヽアリ

（ロ）市場賣上高

本市市場ハ開設以來經營其ノ宣シキヲ得タルト一面市民ノ市場ノ使命ヲ好ク了解シタル詰果利用者日ニ月ニ增加シ大正八年開設ノ初年ニ於テハ僅々三十萬圓内外ノ賣上ナリシガ年々躍進的ニ增加シ大正十年七十餘萬圓大正十四年ニハ百萬圓ニ達スルノ盛況ヲ呈セリ今大正十三年同十四年中ニ於ケル賣上高ヲ示セバ左ノ如シ

卸市場賣上高表

月別	年別	大正十四年			大正十三年		
種別		果實	蔬菜	合計	果實	蔬菜	合計
一月		一四、四二四円	〇〇	一〇、一三八円	〇〇	二四、五六二円	〇〇
二月		九、五八一	〇〇	八、九四六	〇〇	一八、五二七	〇〇
三月		一五、五八五	〇〇	九、〇三六	〇〇	二四、六二一	〇〇
四月		一三、八八七	五〇	八、一二四	五〇	二二、〇一二	〇〇
五月		一〇、四一四	三〇	一一、一〇〇	七〇	二一、五一五	〇〇
六月		一一、八八四	〇〇	一四、〇三一	〇〇	二五、九一九	〇〇
七月		二四、八四三	五五	九、七六六	四五	三四、六一〇	〇〇
八月		四二、三六〇	二〇	八、一八二	八〇	五〇、五四三	〇〇
九月		二二、四〇八	五〇	七、一九六	五〇	二九、六〇五	〇〇
十月		二四、五〇二	〇〇	一二、五八七	〇〇	三七、〇八九	〇〇
十一月		二六、四六二	六〇	一二、九七六	四〇	三九、四三九	〇〇
十二月		五〇、八七五	〇〇	二七、四〇〇	〇〇	七八、二七五	〇〇
合計		二六七、二三一	六五	一三九、四八五	三五	四〇六、七一七	〇〇

月別	年別	大正十三年			大正十四年		
種別		果實	蔬菜	合計	果實	蔬菜	合計
一月		一六、八四二円	〇〇	一四、五四三円	〇〇	三一、三八五円	〇〇
二月		一〇、五五四	〇〇	九、二〇八	〇〇	一九、七六二	〇〇
三月		一二、三六八	〇〇	九、八一一	〇〇	二三、一七七	〇〇
四月		一一、九三〇	〇〇	一〇、四五八	〇〇	二二、三八八	〇〇
五月		一一、八七九	〇〇	一一、九三六	七八	二三、八一五	七八
六月		一二、四五〇	四六	一六、七三六	〇〇	二九、一八六	四六
七月		二三、三三八	二五	一三、六六四	七五	三七、〇〇三	〇〇
八月		三六、四三七	七〇	一〇、六七一	三〇	四七、一〇九	〇〇
九月		二〇、五七一	二三	七、七五五	七七	二八、三二七	〇〇
十月		三〇、一七三	六四	一二、〇二九	六六	四二、二〇三	三〇
十一月		二〇、六一二	〇〇	一一、五六三	二〇	三二、一七五	二〇
十二月		四三、三五四	三八	三四、五八一	四二	七七、九三五	八〇
合計		二五一、五〇八	六六	一六二、九五八	八八	四一四、四六七	五四

小賣市場賣上高表

種別	年別	大正十四年				大正十三年			
市場別		中央市場	宮田町市場	太田町市場	白南風町市場	中央市場	宮田町市場	太田町市場	白南風町市場	合計
米		二七、八四六円	四、一五一円	三、二五五円	一一、一四四円	三二、二三〇円	三、五七七円	一一、五二九円	一五、九八〇円	六三、三一六円
酒		九五、二八〇	八、〇一一	四、一三三	六、〇三五	一二二、二八五	五、〇九九	三、三八一	七、五三〇	一三八、二九五
魚		一二八、三一三	四、二六二	五、五二七	七、五八四	一〇八、〇三九	六、五六〇	四、八八一	七、〇八一	一二六、五六一
蔬		二三、九一二	一、七七六	五、一〇一	五、一〇六	二六、七四二	二、四四八	三、九六九	四、八二五	三七、九八四
味噌		六〇、八九〇	四二三	二、五二二	一、二三一	四二、六三八	三四九	二、三八九	一、五九七	四六、九七三
漬物		二七、四二五	二、九一七	四、三三二	三、〇二七	二五、五〇四	三、九六六	二、六〇七	三、〇一五	三五、〇九二

雜食乾物	一〇九、三八七	三、三〇三	六、一三二	七、八三二	一二六、六五四	一一三、一四六	三、二二七	一一、〇九四	八、七九四	一三六、二六二
雜貨其他	四七三、〇五三	二四、八四二	三一、〇〇二	四一、九五九	五七〇、八五六	四七〇、五八四	二五、二二六	三九、八五〇	四八、八二三	五八四、四八二
合計										

(四) 公設市場ノ影響

本市市場ハ開設以來宜ク指定商人ヲ監督シ新優良ナル日用品ヲ正確ナル量目公正ナル價格ヲ以テ市民ニ供給シ小賣營業ノ模範ヲ示シタル詰果市中ノ日用品取引ハ餘程改善セラレ價格ノ如キモ漸次市場價格ニ接近シツヽアリ

二、將來ノ方針

(一) 設備ノ改善

(イ) 卸市場ノ改善

現在卸市場ハ位置不適當ニシテ船車ノ連絡惡シク引荷送荷上不利ナルノミナラズ場所狹隘ニシテ取引上不便尠カラザルヲ以テ將來ハ之ガ改善ニ關シ相當研究ヲ要スルモノトス

(ロ) 倉庫ノ建設

貯藏設備ナキタメ多量取引上不便尠カラザルヲ以テ倉庫一棟ヲ建設スルノ必要アリ將來適當ノ機會ニ之ヲ實行セムトス

(二) 經營上ノ改善

(イ) 物價調査ノ勵行

物價調査ヲ勵行シ公正ナル市場販賣價格ヲ制定公表シ市中小賣商ノ標準價格タラシムベク諸種ノ方法ニ依リ之ガ目的達成ニ努メムトス

(ロ) 商品仕入上ノ施設

指定商人ノ商品仕入方ニ對シ適切ナル施設ヲ講ゼムトス

1 金融機關(信用組合ノ如キ)ヲ設ケ金融ノ便ヲ圖ルコト

2 特種商品ハ共同講入等ノ方法ニ依リ可成之ヲ原產地ヨリ直接仕入ヲナスコト

3 其ノ他一般取引上ノ斡旋ヲナスコト

(ハ) 宣傳上施設

諸般ノ施設ニ因リ宣傳ヲ盛ニシ一般市民ノ市場利用觀念普及ニ努メムトス

(二) 衞生上ノ施設

衞生施設ニ意ヲ注ギ清潔法ヲ勵行シ又食料品種檢ヲ嚴ニシ顧客ニ不快ノ念ヲ抱カシメザラムコトニ努メムトス

(ホ) 其ノ他ノ施設

佐世保川ヲ浚渫シ舟航ノ便ヲ圖ルベク諸般ノ施設ニ付考慮ヲ要スルモノトス

第五、各種實業組合

一、現況

本市ニ於ケル各種組合總數ハ六十八ニシテ産業組合一〇、重要物産同業組合一、同準則組合五、酒造組合一、茶業組合一、漁業組合二、任意組合四十八ナリ而カシテ加入總組合員數ハ八千九百九十五人ニシテ産業組合五千五百二十六人重要物産同業組合三百二人同準則組合三百七人酒造組合十一人茶業組合五十人漁業組合百五十八人任意組合二千六百四十一人ナリ

一、産業組合

(一)沿革

産業組合ハ明治三十三年法律第三十四號ノ産業組合法ノ規定ニ基キ設立サレタルモノニシテ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スルノ目的ニ外ナラズ本市ニ於ケル産業組合ハ明治三十八年三月共濟會信用購買組合ノ設立ヲ以テ現存セル組合ハ大正五年十月ノ設立ニ係ル庶民金庫（當時實業會信用組合）ヲ最初トシ次テ大正九年九月屎尿購買組合設立サレタリ而カシテ大正十一年四月縣ニ於テ産業組合指導奬勵計畫樹立サレタルヲ以テ本市ニ於テモ其ノ指示ニ基キ之ガ設立ノ奬勵指導ヲナシタルトコロ同年十月佐世保高等女學校購買組合ノ設立ヲ見之ニ次ギ大正十二年二月蒲鉾業購買組合同年九月製麵業購買販賣組合同年十一月軍港購買組合設立サレ更ニ大正十五年三月ニハ織物購買販賣利用組合ノ設立ヲ見タリ

（大正十五年度末現在）

産業組合一覽表

組合名稱	組合員數	出資口數	出資總額	拂込濟出資額	組合長名

佐世保屎尿購買組合	二、五五八	人						
佐世保庶民金庫	八七三							
佐世保高等女學校購買組合	八三八							
佐世保蒲鉾業購買組合	九							
佐世保製麺業購買販賣組合	二四							
佐世保軍港購買組合	五七〇							
佐世保織物購買販賣利用組合	六三							
日宇村信用購買組合	一三六							
福石信用購買組合	一九二							
佐世村信用購買組合	二六三							
計	五、五二六		二、九〇七	四、二五〇	八七八	八〇	二七〇	六一二
			二、九〇七	一二、七五〇	二六三	九二三	二、一六〇	六一二
			四、五八〇	五、三八〇	三五〇	一三七	二五六	二八七
			一四八、三三五	一〇、一〇七				

備考　昭和二年四月日宇佐世兩村合併ニ依リ信用組合二、信用購買組合一、増加シ計三組合ノ増加ヲ見タリ

(二)　事業ノ概況

本市ニ於ケル産業組合ノ事業遂行狀況ヲ見ルニ中ニハ成績顯著ナルモノナキニシモ非ラザルモ概シテ成績不良ナリト云ハザルヲ得ズ即チ數年前ヨリ事業休止ノ狀態ニアルモノ或ハ最近休止セルモノ等數組合ニ及ブ而シテ之等不良組合ハ殆ド生産組合ニシテ消費組合ハ比較的良好ナリ今事業不振ノ原因ヲ探究スルニ多種多樣ニ亘ルモ其ノ主ナルモノヲ列擧スレバ左ノ如シ

イ、組合ノ目的ヲ理解セザルコト
ロ、組合員ガ組合ノ利益ヨリモ自己ノ利益ニ急ナルコト
ハ、組合員ガ眼前ノ利欲ニ迷フ傾向アルコト
ニ、組合員間ノ意志疏通セザルコト
ホ、組合幹部ニ熱心ノ度足ラザルコト
ヘ、組合幹部ノ間ニ反目軋轢生ズルコト
ト、事業資金不充分ナルコト

二、同業組合同準則組合

(一)　沿革

同業組合ハ明治三十三年法律第三十五號重要物産同業組合法ノ規定ニ基キ設立サレタルモノニシテ重要物産ノ生産製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲スモノガ共同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ增進セントスル目的ノ下ニ設ケラレタルモノナルガ本市ニ於テハ明治四十二年二月ノ設立ニ係ル米穀同業組合一ッアルノミ併シ之ガ準則組合トシテ明治四十一年一月醬油業組合大正二年九月竹細工組合、大正六年二月左官業組合大正八年七月石工職組合更ニ大正十四年七月ニハ木炭組合ノ設立ヲ見タリ尚此ノ外ニ特種ノ目的ノ下ニ設立サレタルモノ三組合アリ即チ明治三十六年三月設立ノ佐世保浦漁業組合、同三十八年四月設立ノ茶業組合、同三十九年四月ニ設立サレタル酒造組合ナリ

同業組合同準則組合一覽表　（大正十五年度末現在）

組合名稱	設立年月日	組合員數	經費	組合長名
佐世保米穀商同業組合	明治四十二年二月日	三〇三人	二、四六六円	田中九善八

組合名稱	設立年月日	組合員數	經費	組合長名
佐世保市東彼杵郡醬油業組合	明治四十一年一月　日	一一〇	一、三〇	古賀政一
佐世保竹細工組合	大正二年九月六日	四六	二九六	福田甚助
佐世保市左官業組合	大正六年二月三日	九三	三九三	太田喜三郎
佐世保石工職組合	大正八年七月十八日	一一三	三九四	田中音次郎
佐世保市木炭組合	大正十四年七月一日	四六	八一六	川口俊壽
佐世保浦漁業組合	明治三十六年三月　日	三三	二、二三〇	壇浦庄吉
日宇漁業組合	明治三十六年　月　日	二六	二、三九三	豊住兵五郎
佐世保市茶業組合	明治三十八年四月十一日	五〇	二三一	朝日龜吉
佐世保酒造組合	明治三十九年四月　日	二	五二〇	富田等平
計		八一八	九、八六五	

備考　昭和二年四月日宇佐世兩村合併ニ依リ漁業組合一增加セリ

(二)　事業ノ概況

本市ニ於ケル同業組合並準則組合ハ產業組合ニ比シ稍々成績良好ニシテ現在事業休止ノ狀態ニアルガ如キモノハ一モナク夫々組合事業ノ改善發達ニ努メツヽアリ即チ生產品並ニ販賣品ノ檢查ヲ勵行シ販路ヲ擴張シ組合員相互ノ福利增進ヲ圖ル等其ノ成績相當見ルベキモノアリ然レ共今後事業遂行上尙改善ノ余地ナシトセズ

三、任意組合

本市ニ於ケル各種營業者ガ其ノ業態別ニ任意ノ申合ニ依リ組合ヲ組織セルモノハ左ノ如シ

任意組合一覽表

（大正十五年度末現在）

組合名稱	設立年月日	組合員數	經費	組合長名
佐世保市勝富町貸座敷業組合	明治二十六年七月　日	一九	—	七田丈太郎
仝質屋業組合	明治二十八年九月一日	三〇	—	原口德太郎
仝湯屋組合	明治二十九年十一月　日	五八	八六〇	山口莞
仝酒類卸商組合	明治三十一年　月　日	二一	一、二六〇	染川新太郎
佐世保車夫組合	明治三十二年十月　日	二七	—	東梅太郎
仝理髮業組合	明治三十七年三月　日	八六	七三	山田淺吉
仝陶磁器商組合	明治三十九年九月　日	一五	一〇〇	今村市二
仝藥種商組合	明治三十九年十月十六日	六五	四五〇	千々岩武彥
仝海軍衣料品御用達商組合	明治四十一年三月廿五日	三〇	一、二〇〇	中村七平
仝海軍用達商組合	明治三十年　月　日	一五〇	一、八〇〇	當番幹事ニテ一定セズ
仝呉服商組合	明治四十一年　月　日	三〇	四八六	山田庄助
仝旅館業組合	明治四十二年　月　日	九三	—	川副兵市
仝花園町貸座敷業組合	明治四十三年二月一日	五五	二、一二六	行村央

組合名稱	設立年月日	組合員數	經費	組合長名
仝砂糖商組合	明治四十五年　月　日	七	二一六	當番幹事ニテ一定セズ
仝銀行組合	大正元年十月十六日	二	四四	仝
仝料理屋業組合　舊	大正二年四月　日	二八	一	小嶺貫一郎
仝　新	大正二年四月　日	六三	一	田崎巳之吉
仝飲食店組合　甲	大正三年六月　日	八四	一	折原壽雄
仝飲食店組合　乙	大正三年六月　日	二七三	一	中溝豊次郎
仝洋品雜貨商組合	大正四年九月　日	二六	一〇〇	中田清太郎
仝洋服商組合	大正五年一月　日	一七	二〇四	佐保畢雄
仝仕立物職組合	大正六年五月十四日	二〇	五〇	濱崎篤助
仝印刷師組合	大正六年　月　日	一四	八四	原卯一
仝乾物商組合	大正八年六月　日	七	一	的野忠次郎
仝自轉車商組合	大正八年十二月廿日	一八	二一六	北村市二
仝履物商組合	大正九年　月　日	四五	二八三	力武豊吉
仝公設卸市場仲買組合	大正十年六月　日	七八	九三六	草野源一
仝文房具商組合	大正十一年　月　日	一一	一一〇	馬場寅太郎
仝集會所指定商組合	大正十一年九月　日	二二	五一六	當番幹事ニテ一定セズ
仝古物商組合	大正十二年一月七日	二九〇	六三〇	島田長吉
仝菓子商組合	大正十二年一月　日	三五	二六〇	池田松吉
仝荒物商組合	大正十三年一月　日	一五	七〇	河村與吉
仝疊業組合	大正十三年七月　日	三五	九一九	諸隈嘉七
仝金物商組合	大正十四年一月十八日	一三	九一	齋藤源一
仝時計貴金屬商組合	大正十四年一月　日	四二	一	岡本源一
仝古着商組合	大正十四年四月　日	一三	四五	井上傳
仝公設市場販賣業者組合	大正十四年七月廿一日	六二	三九七	福田要
仝海軍共濟組合開館御用商人組合八日會	大正十四年十月八日	四〇	一	古賀政一
仝牛乳搾收販賣業組合	大正十五年二月八日	一二	一	野村儀八
仝鎊工業組合	大正十五年二月　日	三〇	二〇〇	田中作次
仝化粧品小間物商組合	大正十五年九月　日	二四〇	一	菅井喜代松
仝清涼飲料水製造業組合	昭和二年三月　日	七	一	久部七郎
仝綿業組合	昭和二年　月　日	三八	一	小林儀助
仝木材商組合		一六	一	萩原清五郎
仝度量衡器販賣組合		一三	一	當番幹事ニテ一定セズ
仝洗濯業組合		一八	一	角田龜吉
仝魚市場仲買組合		二三	一	田中熊次郎
仝魚市場小仲買組合		八〇	一	横尾菊次
計		二、六四一	一	

之等任意組合ハ別段組合トシテノ事業ハ行フモノニアラズシテ同業者相互間ノ融和親睦ヲ計ル傍ラ販賣價格其ノ他營業上必要ナル申合ヲ爲スニ過ギズ

二、將來ノ方針

一、産業組合

(一) 組合設立上ノ指導奬勵

本市各種實業組合中産業組合ハ從來ノ例ヲ見ルニ之ガ設立ニ際シテハ實ニ熱心ナルモ設立後年月ヲ經ルニ從ヒ漸次設立當初ノ精神ヲ消失シ有名無實ノ狀態ニ陷リ遂ニハ解散命令ヲサエ受ケルニ致ルモノナシトセズ之ガ原因種々アリト雖モ概シテ現況ノ欄ニ列擧セシガ如シ故ニ組合設立ニ際シテハ大体縣ノ方針ニ基キ指導奬勵スルハ勿論ナルモ本市ノ狀況ヲ考慮シ左記事項ニ付キ特ニ注意ヲ要スベシ

(イ) 事業其ノ他ノ適否

設立セントスル組合事業ガ本市ニ適スルヤ否ヤ

適スルトセバ事業計劃等ニ粗漏ノ點ナキヤ否ヤヽヲ第一ニ調査シ

組合設立發起人ガ其ノ組合事業ニ對シ相當ノ理解ト經驗ヲ有シ事實熱心ナリヤ否ヤ

組合員ガ組合組織ニ衷心共鳴シ又相當理解ヲ有セルヤ否ヤ等ヲ詳細調査シ充分ナル成算ヲ得タル後初メテ設立セシムルコト

(ロ) 組織

組織ハ有限責任ヲ主トシ存立時期ハ二十年以上タラシムルコト

(ハ) 出資金

出資金ハ縣ノ方針ニ基キ一口ノ金額二十圓以上出資總額壹萬圓以上トシ拂込ノ方法ハ可成容易ニ拂込ミ得ル樣定メ以テ加入者ノ便ヲ計ラシムルコト

(ニ) 定款

組合定款ハ縣ニ於テ定メタル産業組合模範定疑ニ準ジ本市ノ事情ヲ考慮シテ作成セシムルコト

(二) 組合設立後ノ指導奬勵

設立後ト雖モ大体縣ノ方針ニ基キ指導奬勵スルハ勿論ナリト雖モ左記事項ニ付キ特ニ注意ヲ要スベシ

(イ) 役員交迭上ノ注意

産業組合ノ改善發達ハ其ノ主腦部ニ人ヲ得ルト否トニ係ルコト大ナルヲ以テ之ガ交迭ニ際シテハ細心ノ注意ヲ拂フベキコト

(ロ) 資金ノ充實

出資金ハ確實ニ拂込マシムルト共ニ縣聯合會等ヨリ融通ヲ受ケ常ニ資金ヲ豐富ナラシムルコト

(ハ) 經營者養成

毎年長崎市ニ於テ開設セラルベキ産業組合實務練習所ニハ可成多數練習生ヲ送リ優秀ナル經營者ノ養成ニ努ムルコト

(ニ) 監督方法

縣ト協力シ組合帳簿書類等ハ時々調査シ指導的監督ヲ行フベキコト

二、同業組合同準則組合

同業組合並同準則組合モ縣ノ方針ニ基キ指導奬勵スルハ勿論ナリ而シテ其ノ方針ハ産業組合ト大同小異ナリト雖モ左記事項ニ特ニ重キヲ置ク

(一) 事務上ノ指導奬勵

(イ) 役員ノ人選

組合ノ主腦者ニハ可成其ノ同業者中斯業ノ實情ニ精通シ且ツ公共的精神ニ富ム人格者ヲ選ビ組合ノ運用ヲ全カラシムルコト

(ロ) 事務ノ整理

豫算、決算、業務成績報告等ノ如キ縣ニ對スル提出書類其ノ他一般組合事務不整理勝ノ組合ナシトセズ之等組合ニ對シテハ常ニ指導的監督ヲ加ユ事務ノ整理進捗ヲ圖ルコト

(二) 事業上ノ指導奬勵

(イ) 物產ノ檢査

組合ヲシテ生產品又ハ販賣品ノ檢査ヲ勵行セシメ以テ粗製濫造ノ弊ヲ防止スルト共ニ優良品ノ正確販賣ニ努メシムルコト

(ロ) 共同購入共同出荷

共同購入等ニ依リ可成材料ヲ低廉ニ購入セシメ又之ガ製品ノ共同販賣共同出荷等ヲ行ハシメ組合員ノ利益增進ヲ圖ラシムルコト

(ハ) 其ノ他ノ事業

生產品ノ品評會等ヲ開催シ之ヲ一堂ニ陳列展覽シテ比較研究セシメ以テ品質ノ改善向上ヲ圖ヲシムルコト

三、任意組合

任意組合ハ現在組合トシテ別段ノ事業ヲ行ヒツヽアルモノナシト雖モ中ニハ多數組合員ヲ抱有シ基礎鞏固ニシテ

組合事業ヲ遂行セシムレバ相當成績ヲ擧ゲ得ベシト認メラレルモノアルヲ以テ之等組合ハ將來援助シテ同業組合又ハ同準則組合ニ引直シ認可ヲ受ケシムルノ必要アリト信ズ

第六、家庭副業

一、現況

本市ハ海軍及同工廠從業員ノ家族多數在住セル關係上副業ニ對スル餘剩勞力相當多キニ拘ラズ材料其他ニ關シ自然的恩惠ニ與カルコト薄キ爲メ副業ハ從來甚ダ振ハズ其ノ製品トシテモ何等見ルベキモノナカリキ然ルニ市當局ハ絕ヘズ之ガ調査研究ヲ爲シ將來有望ナルモノニ對シテハ機械器具ノ購入費ヲ補助シ或ハ先進地方ヨリ熟達セル講師ヲ招聘シテ講習會ヲ開催シ製法ヲ習得セシムルト同時ニ販路ノ開拓擴張ヲ圖リ斡旋ヲナス等之ガ奬勵指導ニ大ニ努メタル結果漸次發達シ最近年產額三万余圓ニ達スルニ至レリ而カシテ現在最モ多ク製作サレツヽアルモノハ藁工品蚊具マニラ糸繼黍箒等ニシテ其ノ他自家用トシテノ製品ハ相當ノ額ニ上ルナランモ商品トシテ一般ニ取引サレツヽアルモノハ左ノ如シ

副業品生產額

大正十五年中

品名	從業戶數	從業人員數	生產額 數量	生產額 平均單價	生產額 價格	主ナル販路
黍簀	五〇	五〇	一〇、〇〇〇 本	七〇 錢	七、〇〇〇 円	長崎縣
蚊帳			一〇八、〇〇〇 個	六	六、四八〇	長崎縣、佐賀縣
上	二一〇	二五〇	四二、〇〇〇	一五	六、三〇〇	仝
簇			九〇、二 貫	一、〇〇〇	九、〇一〇	神戸、廣島
器						
マニラ糸繼	三七五	三七五	一五〇 足	六五	九八	市內
藤表	六	六	一〇 着	三〇〇	五七〇	仝
毛糸編物	七	七	一九〇			

草履、草鞋	八四	一〇〇	八〇、〇〇〇足	四	三、二〇〇	仝
其ノ他藁製品	一〇	一〇	?	?	二、一七〇	仝
紙袋	一五	一五	一、二〇、〇〇〇個	百枚 一五	一、八〇〇	仝
羊齒細工品	七四七	八一三	一、二〇〇	一五	一八〇	仝
計			?	一	三六、八一八	

從來本市ニ於テ奬勵セル副業ノ種類左ノ如シ

(イ) 藤製品バスケット

本市主催ノ下ニ大正十三年自五月十八日至六月十七日二十一日間進德幼稚園階上ニ於テ講習會開催シ十九名ノ修了者ヲ出セリ

(ロ) 藁細工

本市ニ於テハ大正十四年以來製繩製莚機ノ利用普及ヲ奬勵シ該機ノ購入費一部ニ對シ補助金ヲ交付シ生產能率ノ增進ニ努メツヽアリ

(ハ) 藤表

商業會議所主催本市後援ノ下ニ大正十四年自九月九日至仝月十五日七日間商業會議所ニ於テ講習會開催三十名ノ修了者ヲ出セリ爾來之ガ生產奬勵ニ努メ來タルモ販路開拓ニ困難ヲ感ジツヽアリ

(ニ) 黍箒

本市主催ノ下ニ大正十五年自八月八日至仝月十七日間講習生三十五名ノ豫定ニテ成德高女校舍ニ於テ講習會開催スベク講習生ノ募集ニ着手セシトコロ申込者豫想外多ク百三十名ノ多數ニ達シタルヲ以テ之ヲ六十五名宛甲乙ノ二組ニ分チ期間ヲ十四日間ニ延長シ甲組ヲ自八月八日至仝月十四日七日間乙組ヲ自八月十五日至仝月二十一日七日間講習セシメ百九名ノ修了者ヲ出セリ爾來市ハ原料ノ購入製品ノ販路擴張等ニ努力ヲ拂ヒツヽアルガ原料ノ供給ニ非常ナル困難ヲ感ズルヲ以テ之ガ自給自足ヲ圖ルベク黍ノ試作ヲナシ穫タル種子ヲ普ク無償配付スルト同時ニ市ハ係員ヲ黍ノ產地ルル栃木縣下ニ派シ之ガ栽培方法ヲ實地調査セシメ其ノ結果ヲ印制ニ附シ之亦無償ニテ配付シ黍ノ生產奬勵ニ努メツヽアリ

(ホ) 羊齒細工

本市主催ノ下ニ昭和二年自二月十八日至仝月廿八日十一日間吉永氏黍箒工場ニ就テ講習會開催シ十六名ノ修了者ヲ出セリ

(ヘ) 蠶具

市農會主催本市後援ノ下ニ昭和二年自五月十七日至仝月十八日二日間成德高女校舍ニ於テ講習會開催シ三十七名ノ修了者ヲ出セリ爾來本市方面事業期成會ニ於テハ貧困者救助ノ目的ヲ以テ此ノ事業ヲ直營トシ原料ヲ交付シ製品ハ相當ノ價格ヲ以テ同會ニ於テ引受ケテ販賣シ益々之ガ生產奬勵ニ努メツヽアリ

二、將來ノ副業奬勵方針

本市ハ副業發達上自然的恩惠ニ與カルコト薄シト雖モ他地方ニ比シ副業ニ對スル餘剩勞力多ク又購買力ニ富ム海軍鎭守府同工廠ヲ有スル等有利ナル條件ヲ具備セルヲ以テ本市ニ適スル副業ヲ調査研究シテ之ヲ奬勵シ金融ノ利便ヲ與ヘ共同仕入ノ方法等ニ依リ原料購入ニ對スル現在ノ不利不便ヲ除去スルト共ニ生產能率ノ增進ニ資スベキ施設方法ヲ講ジ更ニ販路ノ斡旋ヲナス等之ガ指導宜敷ヲ得バ相當發達スベシ

而シテ本市ニ適應セルモノト認メラレル副業ノ種類ヲ擧グレバ在ノ如シ

イ、手藝品　編物、刺繡、造化、子供服、エプロン

ロ、竹製品　笊、籠類

ハ、藁製品　莚、繩、飯櫃入、苞（酒、ビール、サイダー壜苞）

ニ、紙製品　紙函、紙袋（封筒、菓子及砂糖袋、祝儀袋）

ホ、農業用品　蠶網、上簇器

ヘ、一般家庭用品　黍箒、藤表、羊齒細工品、スレツパ、眞綿、絞染、鼻緒等

ト、其他農家副業トシテ蠶業、製茶、養鷄、養鯉、等有望ナルモノトス

右副業品中黍箒蠶網製繩等ハ奬來一層之ヲ奬勵スルト共ニ其ノ他一般副業品ト雖モ有望ト認メヲルモノヨリ順次大体左ノ方針ニ依リ之ヲ指導奬勵セムトス

副業組合ノ設立

本市現在副業狀況ヨリ觀テ共同組織ノ下ニ從事セシムルヲ有利ト認メラルヽヲ以テ副業組合ヲ設立シ資金ヲ豐富ニスルト共ニ大凡左ノ方法ニ依リ本市副業ノ發展ニ資セムトス

甲、共同組織經營

一般副業品ノ大量生產ト品質ノ改善統一ヲ圖ルニハ共同組織ノ下ニ經營セシムル方極メテ有利ナルヲ以テ可成之ニ依ラシムベシ

(イ) 共同作業場ノ設置

生產能率增進上共同作業場ノ設置ヲ奬勵シ各戶ニ於テ之ニ從事スルヲ有利トスル副業以外ハ總テ共同作業場ニ於テ生產ニ從事セシムルコト

(ロ) 原料共同購入

生產ニ要スル原料ヲ他ヨリ購入スル場合ニ於テ各個ニ購入スルハ生產費低減品質統一上不利益ナルヲ以テ可成之ガ共同購入ヲ行ハシムルコト

(ハ) 生產品ノ統一

副業品ハ概ネ各戶ニ於テ生產スルコト多キヲ以テ品質ノ不統一ヲ免カレズ依テ生產檢查ニ依リ生產品ノ撰別ヲナサシメ品質ノ改善統一ヲ圖ルコト

(ニ) 原料及製品貯藏場ノ設置

大量生產及大量販賣ヲ爲サムガ爲ニハ原料及製品ノ貯藏ヲ必要トスベク之ガ爲ニハ共同作業場ノ附屬トシテ貯藏場ヲ設置セシムルカ或ハ將來農業倉庫ノ設置ト相俟テ之ヲ利用スルモ可ナルベシ

乙、生產能率ノ增進

副業ハ概シテ生產能率上ラズ是レ本業ノ如ク直接生活ノ資ヲ得ルモノニアラズ又主トシテ手工ニ賴リ機械器具ヲ利用セザル關係等ニ歸因スト雖モ之ガ奬勵施設如何ニ依リテハ能率ノ增進望マレサルモノニ非ラザルヲ以テ今後左ノ方法ニ依リ生產能率ノ增進ニ努メムトス

(イ) 機械器具ノ購入奬勵

生產能率ヲ增進スルト共ニ品質ノ改善統一ヲ圖ルニハ器械器具ノ利用ニ俟ツコト多大ナルヲ以テ今後一層之ガ購入使用ヲ奬勵スルコト

(ロ) 講習會傳習會ノ開催

生產能率ヲ增進シ技術ヲ向上セシムル上ニ於テ副業從事者ニ對シ其ノ副業ニ關スル智識ノ普及涵養ニ努ムルコトハ最モ必要ナリ故ニ熟達セル講師ヲ招聘シテ講習會傳習會ヲ開催シ又副業組合等ヲシテ開催セシムルコト

(ハ) 共進會展覽會品評會ノ開催

共進會展覽會品評會ヲ開催シ副業製品ヲ一堂ニ陳列展示シテ從業者ニ刺激ヲ與ヘ技術ノ向上ヲ圖ルト共ニ一面一般市民ニ副業ニ對スル智識ノ普及ニ努ムルコト

(ニ) 競技會ノ開催

時機ニ應ジ製作競技會ヲ開催シ副業從業者ニ對シ刺激ヲ與ヘ趣味ヲ喚起スルト共ニ技術ノ向上ヲ圖ルベキコト

丙、副業品販賣ニ關スル奬勵

副業生產者ハ概シテ商取引ノ慣習ニ疎ク經濟界ノ事情ニ通ゼサルモノ多ク動モスレバ不正商人等ニ乘ゼラルヽガ如キコトナシトセズ故ニ市ニ於テ副業製品販賣上種々斡旋シ前述ノ弊害除去ニ努メムトス

(イ) 販路ノ維持及擴張

販路ヲ常ニ調査シ副業品ノ需要地ニハ豫メ見本ヲ送附シ又見本携帶出張シ取引開拓ヲ圖ル等販路ノ維持擴張ヲ常ニ怠ラザルコト

(ロ) 共同販賣

副業生產者ガ其ノ製品ヲ個々ニ販賣スルトキハ價格モ低廉ニシテ代金取立ノ如キモ往々意ノ如クナラザル場合ナシトセザルヲ以テ今後可成共同販賣等ノ方法ヲ講ズルコト

(八) 共進會展覽會品評會ニ對スル出品

各地ニ開催セラレル共進會展覽會品評會等ニ出品スルコトハ製品ヲ紹介宣傳シ販路ヲ擴張スル上ニ於テ其ノ効果極メテ大ナルヲ以テ極力出品奬勵ニ努ムルコト

第七、商工會議所

一、現況

(一) 沿革

從來本市ニ於テハ佐世保商業團ガ商工業ニ關スル公共的事業ノ機關トシヲ存立セシモ時代ノ趨勢ニ伴ヒ更ニ此ノ種機關ノ完備ヲ期スルタメ大正十四年一月十七日前記團体ノ廢止ニ前後シ、法ノ定ムル所ニ依リ佐世保商業會議所ノ設立ヲ見タリ。コレ商業會議所法改正後、現存ノ佐世保商工會議所ナリトス、目下假事務所ヲ佐世保市松浦町一番地ニ置ク。

(二) 組織

商工會議所法第十四條ニ定ムル所ノ選擧權者約九百人ノ負担スル經費ニ依リ維持セラル、モノニシテ其ノ組織ハ同法第十二條ニ規定スル議員總會ノ組成分子タル議員ニ依リ支持セラレ更ニ此等議員中ヨリ常務處決並ニ執行ノ機關トシテ會頭、副會頭ヲ含ム常議員九名ヲ有セリ

常議員ノ氏名左ノ如シ

會頭	川副綱隆
副會頭	田中規三
	坂本昌二
	北村伊之次
	三浦清
	齋藤源一
	青木榮藏
	西牟田房吉
	水頭次郎

(三) 經費豫算概畧

年々ノ豫算相異スル關係上實際支出經費ニモ年々又異ナレドモ大略其ノ總經費壹万圓程度ニテ其ノ使途ハ次ニ示ス目的ノ事業ニ當テリ

(四) 目的

會議所ノ目的トスル所ハ元ヨリ商工業ノ改善發達ニ在レドモ其ノ行フ所ノ事業ヲ示セバ

一、商工業ニ關スル通報
二、……仲介又ハ斡旋
三、……調停又ハ仲裁
四、……証明又ハ鑑定
五、……統計ノ調査及編纂
六、……營造物ノ設置及管理
七、其他商工業ノ改善發達ヲ圖ルニ必要ナル事業

而シテ會議所トシテハ右目的ノ達成ノ爲メ開設以來大ニ其ノ機能ヲ發揮シツヽアリ

二、將來ノ事業施設改善方針

(一) 商業上ノ問題

消費組合ノ發達又ハ中間商人ノ手ヲ省略シ生產者ヨリ直接消費者ヘノ移動ニ關スル經濟組織ノ變化ハ刻々ニ小賣商人ノ生活難ヲ招來セルノ事實ハ全國ヲ通シテ同一事情ニ存スルハ勿論ノ事ナルモ本市ノ如ク小賣商ヲ主トシテ立ツ都市ニ於テハ他ニ先ジテ此ノ問題ヲ解決スベキ必要アルヲ認メラル而シテ本市ノ最大消費者ノ地位ニ在ル海軍ノ關係團体ニ於テハ先年以來購入方法ニツキ團体ヲ綜合スルノ結果、大量購入ノ傾向ヲ帶ビ共濟組合モ亦其ノ方法ヲ新ニシテ大量的底徹的ナル方策ヲ講スルノ結果一層小賣商人ノ逼迫ヲ來スハ當然ナルヲ以テ商工會議所ノ重大事業トシテ其ノ方法ヲ研究スベキモノト思料ス

(二) 水產金融ノ研究

本市ハ全國ニ於テ有數ナル水產縣ノ一方ノ中心ニ位置スル都市トシテ好條件ヲ有スル事實ナルモ水產業ノ新方途ハ多ク他縣人ニ依ツテ先鞭ヲ着ケラレツヽアルハ遺憾ナリ而シテ其ノ自發的工夫ノ少キハ他ニ多クノ理由アリトスルモ水產金融ノ困難ナルニ依ルハ爭フベカラス而シテ水產金融ハ其ノ信用設定ニ困難ナルノ致ス所ナルヲ以テ此ノ設定困難ナル水產信用ヲ如何ニセハ流通信用ノ資料タラシメ得ルカノ研究ハ一ニ懸ツテ會議所ノ任務ニ屬スルヲ失ハスト信ス

(三) 交通開發ノ方策

平野ノ中心都市ナラザルハ生活消費ノ交流点トシテ惠マレザルハ當然ナリ從ツテ之ヲ補フモノハ交通ノ發達ニ在ルヲ以テ之カ一層ノ促進方策ヲ研究スヘキモノトスベシ

第八、工業

一、現況

本市ハ海軍ノ鎭守府設置ニ依リ急速ニ發展シタル關係上、由來消費都市トシテ甘ジ工業方面ハ餘リ顧ミラレザリシ傾向アリシモ市ノ膨張ト人口ノ增加ハ市民ノ覺性ト相俟ヲ漸次組織的工業ノ勃興ヲ促シツヽアルハ大ニ喜ブベキ現象ナリトス

(一) 工業戶數及從業員

本市ニ於ケル工業戶數ハ千四百三十九戶ニシテ之ニ從事スル職工徒弟等總テノ男女從業員ハ三千七百十九人ナリ而カシテ職工五人以上使用工場ハ七十六工場從業員千百八十一人ニシテ前年ニ比シ工場數ニ於テ十六工場從業員ニ於テ八十人增加シタルハ本市工場ガ漸次發展シツヽアルコトヲ證明スルモノナリ今之ヲ工業別ニ示セバ左ノ如シ

職工五人以上使用工場及從業員

種別	大正十四年				大正十三年				大正十二年			
	工場數	男	女	計	工場數	男	女	計	工場數	男	女	計
飲食物工業	二八	二三六	六三	二九九	二四	一八四	五七	二四一	一八	一四七	四七	一九四
纖維及染織工場	二	二	一八	二〇	二	二	二〇	二二	二	四	三〇	三四
化學工業	二	一六	〇	一六	二	一〇	四	一四	二	一九	六	二五
機械及器具工業	一〇	一〇三	〇	一〇三	九	九二	〇	九二	八	一二五	一	一二六
雜工業	三	二四一	四八一	七二二	三	一八九	五三〇	七一九	一五	一〇五	四八三	五八八
特別工業	一	一二	〇	一二	一	一三	—	一三	一	一五	—	一五
計	七六	六〇九	五六二	一二八一	六〇	四九〇	六一二	一、一〇一	四八	四〇五	五六七	九七二

(二) 職工賃金

大正十四年同十三年中ニ於ケル勞働賃金ヲ各種業態ニ就キ其ノ騰落ヲ比較シテ見ルニ大体ニ於テ異動ナク業態ニ

十七種ノ内前年ニ比シ低落セルモノ三種騰貴シタルモノ三種ニシテ保合タルモノ二十一種ナリ

職業別賃金表

種別	給別	大正十四年 最高	大正十四年 普通	大正十四年 最低	大正十三年 最高	大正十三年 普通	大正十三年 最低	大正十二年 普通
洋服職	日給	三、五〇 銭	三、〇〇 銭	二、〇〇 銭	三、〇〇 銭	二、〇〇 銭	一、五〇 銭	二、〇〇 銭
和服職	同	一、五〇	一、三〇	八〇	一、一〇	一、〇〇	八〇	一、〇〇
漆器職	同	二、五〇	二、五〇	二、〇〇	二、五〇	二、〇〇	一、五〇	—
洋傘職	月給	五〇、〇〇	三五、〇〇	二五、〇〇	三〇、〇〇	二五、〇〇	一五、〇〇	二〇、〇〇
大工職	日給	二、六〇	二、六〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇
石工職	同	三、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、五〇	二、〇〇	二、五〇
左官職	同	二、八〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、八〇	二、〇〇	二、七〇
瓦葺職	同	二、八〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、八〇	二、〇〇	二、七〇
煉瓦積職	同	三、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、八〇	二、〇〇	二、七〇
木挽職	同	三、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、八〇	二、〇〇	二、七〇
指物職	同	二、七〇	二、六〇	二、〇〇	二、六〇	二、六〇	二、〇〇	二、六〇
畳職	同	二、一〇	二、〇〇	一、八〇	二、〇〇	一、八〇	一、六〇	一、八〇
建具職	同	二、六〇	二、六〇	二、〇〇	二、六〇	二、六〇	二、〇〇	二、六〇
経師職	同	三、〇〇	二、六〇	二、〇〇	二、六〇	二、六〇	二、〇〇	二、六〇
菓子職	月給	五〇、〇〇	三五、〇〇	二五、〇〇	四五、〇〇	三〇、〇〇	二〇、〇〇	二五、〇〇 月
下駄職	日給	二、〇〇	一、七〇	一、五〇	二、〇〇	一、七〇	一、五〇	一、七〇
靴職	同	二、三〇	二、〇〇	一、八〇	二、三〇	二、〇〇	一、八〇	二、〇〇
革製造職	同	二、八〇	二、五〇	二、〇〇	二、八〇	二、五〇	二、〇〇	二、五〇
鋳物職	同	三、〇〇	二、八〇	二、〇〇	三、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、七〇
鍛治職	同	二、五〇	二、〇〇	一、五〇	二、五〇	二、〇〇	一、五〇	二、〇〇
綿打工	同	二、〇〇	一、五〇	一、〇〇	一、八〇	一、五〇	一、一〇	一、五〇 月
植字工	同	二、三〇	二、〇〇	一、五〇	二、一〇	二、〇〇	一、五〇	一、五〇 月
印刷工	同	二、五〇	二、〇〇	一、五〇	二、二〇	二、〇〇	一、五〇	二、〇〇 月
船大工	同	二、六〇	二、六〇	二、〇〇	二、六〇	二、六〇	二、〇〇	二、六〇 月
桶職	同	二、五〇	二、〇〇	一、八〇	二、八〇	二、〇〇	一、八〇	二、〇〇 月
酒杜氏	月給	一〇〇、〇〇	五〇、〇〇	三〇、〇〇	一〇〇、〇〇	五〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇 月
醤油杜氏	同	六〇、〇〇	五〇、〇〇	二〇、〇〇	六〇、〇〇	五〇、〇〇	二〇、〇〇	四三、〇〇 月

(三) 工場燃料

工場燃料中最モ主要ナルモノハ石炭ニシテ大正十四年中本市七十六工場ニ於ケル消費量ハ千三百八十六万二千七百三十斤ニシテ之ヲ業態別ニ示セバ左ノ如シ

工場石炭消費高

種別	大正十四年	大正十三年	大正十二年
飲食物工業	四、九八七、二一〇 斤	四、四七〇、九四〇 斤	五、一三四、〇〇〇 斤
繊維及染織工業	—	—	—
化學工業	一一三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
機械及器具工業	二一〇、一五〇	一六二、一〇〇	三三、〇〇〇
雑工業	—	—	—
特別工業	八、五二一、三七〇	八、七一四、一六〇	一一、七四〇、〇八〇
計	一三、八六二、七三〇	一三、五四七、三〇〇	一七、二五〇、〇〇〇

更ニ最新三ヶ年間ニ於ケル本市ノ石炭全消費量ヲ參考ノ爲メ示セバ左ノ如シ

最近三ヶ年間石炭消費量

年次	民用 公用	民用 雜用	民用 船舶用	工場用 雜用	合計	合計
大正十二年		二〇、〇〇〇斤	七、二七三、〇〇〇斤	一七、二五〇、〇〇〇斤	二八、八五八、〇〇〇斤	
大正十三年		一六〇、九〇〇	六、七四八、〇〇〇	一三、五四七、三〇〇	三九、〇四四、二〇〇	
大正十四年		一三〇、六〇〇	六、六七二、〇〇〇	一三、八六二、七三〇	四三、八九二、四七〇	

量最近三ヶ年間ニ於ケル種類別燃料消費及電力使用ノ狀態ヲ示セバ左ノ如シ

工場燃料及電力使用高

年次	石炭 コークス	石油 瓦斯	木炭 電力	備考
大正十二年	一七、二五〇、〇〇〇斤	一七一、〇〇〇立方呎	三、〇一〇貫	二四一〇一五、〇〇〇キロワット	四八工場
大正十三年	一三、四七、三〇〇	一、九五一、〇五〇	三、九一 石	二〇、二六八	一四〇、三七、一〇	六〇工場
大正十四年	一三、八六二、七三〇	二、〇八七、二五七	六九、三	一、八四五	二四、七四〇、一〇	七六工場

(四) 工場使用動力

本市工業戸數千四百三十九戸ノ内動力ヲ使用セルモノハ百八十四戸ニシテ各種原動機二百十二台七百四十八馬力ナリ

而シテ職工五人以上使用工場七十六工場ニ就テ見ルニ動力ヲ使用セルモノ四十九工場ニシテ原動機五十八台四百二十九馬力ナリ之ヲ前年比スレバ箇數ニ於テ一箇馬力ニ於テ十六五馬力ノ增加ニシテ其ノ詳細左ノ如シ

各種原動機

種別	大正十四年 箇數	大正十四年 實馬力	大正十三年 箇數	大正十三年 實馬力	大正十二年 箇數	大正十二年 實馬力
蒸汽機關	五	一二七、五	五	一二七、五	三	一〇二
蒸汽タービン	一					
瓦斯機關	二	二四、五	三	一七	三	一七
石油機關						
タービン水車						
ベルトン水車						
日本形水車						
電動機	五一	二七〇	五〇	二七一	四〇	二〇一
計	五八	四三	五八	四五、五	四六	三一〇

(五) 工産物生産額

本市ノ工業ハ遂年進展シツヽアリト雖モ未ダ概シテ幼稚ノ域ヲ脫セズ大正十四年中ニ於ケル總生産額五百十一万七千百七圓ニシテ人口十三万ヲ抱擁スル本市トシテハ誠ニ少額ト云ハザルベカラス

之ヲ工業別ニ見ルニ最モ優勢ナルハ飮食物工業ニシテ菓子醬油、酒ヲ主タルモノトシ生産額二百二十九万七千九百八十七圓ヲ算シ總生産額ノ約四割九歩ヲ占ム而シテ雜工業第二位ヲ占メ洋服、木製品、印刷及製本、疊ヲ主タルモノトシ百四十八万八百十九圓總産額ノ約二割九歩ニ相當シ機械及器具工業ヲ第三位トシ四十七万八千三百六圓化學工業ヲ第四位トシ三十四万七千八百三十圓特別工業ヲ第五位トシ二十六万一千五百四十六圓纖維及染織工業ヲ第六位トシ二十五万六百十九圓ナリ今品種別ニ示セバ左ノ如シ

工産物生産額

種別		製造戸數	從業員 男	從業員 女	從業員 計	生産額 數量	生産額 價格
酒類		二	二九		二九	一七九石	一七八、八六〇円
清酒		二	二九		二九	一〇〇石	六、〇〇〇
濁酒						七〇石	六、八〇〇
燒酎						一九四九石	一九一、六六〇
計		二	二九		二九	一九四九石	一九一、六六〇
ラムネ		二	二九	四〇	六九	一四六八、三六三本	二九、三五一
サイダー						三一〇、二三四本	三一、〇五六
シトロン						一二、五六三本	一、二五六
ネーブル						三、一三四本	三七六
清涼飲料水 計		七	二四	四〇	六四	一八三、一〇九本	四、五二五
果實蜜		七	二四	四〇	六四	一六、一〇四石	四五、六六九
醬油		三一	一〇〇	三	一〇三	一、〇三五石	一三、八七〇
酢		三	八	一	九	二〇石	一、二一一
ソース		一	一		一	二〇四四、六九一斤	一三三、七四六
味噌		一三	三三	一	三三	一八五石	六、四八五
調味料 計		一六	一三四	四	一三八	二〇四四、六九一斤	六一〇、九八一
糀		四八	一四三	一四六	二八九	六〇〇個	一五〇
即席カレー		一	一		一	二四、二八トン	一三八、九二四
氷		五	一五	一七	三二	九一五、七斤	二七、四七三
麵		一六	二二	二九	五一	?	六七
水飴		八	九	八	一七	?	?
飴						?	?
羊羹		二	二	一	三	?	?
煎餅		一八	三〇	三六	六六	一五四、六〇三斤	四六、三八一

種別		製造戸數	從業員 男	從業員 女	從業員 計	生産額 數量	生産額 價格
菓子		六五	一三四	一九	一五三	一四〇、〇〇〇斤	一〇五、〇〇〇
カステーラ						一〇〇、〇〇〇斤	五〇、〇〇〇
マルボーロ						?	一三、九七一
生菓子		二三	二〇九	四三	二五二	?	五四五、四九二
其他		一九四	一一二	一五八	二七九	?	二三二、四六一
計		一九四	一一二	一五八	二七九	?	二八七、八六六
餅饅頭		一九四	一一二	一五八	二七九	?	一、八四〇
饅頭						?	五一〇
餅						?	五、〇六三
米粉						九〇〇斤	九〇〇
小麥粉						三〇、〇〇〇斤	二、一〇〇
蕎麥粉						二、五〇〇斤	二五〇
黄粉						六、二五〇斤	六二五
芋粉						一〇四、七八七石	一〇、六六三
其他粉						一、一九〇石	二五、七〇〇
製粉 計		二	六	六	一二	一〇四、七八七石	一〇、六六三
餡粉		二	六	六	一二	一、一九〇石	二五、七〇〇
燒麩		四	一〇	一	一一	?	一六、〇〇〇
生麩		四	九	三	一二	?	一〇、六五〇
麩 計		四	九	三	一二	?	二六、六五〇
素麵		四	九	三	一二	?	一二、九
乾饂飩		三三	五一	二五	七六	?	六八、六二四
玉饂飩蕎麥		三三	五一	二五	七六	三、八一七、四四三玉	二一、四二四
麵類 計		三三	五一	二五	七六	?	一一六、七八七
豆腐		七七	七三	七二	一四五	八九四、二〇〇丁	二八、九一八
蒟蒻		七	一三	五	一七		

種別	製造戸數	從業員 男	從業員 女	從業員 計	生産額 數量	生産額 價格
漬物 細煮類 澤庵				三〇	二八一、三七五斤	一四、一五〇円
大根粕漬					一一六、四六〇斤	一三、八一六
奈良漬					五六四、〇〇斤	一九、六七〇
菜漬					一四二、五〇〇斤	七、一四〇
梅漬	一四	二六	四	三〇	五、〇〇〇斤	八〇〇
其ノ他					四五、〇〇〇斤	八、二二〇
佃煮					一八、七〇〇斤	五、三七七
計	一四	二六	四	三〇	六六五、四三五斤	六九、一七三
精穀 精米麥	五〇	一〇〇		一〇〇	二五二、〇〇〇俵	五〇、四〇〇
燻肉 ハム	一	一		一	一〇貫	一〇〇
バーコン					五貫	三五
計					一五貫	一三五
合計	五五七	八三八	三五五	一、一九三	?	二三九七、九八七
製綿 打綿	八	八	一八	二六	一〇九、七五〇斤	七八、八五〇
同(古綿賃)	二九	一四	三〇	四四	一二一、七二五斤	九、七三八
計	三七	二二	四八	七〇	二三一、四七五斤	八八、五八八
織物 絹織物	一		一	一	三七反	五五八
絹綿交織物					八反	六八
綿織物	二		三	三	七一九反	二、〇六二
計	三		四	四	七六四反	二、六八八
染物					七、九六七反	一四、八二〇
洗張					六二、三八〇反	二八、〇五五

種別	製造戸數	從業員 男	從業員 女	從業員 計	生産額 數量	生産額 價格
繊維及染織工業 染色 紋書					二、〇七五反	二、九四七
幟及旗					一〇、九二〇流	九、二七五
風呂敷	四七	六七	二〇	八七	二、三八五枚	一、七三六
印伴天					三、八五三枚	七、五〇八
帽子染直					二、二五〇個	一、六三八
其ノ他					六〇四	六〇四
計	四七	六七	二〇	八七	九二、四三四	六六、五八三
莫大小 靴下	五	五	一九	二四	二六、九六〇打	五三、五三九
手袋					六〇〇打	九〇〇
計	五	五	一九	二四	二七、五六〇打	五四、四三九
刺繍 衣紋其ノ他	二	一	二	三	?	一、五四四
毛糸編物 ジャケツ其他	三	一	五	六	一、二五〇枚	三、八九七
洗濯 和洋服類其他	一八	四五		四五	一六四、四〇〇枚	三二、八八〇
合計	一一五	一四一	九八	二三九	?	二五〇、六一九
陶磁器及土器 盃	六	九	五	一四	二一五、〇〇〇個	一二、九〇〇
土管					八、〇〇〇本	二、四〇〇
硬器					一、〇〇〇個	八〇〇
植木鉢	一	五		五	二、〇〇〇個	一、二〇〇
七輪					二、〇〇〇個	四〇〇
計	七	一四	五	一九	二三、〇〇〇本	一七、七〇〇
セメント製品 土管					一、七〇〇本	三、二三五
下水蓋					一、九七〇	一、八一五
土台石	三	九	五	一四	四〇〇	四五二
其ノ他雜品						二三、〇〇二
計	三	九	五	一四	?	二八、五〇四

種別		製造戸數	從業員 男	從業員 女	從業員 計	生産額 數量	生産額 價格
化學工業	漆器	一	一		一	?	一、五〇〇円
	脂肪油及油糟 椿油					二、一六〇	八、七一〇
	脂肪油及油糟 仝糟	六	六		六	一〇、六五〇斤	四二六
	脂肪油及油糟 菜種油					七五斤	五六
	脂肪油及油糟 胡麻油					五〇斤	七五
	計	六	六		六		九、二六七
	石鹼 化粧石鹼					二四一、九七〇個	三六、四四六
	石鹼 洗濯石鹼					六一一、八九二瓩	一二一、五〇八
	石鹼 工業用石鹼	三	二三	六	二九	一三八、六一六瓩	五七、八七七
	石鹼 油脂製品					六二、一〇〇瓩	一八、六四〇
	計	三	二三	六	二九		二三四、四七一
	蠟燭 和蠟	一	一		一	一〇〇斤	五五
	製藥 賣藥	一四	一五	八	二三	?	一八、五七四
	線香	二	一	四	五	二、四一〇九	二、一〇〇
	寫眞 寫眞	一七	三五		三五	一九、八四三枚	三五、六五九
	合計	五四	一〇五	二八	一三三	?	三四七、八三〇
	金屬製品 金銀細工品	一一	二三		二三	?	三八、三四八
	金屬製品 萬能定規	一	一		一	二、〇〇〇個	一、〇〇〇
	金屬製品 ギムネ	一	二		二	六〇〇本	一、一四〇
	金屬製品 刄物及農具	六	一四		一四	三、八一〇個	七、九六〇
	金屬製品 亞鉛及賦力細工品	四五	六六	一	六七	?	六九、六七四
	金屬製品 金鋼細工品	四	四	一	五	?	二、六九〇

種別		製造戸數	從業員 男	從業員 女	從業員 計	生産額 數量	生産額 價格
機械及器具工業	鐵	二	二		二	五四〇	一、六二〇
	鐵 其ノ他鐵工品	三五	一六三		一六三	?	二五九、九三四
	計	一〇五	二七五	二	二七七	?	三八二、三六〇
	船舶 和船	四	八		八	九雙	六、一〇〇
	船舶 各種船(修理)					?	五、六〇〇
	計	四	八		八	?	一一、七〇〇
	車輛 荷車荷馬車	七	一八		一八	?	二三、四七四
	車輛 水車					一	二四〇
	車輛 人力車(修理)	一	一		一	?	一、〇〇〇
	車輛 自轉車(修理)	二二	三七		三七	?	三、九六〇
	計	三〇	五六		五六	?	二八、六七四
	樂器 尺八	五	七		七	七〇本	一、四〇〇
	樂器 琴					三六	一、六八〇
	樂器 三味線					四〇	七六〇
	樂器 各種(修理)					?	三、七二六
	計	五	七		七		七、五六六
	時計 時計(修理)	四〇	一二〇		一二〇	?	四八、〇〇〇
	合計	一八四	四六六	二	四六八	?	四七八、三〇六
	印刷及製本 印刷	二五	一三三	九	一四二	?	一〇〇、六五〇
	印刷及製本 製本					?	一三、五三〇
	計	二五	一三三	九	一四二	?	一一四、一八〇
	紙製品 紙箱	一四	一八	一六	三四	一九七、三〇〇個	一〇、九六〇
	紙製品 扇子及團扇	二	二	八	一〇	八一、〇〇〇個	六、五〇〇
	紙製品 兩傘	一〇	一二	四	一六	六、三二二個	一〇、九八五
	紙製品 提灯	一三	一八	五	二三	一九、七二〇個	一四、二五〇

種別		製造戸數	從業員 男	從業員 女	從業員 計	生産額 數量	生産額 價格
製材	屏風襖額	一五	二四		二四	?	二一、一八五円
	軸物類	五四	七四	三三	一〇七	?	六三、八八〇
	計	七	二三		二三	?	八五、九二〇
	製材	六八	一六六	一	一六七	?	一〇五、五二五
	指物	二七	四〇		四〇	?	九六、七一二
	建具	二	六		六	一一、二八四個	四二、〇四一
	桶樽飯櫃盥類	二	五	一	六	二、五〇〇個	三、七五〇
木製品	菓子形	二〇	三二		三二	二九二、八八四個	四八、二七五
	魚箱	一一九	二四九	二	二五一	?	三一、五〇七
	其ノ他雜品	四	三	一	四	三三〇個	三二七、八一〇
	計	二		二	二	七、三二〇個	五〇〇
竹製品	鳥籠	二五	三九	〇	三九	五八、七二五個	六一二
	蜜柑籠	三一	四二	三	四五	六六、三七五個	二六、九九二
	ザル其他雜品	二	二	三	五	三三五個	二八、一〇四
	計	一七	四二		四二	五、〇〇〇足	三、三四八
藤製品	椅子バスケット乳母車其他	四	七		七	?	六四、四九四
	靴	一	一		一	?	五、二九六
皮革製品	鞄	二二	五〇		五〇	?	三、二〇〇
	馬具其ノ他	四七	一七一	四五八	六二九	一五、七二二着	七二、九九〇
	計	三七	三六	三二	六八	?	四四三、七九八
洋服	洋服						
綿製品	シャツズボン足袋腹掛エプロン其ノ他裁縫品						五〇、九九一

雜工業							
帽子	羅紗帽子	一二	一七	一六	三三	三、八九〇個	五、四九〇
	海軍帽改造					二四、九六〇個	八、九三二
	麥稈帽子(貫)	一二	一七	一六	三三	一三、二〇〇個	三、五六〇
	計	三二	四六		四六	四二、〇五〇足	一七、九八二
履物	下駄	五	五	五	一四	一三五、二四〇足	四一、八五五
	麻裏草履	二	一	二	三	二六、三〇〇足	一四、六〇〇
	同裏付(貫)	三九	五一	一一	六三	五、四〇〇足	一、九八〇
	計	二	八		八	一六六、九四〇本	五九、四三五
洋傘	絹張	二	八		八	一、〇〇〇本	七、〇〇〇
	朱子張					二、〇〇〇本	六、〇〇〇
	計	三一	六二		六二	三、〇〇〇枚	一三、〇〇〇
疊	疊及疊床					一〇、九九〇枚	三二、九七〇
	表替	三一	六二		六二	一〇七、一五〇枚	三七、四二四
	計	三	五		五	一一八、一四〇枚	七〇、三九四
	武具	一四	三〇		三〇	?	四、九〇〇
	石製品	一	五		五	?	二二、七五〇
	粹玉石製品	五	一〇		一〇	?	二、六〇〇
	看板	二	二		二	?	九、五八〇
	天幕	二	二一		二一	?	四、五六〇
	印判	七	一四	一	一五	?	一七、七一五
	佛具	一	三		三	六、三九〇打	九、二二五
	鉛筆	一	一		一	三〇〇打	二、〇九四
	万年筆	四	六	三	九	?	一、五〇〇
	造花	九	八	四	一二	?	三、〇四〇
	煉炭					?	六、七一九

種別	製造戸數	從業員 男	從業員 女	從業員 計	生産額 數量	生産額 價格
雜品 繩	七戸	六人	一〇人	一六人	二七七、二〇〇斤	七、一四六円
雜品 セイロ	二	二	一	三	?	一、四一〇
雜品 下駄鼻緒	二	二	二	四	二六、〇〇二組	三、九〇〇
雜品 万年火吹	一	一	二	三	三〇〇組	二一〇
雜品 靴敷皮	二	一	六	七	六、〇〇〇足	二、八二〇
雜品 鼈甲細工品	一	一	三	四	?	四、一〇〇
雜品 カモジ類	四	五	二	七	一五、〇〇〇本	二、二七九
雜品 竹箒	一	一	一	二	一、〇〇〇本	四、三〇〇
雜品 寄セ釣器	一	一	一	二	一、〇〇〇	一八、〇八九
雜品 其ノ他雜品	一九	一八	一〇	二八	?	一二九、九八七
計	五二八	一〇六二	六一三	一、六七五	八五、五一六、〇〇〇立方吹	一四八〇、八一九
瓦斯	一	一	一	二	二、三四瓲	二六、五五〇
瓦斯コークス	一	一	一	二	一、一九七石	八、三七九
瓦斯コールタール						
計	一	一	一	二	二、三四瓲	二六、五五〇
合計	一四三九	二、六二三	一、〇九六	三、七一九	?	五一七、一〇七

備考 本表ノ外ニ舊日宇村八七、一七八圓舊佐世村二三、六七五圓ノ生産額アリ

本市産物ニシテ生産價格拾万圓以上ノモノハ菓子、醬油、洋服、木製品、餅饅頭、瓦斯、鐵工品、石鹸、清酒、燒酎、氷、味噌、印刷及製本ノ拾二品種シテ製造戸數五百八十三戸從業人員千九百四十五人生産價格三百三十九万五千九十六圓ニシテ本市總生産價格ノ六割五分强ニ相當セリ今大正拾四年中ニ於ケル統計ヲ示セバ左ノ如シ

生産價格拾萬圓以上ノ生産物

品目	製造戸數	從業員	生産額 數量	生産額 價格
菓子	一二三戸	二五二人	?	五四五、四九二円
醬油	三	一〇三	一六、一〇四石	四五五、六六九
洋服	四七	六一九	一五、七三三	四四三、七九八
木製品	一二九	二五一	?	三二七、八一〇
餅饅頭	一九四	二九七	?	二八七、八六六
瓦斯	一	一二	?	二六一、五四六
鐵工品	三五	一六三	?	二五九、九三四
石鹸	三	二九	七七五、九二三瓲	二三四、四七一
清酒	二	二四	一、九四九、六七〇石	一九一、六六〇
燒酎	一	一	二、二四八噸	一三八、九二四
氷	一	一三	二、〇四四、六九一斤	一三、七四六
味噌	一三	三三	?	一一四、一八〇
印刷及製本	二五	一四二	?	三、三九五、〇九六
計	五八三	一九四五	?	三、三九五、〇九六

(六) 工産物販路

本市ノ生産工業ガ未ダ幼稚ノ域ヲ脫セザル關係上他地方ヘノ移出モ極メテ少ク大正十四年中ニ於ケル移出總額ハ百拾八万三百六十圓ニシテ飲食物工業品六十三万八千百六十八圓織維及染織工業品五万三千五百七十三圓化學工業品二十二万五百九十五圓機械及器具工業品二十万三千百六十五圓ナリ而シテ移出ノ主ナルモノハ石鹸ノ二十万七千八百八十三圓ヲ首位トシ醬油ノ二十万二千九百九十三圓菓子拾一萬四千七百五十九圓氷ノ拾萬八千百八十七圓酒ノ八萬八千八圓等之ニ次ゲリ又移出先ノ主ナルモノハ縣内ニ於テハ北松浦郡ノ